
プリキュアオールスターズ×逃走中～水面に眠る海神～

リリカルショーバイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

プリキュアオールスターズ×逃走中〜水面に眠る海神〜

【Nコード】

N4811N

【作者名】

リリカルシヨールバイ

【あらすじ】

プリキュアに選ばれし中学生18人が、ダイビングが盛んな広大なビーチを有するとある港で、恐怖の逃走劇に巻き込まれる！

120分間逃げ切り、賞金を獲得する者は果たして現れるのか！？

逃走者紹介& a m p・キャラクター設定（前書き）

逃走中小説第2弾です

本来の作品とキャラの設定が異なりますが、どうぞご了承ください
実際の逃走中と何度も照らし合わせて、何とかキャラを練り上げました

名前の横の><内の色は、そのキャラのイメージカラー（言わばテロップがあつた場合の文字の色）を表しています

ミッションがかなりオリジナリティーに欠けるかもしれませんが、
前作同様温かい目で読んでいただければ幸いです

逃走者紹介& a m p・キャラクター設定

美墨なぎさ>赤<

ベローネ学院女子中等部3年生

足が速くミッションにも積極的だが、それがマイナスイメージを生む事も

雪城ほのか>空色<

ベローネ学院女子中等部3年生

お淑しとやかな第一印象とは裏腹に、結構足は速い

九条ひかり>黄緑<

ベローネ学院女子中等部1年生

ミッションには全て立ち向かう意気込みあり

日向 咲>青緑<

夕凧中学校2年生

瞬発力には絶対の自信を持つ

美翔 舞>藍色<

夕凧中学校2年生

ハンターにも勝る、底なしの持久力を具そなえている

夢原のぞみ>赤紫<

サングルミエール学園2年生

1位2位を争うほど足が遅いが、行動的である

夏木りん>茶色<

サングルミエール学園2年生

かなりの怖がりだが、瞬発力も行動力もピカイチで、逃走成功の大本命

春日野うらら>黄色<

サンクルミエール学園1年生

積極的であるが、運があまり無い

秋元こまち>緑<

サンクルミエール学園3年生

肝っ玉が大きく、（恐らくカチューシャ繋がりで）美希と行動する事が多い

水無月かれん>青<

サンクルミエール学園3年生

かなり行動的だが、ミッションには結構消極的

美々野くるみ>紫<

サンクルミエール学園2年生

ハンターにビビりまくりで、ミッション参加者を「偽善者」と罵る事も

桃園ラブ>ピンク<

四つ葉中学校2年生

ミッションには絶対参加せず、自首する気満々らしい

蒼乃美希>水色<

鳥越学園中等部2年生

運動神経抜群で、（恐らくカチューシャ繋がりで）こまちと行動する事が多い

山吹祈里>オレンジ<

白詰草女子学院中等部2年生

近かるうが遠かるうが、ミッションには必ず参加するつもり

東 せつな>黄赤色<

四つ葉中学校2年生

足は結構速いが、相当なビビリである

花咲つぼみ>桜色<

明堂学園2年生

瞬発力も持久力も運も全く無い

来海えりか>アクア色<

明堂学園2年生

金にかなり貪欲どんよくな為、自滅する事も

明堂院いつき>山吹色<

明堂学園2年生

りんに次ぐ足の速さで、行動的でもある

逃走者紹介& a m p・キャラクター設定（後書き）

こんな感じですが、いかがでしょうか？

それぞれのキャラクターへのメッセージをお願いします

「 頑張れ！」とか「 早く捕まってくれ！」とか何でも結構です！

それと・・・くるみやラブが好きな方、悪者キャラにしてみました
本当にゴメンなさい（TーT）

招待状（前書き）

まだまだ更新は滞りとどまがちになります。9月末からはスムーズに更新
出来ると思います。ご了承くださいm（――）m

招待状

今回の逃走中に参加する事となる18人。

ゲーム開始前日、彼女達の許に招待状が届けられた・・・

桃園あゆみ「ラブ？せつちゃん？」

ラブ「何、お母さん？」

せつな「ものすごく珍しい物を見る様な顔をしてるけど・・・」

あゆみ「これ、2人宛ての手紙なんだけど」

ラブ・せつな「？」

2人はその2通の封筒を手についた。そこには・・・

ラブ「『逃走中』？」

せつな「何処かで聞いた様な・・・」

秋元まどか「こまち？」

こまち「どうしたの、お姉ちゃん？」

まどか「この手紙、あんた宛ての物なんだけどさ」

こまち「『逃走中』・・・？何かしら・・・？」

藤田アカネ「ひかり、何それ？」

ひかり「今朝ポストに入ってたんです。私宛てみたいで・・・」

アカネ「『逃走中』・・・？それってまさか・・・」

ひかり「アカネさん、知ってるんですか？」

アカネ「まあ・・・テレビで見た事あるから・・・でもこれって、芸能人だけしか参加出来なかった筈はずだけど・・・」

日向みのり「お姉ちゃん、テレビに出るの？」

咲「そんな訳無いじゃん。でも・・・逃走中ってあの逃走中だよね？」

みのり「だよね・・・」

咲「一般の人も参加出来る様になったとか・・・な訳無いか」

みのり「もしそうだったら、応募が殺到しちゃうよ」

来海ももか「とりあえず読んでみたら？」

えりか「うん、そうだね」

封筒を開け、中の手紙を読む。

えりか「えつと・・・何何？」

舞「『あなたは逃走中のプレイヤーに選ばれた』・・・えつ！？私
が！？嘘でしょ！？」

なぎさ「『これは120分間ハンターから逃げるゲーム』・・・1
20分って長くない？」

美希「『最後まで逃げ切れば、賞金72万円』！？すごい金額・・・
！」

のぞみ「『参加するなら、明日午前11時頃に送迎に来る車に乗り、
ここに集合せよ！』・・・ここ？何処？あつ・・・」

招待状には、エリアとなる場所の地図が併記されていた。

祈里「ここって、最近出来たばかりのビーチがある港だよね？」

いつき「何でも、ダイビングが盛んだとか・・・」

かれん「でも、何でこんな所で？」

うらら「車に乗る以前に、参加するか否かでしょ……？」

くるみ「あまりにも怖いのは嫌なのよね……」

ほのか「面白そうね。是非とも参加したいわ」

りん「やってやろっじゃん！」

つぼみ「どうしよう……？」

おのおの
各々の思いを口にし、その日は終わった。

翌日

つぼみは自宅前で送迎の車を待っていた。

つぼみ「逃走中……人気あるのは知ってるけど……あれって芸能人だけのもの筈……なのに、何で一般人の私が……？」

突然届いた招待状に関して、未だに疑問を抱いていた。

とその時……

えりか「つぼみ！」

隣に住むえりかが、家から出て来るや否や、つぼみの許に駆け寄って来た。

つぼみ「えりか！」

えりか「どうしたの、つぼみ？こんな休日に、家の前でそわそわしちゃって・・・」

つぼみ「い・・・いえ・・・だから、これは・・・つまり、その・・・」

えりか「ひょっとして・・・」

つぼみ「はい・・・？」

えりか「この事？」

えりかがポケットから出したのは、紛れも無くつぼみにも届いた逃走中の招待状だった。これにはつぼみも動揺を隠せない。

つぼみ「えっ！？えっ！？な・・・何でえりかの所にも！？」

えりか「やつぱりそうだったんだ・・・実はね、いつきの所にも招待状来たんだって」

つぼみ「えゝ！？何ですかゝ！？」

すると、送迎の車と思われる黒い大きなワゴン車が2人の前で止まった。ドアが開くと、中から黒のスーツにサングラスと言う出で立ちの、ハンターを彷彿させるSPと思わしき男が降りてきた。

男「花咲つばみ様、来海えりか様・・・ここにおられるという事は、逃走中へのご参加を決定されたと見^{みな}做して宜しいですね・・・？」

つばみ「は・・・はい・・・」

えりか「当たり前じゃん！賞金獲って帰って来るつもりだもん！」

男「ご参加を表明していただき有難う御座います・・・どうぞ中へ・・・既に他の参加者が乗車されております・・・」

つばみは唾を飲み込み、えりかは自信に満ちた表情を浮かばせて乗車した。そこには・・・

つばみ「えっ・・・？」

えりか「あっ・・・！」

フェアリーパークで出会った15人のプリキュア達と同士のいつきが乗っていたのだ。更に彼女達は、派手な色の衣装を身に付け、頭には某サツカーメーカーのヘッドギアが巻かれ、両手にはハーフグローブが嵌^はめられ、肘^{ひじ}と膝^{ひざ}にはサポーターが取り付けられ、左の二の腕には携帯電話を入れた小型ポケットが装着されていた。

つばみ「ど・・・どういう事ですか！？み・・・皆さんにもあの招待状が届いたんですか！？」

ラブ「うん、そうだよ」

のぞみ「面白そうだったし、やってみる価値はあるかなと思ってさ」

なぎさ「でも、まさかプリキュア且つ中学生が全員逃走中に招待されるとはね」

咲「こっぴつのを奇遇って言っただよね」

えりか「それはいいけど・・・まさか皆・・・その格好で来た訳じゃないよね・・・？」

うすら「当たり前でしょ」

ひかり「私達がこんなヘッドギアやサポーターを持ってる訳無いじゃないですか」

えりか「だよね・・・？だとしたら何で・・・？」

ほのか「あそこに更衣室があるの分かる？」

つぼみ「更衣室ですか？」

ほのかが指差す車の後方には、確かに更衣室と書かれた部屋がある。

くるみ「何か良く分かんないんだけど・・・そこに私達の名前が書かれた籠かごがあつて・・・」

せつな「そこにこっぴつのが入ってたのよ」

舞「それに着替えてくれって言われたから・・・」

りん「ハッキリ言っただけじゃないよね、この衣装。普段こんな派手

な色の服なんて滅多^{めった}に着ないからさ・・・」

かれん「それはそうと、2人とも早く着替えてきなさい」

こまち「到着したら、すぐにゲームが始まるみたいだし・・・」

えりか「はっ！そうでした！つぼみ、早く着替えるよ！」

つぼみ「ええっ！？ちょ・・・えりか！」

えりかはつぼみの手を引いて更衣室内へと消えていった。

いつき「あの2人・・・ゲーム直前だけど、大丈夫かな・・・？」

祈里「自滅しなきゃいいけど・・・」

美希「何か心配ね・・・」

数分後、2人は着替え終わり、更衣室から出てきた。

えりか「こうやって改めて着るとき、やっぱり派手だね、これ。目立ち過ぎじゃん」

つぼみ「ホントですね・・・周りから変な眼で見られそうです・・・」

「

ゲーム開始5分前・・・

男「目的地に到着しました・・・どうぞ・・・」

逃走者達は車のドアを開き、一斉に降りる。

なぎさ「しかし暑いね。夏真っ盛りだよ。120分持つかない？」

咲「持たなきゃダメでしょ？でも熱中症には気を付けないといけませんね」

のぞみ「それにしてもさ、ここ何処？」

ラブ「エリアの中である事は間違いないらしいけど・・・」

つぼみ「かなりの殺風景ですね」

彼女達が辿り着いたのは、エリアとなる港の高台にある広大な駐車場だった。

男「ここでオープニングゲームが行われます・・・」

ほのか「ここで？」

舞「でも、ボックスもスタート地点も見当たらないわ」

せつな「あれじゃない？」

せつなが、その強い視力でハンターボックスを見つけた。逃走者はスタート地点に足を運ぶ。

彼女達の視線の先には、サングラスに黒スーツという出で立ちのハ
ンターが4体、近未来的で電飾が施してある観音開きのボックスの
中に収納されている・・・門も木製かんぬきでは無く貴金属製である。

うらら「テレビで見るのと全然違う・・・!」

ひかり「更なる恐怖を演出してる感じ・・・!」

「これより、ゲームを始める・・・」

何処からか不気味な低い声のアナウンスが聞こえる。その瞬間、
8人に緊張が走る。1

遂に始まるプリキュア達による逃走中。その結末はいかに!

招待状（後書き）

次回、逃走中恒例の緊迫のオープニングゲーム開始！

逃走者達の運はいかなるものなのか！？

緊迫のオープニングゲーム（前書き）

逃走者達の運が試されるオープニングゲーム！

果たして、ハズレを引いてしまうのは誰なのか！？

緊迫のオープニングゲーム

「これより、ゲームを始める・・・」

不気味な低い声のアナウンスが聞こえると、18人に緊張が走る。

「君達の前にいる4体のハンターは、ボックスの中に閉じ込められている・・・」

目の前にある色分けされた鎖は全部で18本・・・

その内1本だけが、ボックスの扉を開放するハズレの鎖・・・それを引くと4体のハンターが解き放たれ、ゲームがスタートする・・・」

アナウンスが終わると、18人は一斉にざわめく。

ハンターまでは25m。逃走者は1人ずつ鎖を引き抜かなければならない。ハズレを引けば、ハンターが目の中の逃走者に襲い掛かる。更に、ハズレ以外の17本の内5本は、ハンターボックス前進スイッチとなっており、これを引くとハンターボックスがオープニングゲーム装置と共に3m前進し、逃走者との距離が縮まる様になっている。

ひかり「はい。16番・・・遅い・・・」

舞「えっ・・・！？1番・・・！？嘘っ」

美希「11番・・・回ってきたら、確実にハズレ引くわね・・・」

りん「おっ・・・8番だ・・・」

つぼみ「7番ですか・・・いいと思うんですが・・・」

鎖を引く順番は、事前に行ったくじ引きにより既に決定している。

1人目・美翔 舞

くるみ「何色？」

舞「じゃあ・・・黄緑を」

なぎさ「何で？」

舞「自然に近い色なんで」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

舞「行きます！」

ジャラッ！

シーン・・・

美翔 舞 クリア

ゴゴゴゴゴゴゴ

のぞみ「何？この音？」

舞「キヤー！ハンターボックスが動いてるー！」

舞以外「ええゝ!？」

舞が引いた黄緑は、ハンターボックス前進スイッチの1つだった。
これで、ハンターとの距離は22mに縮まった。

咲「まーいー! (怒)」

舞「ゴメンなさゝい!」

無事に鎖を引き抜いた逃走者は、ハンターから離れた場所でスタート出来る。

舞「ゲーム開始前から早々に^{ひそひそ}颯颯買っ様な事しちゃった・・・どうしよう・・・?でも今は、エリアの下見の事で頭がいっぱい・・・!」

残る鎖は17本

2人目・春日野うらら

うらら「それでは・・・無難に黄色を」

いつき「無難かどうかは、引くまで分からないのに・・・」

クリアか・・・?ハンター放出か・・・?

うらら「引きます!」

ジャラッ!

シーン・・・

春日野うらら クリア

うらら「ハンターボックスが動く気配も無い・・・！完全にセーフだ・・・！わくわく！」

残る鎖は16本

3人目・桃園ラブ

ラブ「これね・・・ホントに考え様がないよね・・・」

ほのか「じゃあ、何色にするの？」

ラブ「何色にするも何も・・・理由付けられないし・・・」

美希「つべこべ言わずに、早く選びなさいよ・・・！」

かれん「皆待ってるわよ？」

ラブ「じゃあ、もういいや。ホントに勘で・・・ピンク！」

せつな「完全に訳ありじゃない・・・全然勘じゃないし・・・」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

ラブ「行くよ！」

ジャラッ！

シーン・・・

桃園ラブ クリア

ラブ「ボックスも動いてないね。あの変な音も無いし・・・よしっ！この調子で、幸せゲットだよ！」

残る鎖は15本

4人目・来海えりか

つぼみ「何色にするんですか？」

えりか「全部危険な臭いがする色しか残って無いんだよね・・・」

こまち「でも、ハズレは1本だけよ？」

祈里「ボックスが前進してくるのは4本あるけど・・・」

えりか「じゃあこれ！グレー引くよ！」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

えりか「せーの・・・」

ジャラッ！

シーン・・・

来海えりか クリア

ゴゴゴゴゴゴ

つぼみ「この音って・・・もしか・・・！」

えりか「ハンターボックスが前進しちゃったー！」

残りの逃走者「やつぱりー！？」

これで、ハンターとの距離は19mに縮まった。

つぼみ「えーりーかー！（怒）」

えりか「アハハハハ！ゴメンねー！」

いつき「全然謝る気無いじゃん！（怒）」

無事に鎖を引き抜いた逃走者は、ハンターから離れた場所でスタート出来る。

えりか「あんな事言われたって・・・どれがハズレでどれがスイッチかなんて分かる訳無いじゃん・・・！兎に角、ゲームが始まるまでしっかり下見しておかなくちゃ・・・！」

残る鎖は14本

5人目・水無月かれん

こまち「何色引くの？」

かれん「エリアである港に海があつて、快晴の今日は雲一つ無い空があつて、水のプリキュアである私がここにいて、引くのはこれしかないでしょう・・・青！」

咲「3重のこじ付け・・・」

なぎさ「有り得ない・・・！」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

かれん「引くわよ！」

ジャラッ！

シーン・・・

水無月かれん クリア

かれん「ボックスが動く様子は無いわね・・・」

残る鎖は13本

現在スタート地点に残っている逃走者は、りん・のぞみ・祈里・ひかり・くるみ・こまち・なぎさ・美希・ほのか・咲・せつな・つぼみ・いつきの13人。

ハンター放出と早期確保の危険性は徐々に高まる。

緊迫のオープニングゲーム（後書き）

次回から愈々ゲームがスタート！

オープニングゲームでハンターの餌食となるのは果たして誰なのか！？

そして、逃走者達の心の内は！？

ゲームスタート！（前書き）

遂にハンターが放出され、ゲームがスタートする！

4体のハンターの餌食となってしまうのは誰なのか！？

因みに逃走者には、前作同様に、一緒にいる筈のスタッフはいないという設定です。誰かに話し掛けている様な台詞は、独り言だと思っ
て下さい。

ゲームスタート！

6人目・美墨なぎさ

のぞみ「何色ですか？」

なぎさ「金色！」

美希「何ですか？」

なぎさ「プリキュアの最強フォームは、皆金ピカじゃん！」

くるみ「ただお金が欲しいだけなんじゃないの？」

なぎさ「ギクッ！」

つぼみ「図星みたいですね・・・」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

なぎさ「行くぞ！」

ジャラッ！

シーン・・・

美墨なぎさ クリア

ゴゴゴゴゴゴゴ

なぎさ「うわゝ！ハンターボックスが動いたゝ！」

残りの逃走者「はあゝ！？」

これで、ハンターとの距離は16mに縮まった。

なぎさ「ありえない！」

ほか「それはこっちの台詞よ！（怒）」

残る鎖は12本

7人目・花咲つぼみ

いつき「何色？」

つぼみ「じゃあ・・・オレンジを引きます！」

せつな「何で？」

つぼみ「綺麗な色じゃないですか。お花にもこっつい綺麗な色がありますし」

咲「なるほどね」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

つぼみ「それでは引きます！」

ジャラッ！

シーン・・・

花咲つぼみ クリア

ゴゴゴゴゴゴ

つぼみ「きゃー！ハンターボックスがー！」

残りの逃走者「またー！？」

これで、ハンターとの距離は13mに縮まった。

りん「つぼみもえりかの事言えないじゃん！（怒）」

つぼみ「ゴメンなさーい！態わざとじゃないんですー！」

確かに態わざとは無い。

こまち「さっきまで結構遠くにいたハンターが・・・」

祈里「今ではこんなに近くに・・・」

ひかり「絶対捕まりますよ、ハズレを引いたら・・・」

残る鎖は11本

8人目・夏木りん

りん「うわゝ・・・マジで超怖い・・・！」

のぞみ「りんちゃん、何色にするの？」

りん「引きたくないなゝ・・・」

咲「でも、引かなかつたら何も始まらないよ？」

りん「分かつてるけどさゝ・・・」

ひかり「勘でも何でもいいですから」

りん「じゃあいいや。自分のイメージカラーの茶色！」

クリアか・・・？ハンター放出か・・・？

りん「引くぞ！」

ジャラッ！　ガコン！

残りの逃走者「わああー！！！」

門かんぬきが外れてしまい、4体のハンターが放出。ゲームが始まった・・・

一目散に逃げていく逃走者達。

ピーーーーーーー

ハンターの視界には・・・夏木りん・・・

りん「ヤバい・・・！マジでヤバ過ぎる・・・！」

逃げ続けるりん。彼女が逃げる先には・・・花咲つぼみ・・・

つぼみ「先にスタート地点を抜けた人達は何処にいるんだろう・・・？えっ・・・？あれハンター？もう出てきたの・・・！？」

りんを追い掛けているハンターを目撃し、その場から離れる。

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

その時、りんを追っていた4体のハンターの標的が、突然つぼみに変わった。

つぼみ「えっ・・・！？嘘でしょ・・・！？こっち来たー！」

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

一目散に逃げるつぼみ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

つぼみ「いやー！」 ポンッ

残り時間119分17秒 花咲つぼみ確保 残り17人

つぼみ「何でー！？何でハズレを引いてない私が捕まらなきゃいけないの！？嘘ー！」

油断大敵だ・・・

ピリッピリッ ピリッピリッ

うらら「あっ・・・メールかな・・・？」

確保情報は、全ての逃走者にメールで通達される。

ラブ「確保情報だ・・・！『花咲つばみ確保、残り17人』・・・！」

えりか「ええー！？つばみ捕まったの！？」

なぎさ「あいつ運無さそうだもんね。オーラ全然感じられないし・・・」

りん「ええっ？つばみ近くにいたの？全然気付かなかった・・・」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得出来る、それが・・・

run for money 逃走中

逃走劇の舞台となるのは、観光スポットにもなっている、ダイビングが盛んな^{さか}広大なビーチを有するとある港。広さは東京ドームおよそ2個分。また建物内へは原則進入出来ない。この中を17人の逃走者は、4体のハンターから逃げ回る。

せつな「泳ぎに来てる人が沢山たくさんいるわね。すごく賑にぎやかね」

のぞみ「泳ぎたいな。でも今はハンターから逃げる事を考えないと」

こまち「坂が多いわね、このエリアは。これをどう上手く使うかが鍵になりそうね。…」

美希「暑い。一寸水飲もう」ちよつと

逃走者には、飲料水500mlが入ったペットボトルが1本支給されている。これで水分補給出来るが、無くなっても補充はされない。

美希「ガブガブ飲んだら、後に響きそうね。…」

ひかり「今……。残り117分50秒で1万3千円……。！もう1万円超えてる……。！」

賞金は1秒ごとに100円ずつ上昇。120分間逃げ切れれば72万円を獲得出来る。

更にこのゲームは自首、つまりゲームを途中でリタイアする事も出来る。各々の逃走者おのれのが持っている遊覧船のチケットを持って港へ行き、チケットを切ってもらって乗船すればその時点の賞金を獲得出来る。

但し、ハンターに捕まれば賞金は0円。その時点でゲームから排除される。

ラブ「50万円超えたら、すぐに自首しよう・・・！でもその為には、港からあまり離れない方がいいな・・・」

早くも自首する気満々のラブ。港付近でハンターの様子を窺^{うかが}つ。

祈里「自首は絶対しない・・・！私でも出来るんだってところを見せたい・・・！」

りん「自首したら、その人の気を疑うよ・・・！」

この2人の頭の中に、自首という言葉は存在しない様だ。

くるみ「もうヤダ、怖過ぎる・・・！こんなに楽しそうな所なのに・・・」

本来の高圧的（？）な態度とは一変、ハンターに本気で怯^{おび}えているくるみ。

くるみ「こんなゲーム・・・楽しめる訳無いじゃないの・・・！」

意外にも小心者の様だ。

舞「すみません。ハンター見掛けませんでした？」

観光客からハンターの位置を探ろうとする舞。

男「ハンターって何ですか？」

舞「サングラスに黒いスーツを着た、この雰囲気には相応^{ふさわ}しくない格好をした人なんですけど・・・」

男「見た？」

女「ううん。ゴメンなさい、見てないです」

舞「いや、見てないならいいんです。有難う御座います」

ほのか「何処からハンターが来るか分からないわね、ここじゃ」

見通しの悪い通りに来てしまったほのか。

ほのか「動く危険だけど、ここは絶対に抜けないと」

移動を試みる。しかし、背後からハンター・・・

ほのか「360度、常に警戒しないと・・・あっ、ハンターいた・・・！」

見つかった・・・

一目散に逃げるほのか。その近くにいたのは・・・

いつき「誰か追い掛けられてる・・・！」

いつきだ・・・彼女も危険を感じ、その場から離れる。

尚も逃げ続けるほのか。意外にも足が速く、そのまま曲がり角を使って、ハンターを撒いた。

ほのか「やっぱりハンターって速いわね・・・直線勝負じゃ絶対負

けるわ・・・」

こまち「そうね・・・美希さんにでも電話してみようかしら・・・？」

美希に電話を掛けるこまち。

プルルルルル

美希「何・・・？電話・・・こまちさんから・・・はい、美希です」

こまち「美希さん、今どの辺にいるの？」

美希「今ですか？今はえ〜っと・・・ビーチのダイビング器材を洗う大きな桶おけの近くです。こまちさんは？」

こまち「私は、ダイビングサービスっていう建物の近くよ」

美希「ダイビングサービス・・・あつ、近いですね。じゃあ、後で合流しましょう」

こまち「ええ、わかったわ」

2人は電話を切った。

こまち「美希さん、大丈夫かしら・・・？ビーチって結構見晴らし良過ぎなのよね・・・」

咲「皆気持ち良さそうに泳いでるな〜」

羨ま^{うらや}しげに海と観光客を見つめる咲。

その近くに黒い影・・・

咲「ヤバイ、ボーっとしてたらダメだ・・・！今は逃走中に集中しないと・・・！ん・・・？ゲッ、来たよ！」

見つかった・・・

咲「来た、来た、来た・・・！うわっ！滅茶^{めぢや}苦茶^{くぢや}速い！」

一目散に逃げる咲。しかし、その差はどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

咲「うわあゝ！」 ポンッ

残り時間 1 1 2 分 3 6 秒 日向 咲確保 残り 1 6 人

咲「捕まった・・・！嘘・・・！？もう終わりなの・・・！？最悪・・・！」

ピリッピリッ ピリッピリッ

せつな「吃驚^{びっくり}した・・・！メールの着信音大き過ぎ・・・！何でマナーモードに出来ないの、これ・・・？」

なぎさ「『日向 咲確保』だって・・・！」

舞「ええっ！？咲！？捕まるの早くない！？」

いつき「ソフトボール部のエースが、こんなに早くに捕まるの・・・！？」

くるみ「意外過ぎる・・・！」

多くの人が賑わう広大なビーチ。

これだけ大勢の人が集まれば、こんな事も日常茶飯事・・・

女「あれ？ここにあった筈のビーチボールが無い！」

男「俺のシュノーケルは！？」

男「フィン、何処行っただよ！？」

女「私のサングラス、誰が見なかった！？」

落し物を探し回る4人の観光客。

この落し物が、逃走者達に手を差し伸べる・・・

かれん「観光客が全員ハンターに見えてしょうがないわ・・・」

ピリッピリッ ピリッピリッ

かれん「ん・・・？何かしら・・・？」

うらら「通達だ・・・！」

のぞみ「『現在4人の観光客が、それぞれの落とし物を探している』・
・・」

ひかり「『彼等が探している物を届ける事が出来れば』・・・」

祈里「『お礼として、逃走に役立つアイテムを渡してくれる』・・・
」

えりか「『やるかやらないかは、君達の自由だ！』・・・落とし物？
しかもアイテムって？」

通達 逃走アイテムを獲得せよ！

現在4人の観光客が、ビーチボール・シュノーケル・フィン・サン
グラスを落としてしまい、エリア中を探している。その探している
物を見つけ、該当する観光客に届ければ、お礼として逃走に役立つ
アイテムを受け取る事が出来る。

うらら「逃走に役立つアイテム・・・どんな物なんだろう？それを
知る意味でも、探してあげよう・・・！」

祈里「探してあげた方がいいよ・・・！絶対に・・・！」

りん「よしっ、探すか」

くるみ「嫌よ動くの・・・探している間にハンターに見つかったら、
何もかも終わりじゃない・・・！絶対やらない・・・！」

ラブ「リスクは冒したくない・・・！誰かやってよ」

落し物を探す為に動けば、ハンターに見つかる危険が高まる。探し
てあげるかあげないかは逃走者の自由。

逃走者達は、落し物を探し当てる事が出来るのか！？

ゲームスタート！（後書き）

逃走に役立つアイテムとは、一体何なのか！？

それは、次回明らかとなるだろう！

逃走アイテム（前書き）

アイテムを獲得するべく、動き出した逃走者達！

彼女達が受け取る、役立つアイテムとは！？

逃走アイテム

4人の観光客が探している落し物を届ければ、逃走に役立つアイテムを受け取る事が出来る。現在落し物を探しているのは、うらら・りん・祈里の3人。

祈里「ビーチボールにサングラスに・・・」

うらら「シュノーケル・・・フィン・・・」

りん「何処だろうな・・・」

落し物はエリアの何処に落ちているか分からない。また探すには動くしかない為、動けばハンターに見つかる危険が高まる。

なぎさ「近くにありそうな気がするんだけどな・・・」

かれん「ハンター来そうで怖いわ・・・」

ほのか「穴場に落ちてそうで危険だわ・・・」

こまち「一寸探してみようかしら・・・？」

3年生の中で、動くのはこまちただ1人。

ひかり「サングラスとか見つかりにくそうだけど・・・探してあげないと、その人困るから」

のぞみ「ビーチボールなんて落とすかな、普通」

ひかりとのぞみも、危険を顧みずに落し物を探す。

かれん「それにしても、暑過ぎる・・・少し水分補給した方が・・・」

日陰で休んでいるかれんの近くにハンター・・・

かれん「こんなに暑い夏、今まで経験した事無いわ・・・ホントに・・・ん・・・？ハンター・・・！」

見つかった・・・

一目散に逃げるかれん。建物の影を利用し、上手く撒いた様だ。

かれん「これ・・・休んでる暇無いわね・・・いつハンターが来るか・・・」

しかし、彼女が向かう先に別のハンターが・・・

ピーーーーー

そして、見つかった・・・

かれん「うわーっ！」

一目散に逃げ続けるかれん。しかし、その距離は徐々に詰められていく。最早、逃走不可能・・・

かれん「あうっ！」 ポンッ

残り時間 107分9秒

水無月かれん確保

残り15人

かれん「嘘でしょ・・・？あんな所にハンターがいるなんて・・・！うわ・・・ホント悔しい・・・」

休憩した事が仇^{あだ}となった・・・

えりか「あつ・・・！『水無月かれん確保』・・・！」

こまち「かれんが・・・！？」

くるみ「嘘・・・かれん・・・」

ラブ「一寸待^{ちよつと}って・・・！どんどん捕まってくじゃん・・・！」

のぞみ「何処かな？」

落し物を探しているのぞみ。すると・・・

のぞみ「あつ！ビーチボールあつた！」

ビーチボールを発見。これを該当する観光客に届ければ、お礼に逃走に役立つアイテムを受け取る事が出来る。

のぞみ「さて、誰が探してるんだろうな・・・うわっ！」

りん「わあっ！」

曲がり角からりんが現れた。

のぞみ「り・・・りんちゃん・・・！脅おどかさないですよ」

りん「それはこっちの台詞だよ・・・！心臓止まるかと思ったじゃん・・・！あれ？のぞみ、ビーチボール見つけたの？」

のぞみ「うん。今から届けに行くところ」

りん「あつちに『ビーチボール』って何回も言いながら彷徨さまよういてた人を見かけたんだよ。だから、多分その人のだと思っ

のぞみ「ホントに？教えてくれて有難う」

りん「いやいや。・・・ってハンター来たよ！」

のぞみ「ええゝ！？」

のぞみとりんがハンターに見つかった。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーーー

りん「こっち来た・・・！」

りんだ・・・

一目散に逃げるりん。アスリート並みの脅威の瞬発力でハンターの追跡を振り切った。

りん「ビビった・・・！」

彼女が逃げた先には・・・

りん「あれ？これってフィンじゃない？」

落し物であるフィンを発見。

りん「誰だろう、これ落としたの？探さないと・・・！」

のぞみ「危なかった・・・！あれで来られたら、絶対逃げられないよ・・・ん・・・？あの人かな？」

のぞみがオロオロしている観光客を見つけた。

のぞみ「すみません」

女「はい？」

のぞみ「あれ！？あなた、なぎささんの同級生の・・・志穂さん！？」

ビーチボールを探していた観光客は、何と言う事か、なぎさとほのかの同級生・久保田志穂だった。

志穂「ええ～！？何で、何で、何で～！？何でのぞみがこんな所にいるの～！？」

のぞみ「いや・・・私、今逃げてるんですけど・・・」

志穂「その格好・・・もしかして、逃走中！？」

のぞみ「・・・とは一寸ちよつと違うゲームってところですね・・・」

志穂「あっ！それって、それって、それって！探してたビーチボールじゃん！」

のぞみ「そうなんですか？じゃあ、どうぞ」

のぞみは志穂にビーチボールを渡す。

志穂「有難う！それじゃあ、それじゃあ、それじゃあ・・・お礼つて言っちゃあれだけど・・・はい！」

志穂が渡してくれた物とは・・・

のぞみ「ほ・・・保冷剤・・・？」

志穂「のぞみ結構暑そうだし、これで少し涼んで！それじゃ！頑張つてねー！」

のぞみ「はい。有難う御座います」

のぞみは、志穂がくれた物に疑問を抱いていた。

のぞみ「これが逃走に役立つアイテム？・・・あれ？紙切れがある・・・何これ？」

その紙切れに書かれていたのは、その道具の説明だった。

のぞみ「何何？」

彼女が受け取った保冷剤らしき物は、実はハンター冷却剤。これをハンターに投げ付ければ、1体だけハンターを冷却させて足止め出来る。但し、灼熱の太陽が照り付けている為、その効力は5分間のみ。

のぞみ「絶体絶命の時に役立ちそう・・・！」

少し勇気が湧いてきた様だ。

せつな「この逃走中・・・出た人達皆怖いって言ってたけど・・・実際にやってみると、ホント怖いわ・・・」

ハンターの恐怖に駆られるせつな。足取りが重く、思う様に動けない。

美希「アイテム・・・まさかハズレがあるって事は無いでしょうね・・・？」

アイテムにハズレは無い。

祈里「早く探してあげないと・・・！」

落し物を探す祈里。

その近くに黒い影・・・

祈里「ハンターいた・・・！こっちは危ない・・・！」

逸早くハンターに気付き、その場を離れる。ハンターは祈里に気付

いていない。

しかし、そのハンターが向かう先には・・・

せつな「どうすればいいの・・・？」

せつなの姿・・・そして、見つかった・・・

せつな「えっ・・・？いやっ！」

背後から迫るハンターに気付き、一目散に逃げるせつな。しかし、
気付くのが遅過ぎた。最早、逃走不可能・・・

せつな「ああっ！」 ポンッ

残り時間103分27秒 東 せつな確保 残り14人

せつな「ええっ・・・？精一杯頑張ろうとした矢先に・・・嘘っ・・・」

ピリッピリッ ピリッピリッ

いつき「メールだ・・・！」

ラブ「せつなが捕まった・・・！」

なぎさ「ヤバいなっ・・・減り方が尋常じゃないよ・・・！」

りん「あの人かな？」

りんが探し物をしていると思われる男を発見。

りん「すみません」

男「えっ？」

りん「あれっ！？あんだ咲の同級生の・・・健太！？」

その観光客は、咲と舞のクラスメイト・星野健太だった。

りん「何してんの、こんな所で！？」

健太「俺は泳ぎに来たに決まってるだろ。お前こそ何してんだよ、そんな派手な色の服着て」

りん「今、ハンターっていうのから逃げてるんだよ」

健太「それって、逃走中の事か？」

りん「まあ、言わばそれに似たゲームだね」

健太「あれ？それって、俺が探してたフィンじゃねえか。見つけてくれたのか？」

りん「うん。ていうか、あんだのだったんだ。じゃあ・・・はい」

りんは健太にフィンを渡す。

健太「サンキューー！じゃあ、そのお礼で・・・」

健太が渡してくれた物とは・・・

りん「ローリースケート？」

健太「もう俺にはサイズが合わないし、これでたこさん活躍してくれ。じゃあな！」

りん「何でこんな所で親父ギャグを・・・？あれ？何、この紙？」

またしても、道具の説明が書かれた紙切れ。

彼女が受け取ったローリースケートらしき物は、緊急用逃走靴。これを履くと、延べ1分間ハンター以上の速さで逃げる事が出来る。

りん「結構履き心地いいじゃん」

正に虎に翼だ・・・

・
観光客の中には、家族で遊覧船を楽しむ者も数多くいる。しかし・

母親「あれ？チケットが無い！さっきまであつた筈なのに・・・！」

父親「家に忘れてきちゃったかも・・・」

母親「今日は諦めようか？」

子供「やだ〜！船に乗りたい〜！」

子供「乗せてくれなきゃヤダー！」

子供「うわーん！」

チケットが無く、困り果てている3組の家族。そして、船に乗れずに泣きじゃくる7人の子供達。

その泣き声に共鳴し、近くにあるボックスで、逃走者達が嘗て倒した怪物達が、ハンターとなって目覚めようとしている・・・

うらら「早く探してあげないと・・・！」

ピリッピリッ ピリッピリッ

うらら「えっ？何？」

メールだ・・・

美希「ミッション1・・・！」

ほのか「『港の船乗り場で、3組の家族がチケットを無くして困っている』・・・」

えりか「『残り85分までに、それぞれの家族にチケットを渡して』・・・」

くるみ「『引き連れている子供を泣き止ませなければ』・・・」

のぞみ「『最大7体のハンターが放出されてしまう』・・・ええ！
！？7体も！？」

舞「『急ぎたまえ！』・・・7体とかシャレになんないでしょ・・・！？」

MISSION？ ハンター放出を阻止せよ！

港の船乗り場で2人家族・4人家族・6人家族の親が遊覧船に乗る為のチケットを無くし、子供達が泣き出してしまった。残り85分になると、その泣き声に共鳴して、ザケンナー・ウザイナー・コワイナー・ホシイナー・ナケワメーケ・ソレワターセ・デザトリアンを封印したボックスからハンターが放出。その数は最大で11体を増えてしまう。阻止するには、それぞれの家族に遊覧船のチケットを渡し、子供達を大人しくさせなければならない。なお逃走者が持っているのは、自首用のチケット1枚。チケットは1枚につき2人しか有効でない為、4人家族には2枚、6人家族には3枚を他の逃走者と出し合って渡さなければならない。

祈里「と言う事は・・・これを渡すと、自首出来なくなるって事だよね・・・？」

そう・・・ハンター放出を阻止するには、自首の権利を棄^すてるしかない。

ラブ「あたし自首したいもん。渡したくないよ」

えりか「任した方がいいでしょ？誰かやるよ」

くるみ「自首はしないけど、ミッションには絶対行かない」

エリアには4体のハンター。ミッションに動けば、遭遇する危険も高くなる。

ハンター放出まで、およそ14分。

ハンター放出を防げるのか!?

逃走アイテム（後書き）

ここまで4人の逃走者（つぼみ・咲・かれん・せつな）が確保された

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・ラブ・ひかり・えりか・くるみ・こまち・なぎさ・美希・舞・ほのか・うらら・いつきの14人

復活した怪物達！逃走者達はどうなってしまうのか！？

ハンター放出阻止へ！（前書き）

14人に課せられた最初のミッション！

怪物達、そしてハンターを封印する事は出来るのか！？

ハンター放出阻止へ！

残り85分までに、3組の家族に自首用のチケットを規定枚数渡さなければ、子供達の泣き声に共鳴して、最大7体のハンターが放出されてしまう。

美希「とりあえず、こまちさんに電話して・・・2枚のチケットを渡さない」と

美希はこまちに電話を掛ける。

ブルルルルル

こまち「美希さんから・・・もしもし？」

美希「こまちさん、今どの辺ですか？」

こまち「今ね、私旅館の近くのよ」

美希「旅館・・・なるほど。あたしは浜辺の方なんですよ」

こまち「浜辺の方・・・」

美希「はい。ところでこまちさん、ミッションどうします？」

こまち「勿論やるわ」

美希「じゃあ、お互いのチケットを合わせて、4人家族に渡しませよう」

こまち「美希さんも行くの？」

美希「行きます、行きます」

こまち「それじゃあ、港で待ち合わせって事で」

美希「分かりました」

2人は電話を切った。

こまち「港・・・あっ・・・！ハンター・・・！」

こまちの視線の先にハンター・・・

逸早く見つけ、回り道をする。ハンターは気付いていない様だ。

こまち「エリアが狭いから、ハンターに遭う危険が高いわ・・・」

思う様に港に近付けない。

なぎさ「周りに人がいないな・・・よしっ、2人家族に渡すか」

いつき「ここにいても、泣き声がすごく聞こえる・・・！あの子達を大人しくさせないと・・・！」

なぎさといつきも、危険を顧みずミッションに向かう。

しかし、その近くに黒い影・・・そして、見つかった・・・

ハンターが視界に捉えているのは・・・

ピーーーーーー

なぎさ「えっ・・・？うわー！」

なぎさだ・・・

いつき「あっ・・・！なぎささん追われてる・・・！危ない・・・」

なぎさに釣られて、いつきも逃げる。

しかし、彼女が逃げる先に別のハンター・・・

いつき「暫くは離れて様子を・・・ってわっっ！」

ハンターと鉢合わせに・・・

一目散に逃げるいつき。その時、なぎさを追っていたハンターの標的が、突然いつきに変わった。

いつき「ええゝ！？何でゝ！？」

逃げ続けるいつき。しかし、その差はどんどん無くなる。最早、逃走不可能・・・

いつき「うわぁゝ！」 ポンッ

残り時間 9 分 3 8 秒 明堂院 いつき確保 残り 1 3 人

いつき「2体で追って来られた・・・しかも速いし・・・」

祈里「『明堂院いつき確保、残り13人』・・・!」

えりか「つばみもいつきも捕まっちゃったよ・・・」

なぎさ「早く港に行つて、チケット渡さないと・・・!」

港へと続く一本道に差し掛かったなぎさ。ところが・・・

男「こらっ!何なんだ君は!?!」

なぎさ「へっ!?!」

突然2人組の男に道を塞がれてしまった。

男「ここから先は関係者以外立ち入り禁止だぞ!」

なぎさ「あたしは、ただこれを・・・!」

男「何だ?遊覧船に乗るのか?」

なぎさ「そうじゃないですけど・・・」

男「だったら話にならん!帰れ!」

なぎさ「ちょ、一寸待^ひつて下さいよ!あたしは、これをあそこで泣いてる子に渡そうと思って・・・!」

男「どうしても通りたかったら、通行証を持って来なさい」

なぎさ「通行証？そんなの何処で手に入るんですか？」

男「漁協に行けば発行してもらえる。話はそれからだ」

なぎさ「ええっ！？漁協までかなりあるじゃん！ありえない！」

港に入る為には通行証が必要となる。その為、漁協に行つて発行してもらわなければならない。

なぎさ「何でメールに無い事までやんなきゃいけない訳！？」

こまち「あら？なぎささん？」

愚痴を漏らしているなぎさの近くに、こまちが通り掛かった。

こまち「なぎささん、どうしたの？」

なぎさ「こまち？港には行っちゃダメ！」

こまち「どうして？港に行かないと、ミッションは出来ないのよ？」

なぎさ「漁協で通行証を発行してもらわないと、港に入れさせてくれないんだよ！」

こまち「ええ！？メールでそんな事書いてなかったでしょ？」

なぎさ「そつだよ！だから焦ってたんだよ！」

なぎさと一緒にこまちも漁協へと向かう。

こまち「この逃走中、実際の放送以上にハードル高過ぎるわ・・・」

りん「あっ・・・のぞみ」

りんがのぞみと合流。そこへ祈里もやって来た。

のぞみ「りんちゃん、折角3人いるから、これで6人家族に渡しに行こう」

りん「OK!」

祈里「ハンターには気を付けよう。大勢で動けば、見つかる危険も高くなるし」

りん「のぞみ、特にあんたは出しゃばんないでよ」

のぞみ「ふえ〜ん・・・そんなの分かってるよ・・・」

何も知らずに、3人は港へと向かう。

一方、他人任せのこの2人は・・・

ラブ「港からハンター来られちゃ、自首出来ないよ・・・誰かハンター止めて」

くるみ「兎に角・・・安全策を常に取りないと・・・動いたら、ハンターの思っ壺よ・・・!」

動きたくない様だ。

美希「あれ？こまちさんは？」

港の近くにやって来た読者モデル。しかし、そこにこま치의姿は無い。

その近くに黒い影・・・

美希「こまちさん、何処行つたのかしら・・・？電話してみた方が・・・ヤバイ、ハンター・・・！」

見つかった・・・

一目散に逃げる美希。彼女が逃げる先には・・・ミッションに向かう3人の姿・・・

のぞみ「もう一寸で港に着くよ」

祈里「あれ？あれって・・・美希ちゃん？」

りん「ハンターに追われてない、まさか？」

美希「3人とも逃げて！」

りん「やっぱりだ！」

美希に釣られ、3人も一目散に逃げる。

ハンターに追われ、3人はバラバラに・・・

尚も逃げ続ける美希。しかし、その差がどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

美希「あぁっ！」 ポンッ

残り時間 9 3 分 5 0 秒 蒼乃美希確保 残り 1 2 人

美希「うわ・・・捕まった・・・こまちさん、ゴメンなさい・・・」

ピリッピリッ ピリッピリッ

うらら「また確保情報だ・・・！」

ラブ「えっ！？美希たん捕まった！」

ほのか「あの運動神経抜群の美希さんが・・・ここで捕まった・・・！」

えりか「どんどん捕まってるよ・・・！ヤバ過ぎだって・・・！」

その頃、なぎさとこまちが漸く漁協に到着。

なぎさ「すみません！あの・・・」

こまち「港の通行証を発行してほしいですけど・・・」

受付「お名前は？」

なぎさ「美墨なぎさです」

こまち「秋元こまちです」

受付「かしこまりました。少々お待ち下さい」

そう言つて、受付の者は中の方へ消えていった。

？「あれ？なぎささんにこまちさん」

2人の背後から突然声を掛けた人物。それは・・・

なぎさ「ひ・・・ひかり・・・！急に声出さないでよ・・・！」

ひかり「すみません・・・あの、お2人はここで何を・・・？」

こまち「ミッシヨンの為に港に行こうとしたんだけど、通行証が必要だつて言われて・・・」

なぎさ「ここで今発行してもらつてるところ」

ひかり「ええ？港には入れないんですか？」

こまち「みたいなの・・・それにしても、ひかりさんは何でこんな所に？」

ひかり「私はここでミッシヨンに行く人を探してたんですが・・・誰も見つけられなくて・・・」

受付「お待たせしました」

受付の者は、なぎさとこまちの通行証を持って現れた。

受付「どうぞ」

なぎさ・こまち「有難う御座います!」

ひかり「お2人は、4人家族にチケットを渡すおつもりなんですか？」

こまち「私は美希さんに行くつもりだったけど・・・捕まったみたいだし・・・」

なぎさ「あたしは、最初から2人家族のをやろうと思ってたから・・・」

ひかり「じゃあ、私のチケットこまちさんに託します。これで4人家族を助けてあげて下さい」

なぎさ「ひかり、自首しないの?」

ひかり「絶対しません!逃げ切ります!」

こまち「ひかりさんのその意思、私がしっかり届けるわ!」

ひかり「お願いします!」

こまち「なぎささん、急ぎましょう!」

なぎさ「ホントだ、あと6分ぐらい・・・!じゃあひかり、行つて

くるよ！」

ひかり「頑張ってください！」

2人は港へと急ぐ。

ひかり「そうだ・・・！他にミッションに行く人に伝えないと・・・！時間無いし・・・！」

ひかりは逃走者達に電話を掛ける事に。

ブルルルルル

りん「電話・・・？ひかりからだ・・・もしもし？」

ひかり「りんさん？通行証ってもらいました？」

りん「通行証？何それ？」

ひかり「漁協で発行してもらえる物なんですけど、それが無いと港に入れないんですよ」

りん「はあ！？何その制度！？そんな物持つてる訳無いじゃん！漁協にも行ってないし」

ひかり「私ももらいたいんですけど・・・先に発行したこまちさんにチケットを託しちゃったんで・・・」

りん「こまちさん、発行したんだ」

ひかり「はい。なぎささんも一緒に発行してもらってました。なので、先^まずは漁協に来てください」

りん「OK！有難う、教えてくれて」

2人は電話を切った。

りん「よしっ……！漁協か……急がないと、時間無い……！」

漁協を目指すりん。

ハンター放出まで 5分

なぎさとこまちは、港へと続く一本道へとやって来た。そこには、先程なぎさを足止めた2人組の男……

男「君は……さっきの」

なぎさ「ほら……言われた通り、通行証持って来ましたよ。これで文句ないでしょ？」

なぎさと一緒に、こまちも通行証を見せる。

男「うん、いいだろう。通っていい」

男達は道を開けてくれた。

こまち「有難う御座います」

なぎさ「よしー！」

2人は、それぞれが担当する家族の許へ。^{もと}

なぎさ「すみません。このチケット、良かったら使って下さい」

母親「いいんですか？」

なぎさ「いいんです。あたし、遊覧船乗らないんで」

母親「すみません、有難う御座います・・・これで遊覧船乗れるよ
！」

子供「ホントに！？やったー！お姉ちゃん、有難う！」

なぎさ「いやいや、どういたしまして」

こまち「あの・・・すみません・・・チケットを無くされたみたい
ですね・・・」

父親「あっ・・・実はそうなんですよ・・・」

こまち「だったら、この2枚のチケット受け取ってください」

母親「いいんですか、こんないい物もらっても」

こまち「いいんですよ。お子さん達と、これでいい思い出作って
ください」

父親「すみません、こんな不注意な私で・・・ほら、これで遊覧船
乗るぞ」

子供「乗れるの!?!」

子供「やった〜!嬉しいな〜!」

母親「すみません。本当に有難う御座います」

こまち「いえいえ、喜んでいただければ・・・」

ハンター放出まで 4分

ピリッピリッ ピリッピリッ

舞「何かしら・・・?あつ、ミツシヨンの途中経過・・・!」

うらら「『美墨なぎさ・九条ひかり・秋元こまちの活躍により』・・・」

ほか「『2人家族と4人家族の子供達が泣き止み、3体のハンター放出は免れた』・・・!」

ラブ「『残るは6人家族のみ』・・・ヤバいな〜、あと3分半ぐらいで4体出てきちゃうよ〜・・・」

くるみ「なぎさだったら・・・活躍したがりなのが良く分かるわ・・・完全な偽善者ね・・・!」

りん「よしっ、着いた!」

りんが漁協に到着。

りん「すみません。あの・・・通行証を発行して下さい」

受付「お名前は？」

りん「あたし、夏木りんです」

受付「かしこまりました。少々お待ち下さい」

そう言つて、受付の者は中の方へ消えていった。

りん「早くしてほしいな・・・！マジで時間無いよ・・・！」

ハンター放出まで 3分30秒

このままでは4体のハンターが放出され、合計8体となってしまう。

間に合うのか！？

ハンター放出阻止へ！（後書き）

逃走者への応援メッセージも宜しくお願いします！

しかし、自分でやる事増やしてるから、全然^{はかど}捗らない・・・

更新頻度も酷くなってるし・・・

ミッション1終了！（前書き）

未だに泣き止まない4人の子供達。

3枚のチケットを渡し、ハンター放出を防げるのか！？

ミッション1終了！

祈里「のぞみちゃんにりんちゃん、何処行っただろう・・・？」

ハンターに追われて、2人と逸はくれてしまった祈里。

ブルルルルル

祈里「ん？電話だ・・・ひかりちゃんから・・・もしもし？」

ひかり「祈里さん、港の通行証持っていないですよね？」

祈里「通行証？何それ？」

ひかり「港に入る為には、漁協から発行してもらった通行証が無いといけないんですよ」

祈里「嘘！？そんな事メールに書いてなかったじゃん！」

ひかり「そうなんですよ。それで、今りんさんが通行証を発行しに行ってるんで、りんさんを見つけたら、チケットを渡してほしいんです」

祈里「分かった」

2人は電話を切った。

祈里「それにしても酷いよ・・・指示してない事をやれって・・・意外性を求め過ぎてる感じがする・・・」

受付「お待ちせしました、どうぞ」

一方で、りんは漸くよこや通行証を受け取る。

りん「有難う御座います！」

そして、通行証を手にするや否や、一目散に港を目指す。

ハンター放出まで 3分

りん「ヤバいな・・・！マジで時間無いじゃん・・・！歩いてたら絶対に合わない・・・！」

くるみ「あと3人の偽善者が必要なんですよ？ハンター出て来させない為には・・・」

人任せ且つ貢献者を侮辱する、準お世話役のミルクこと美々野くるみ。

くるみ「ずっと隠れてれば、ハンターなんか見向きもしないわよ・・・」

自分の事しか頭に無い様だ。

しかし、その近くにハンター・・・

くるみ「えっ・・・？あれハンターじゃない・・・？何で近くにいるのよ・・・！？」

その場から離れ、素早い身のこなしで、物陰に身を隠す。気付かれていない様だ。

くるみ「危ない・・・！見向きはしなかったけど・・・近くで見ると、ハンターってホントに怖い・・・！」

ハンター放出まで 2分30秒

舞「行きたいけど・・・距離あるし、時間無いし・・・諦めましょう」

うらら「動く理由が無いと動けないよ」

ほのか「次のミッションは絶対やるから、ここは誰かお願い・・・！」

舞・うらら・ほのかはミッションを諦めた。

りん「のぞみと祈里を探さないと・・・！3枚必要だし・・・！」

祈里「あつ、りんちゃん！」

祈里が、港へ向かって走るりんを見つけた。

りん「ん？ああ、祈里！」

祈里「はい、チケット！」

祈里はチケットをりに託す。

りん「あと1枚だ・・・！」

祈里「近くにのぞみちゃんがいたから、早く行ってあげて」

ハンター放出まで 2分

りん「ホントに？」

祈里「うん。あつ・・・急い方がいいよ！もう2分切ってる！」

りん「マジで！？ボヤボヤしてらんないよ・・・！」

のぞみを探し、再び走るりん。

こまち「誰が行ってないのかしら？」

なぎさ「ヤバイよ・・・！このまま4体増えたら、絶対に不利だよ・・・！」

チケットを渡してしまい、ミッションに参加出来ない2人。焦りを露にする。^{あらわ}

りん「ハンターいないかな・・・？こんな時に出くわしたら最悪だよ・・・！」

緊急用逃走靴を履いているりん。ハンターに追われても、これを発動させれば、延べ1分間だけハンター以上の瞬発力を発揮出来る。

りん「こんな時に使いたくない・・・！飽くまでも、切り札として残しときたい・・・！」

脚力に自信があるのか、今のところ1秒も使用していない。

ハンター放出まで 1分30秒

りん「くそ・・・！何処にいるんだよ、のぞみは・・・！」

ひかり「りんさんが捕まったら、粗間^{ほま}違いなくハンターが放出されちゃう・・・！」

電話を掛けたひかりも不安を隠せない。

ラブ「あと1分15秒じゃん・・・！まだ泣き声治まってないよ・・・？どうすんの・・・？」

港付近に身を潜めているラブも恐怖に駆られている。

のぞみ「りんちゃん・・・何処なの・・・？」

今にも泣きそうな声で、りんを探しているのぞみ。

りん「あっ！のぞみ！」

のぞみ「ふえ？」

りんがのぞみを発見。

りん「何処いたの！？ずっと探してたんだよ！？」

のぞみ「私だって、りんちゃんの事探してたんだよ」

りん「それは兎も角・・・のぞみ、早くチケットを！」

のぞみ「あっ・・・！そうだ、そうだ・・・！はい！」

ハンター放出まで 1分

のぞみはりんにチケットを託す。

のぞみ「あと1分切ってるよ？急がないと！」

りん「のぞみは来ちゃダメ！行っても止められるから！」

のぞみ「どついう事？」

りん「説明は後で！とりあえず、行って来るから！」

持ち前のフットワークで港を目指すりん。間に合うのか。

牢獄

つぼみ「まだ泣き声が聞こえます」

咲「早くしないと、ハンター出てきちゃうね」

かれん「誰が行くんじゃないかしら？」

せつな「行かなきゃダメでしょ？」

いつき「8体は絶対きついよ」

美希「逃げ切れる確率がかなり下がるしね・・・」

りん「あそこか、港って？」

りんは漸く港へと続く一本道に差し掛かった。

男「こらっ！何なんだ君は！？」

りん「わっ！」

道を塞ぐ2人組の男。

男「ここから先は関係者以外立ち入り禁止だぞ！」

ハンター放出まで 30秒

りん「これ！これで通して下さい！」

りんは男に通行証を見せる。

男「それは・・・通行証・・・！いいだろう、通っていい」

男達は道を開けてくれた。

りん「有難う御座います・・・！」

ハンター放出まで 20秒

りん「すみません・・・！このチケット・・・使ってください・・・！」

母親「そのチケット・・・遊覧船の・・・」

りん「はい・・・！これで家族皆で乗ってください・・・！」

ハンター放出まで 10秒

父親「いいんですか？」

りん「いいんです・・・！どうぞ・・・！」

母親「すみません、有難う御座います・・・ほら、これで遊覧船乗ろう」

子供「乗れるの！？」

子供「わーい！」

子供「お姉ちゃん、有難う！」

子供「有難う！」

りん「いやいや・・・いいって」

ミッションクリア

りん「危なっ・・・！あと2秒くらいだったじゃん・・・！ギリギリ・・・！」

3組全ての家族の子供が泣き止み、ハンター放出は免れた。

ピリッピリッ ピリッピリッ

舞「メール来た・・・！ミッションの結果・・・」

えりか「『夢原のぞみ・夏木りん・山吹祈里の活躍により』・・・」

ラブ「『6人家族の子供達が泣き止み、7体全てのハンター放出は免れた』・・・！やった！」

うらら「すごい・・・！」

ほか「頼れる後輩達ね・・・！」

くるみ「りんはやると思ってたけど、まさかのぞみと祈里がね・・・」

エリアで逃走者を搜索するハンターは、引き続き4体のまま。

全てのハンターボックスが封印され、復活目前だった怪物達も、海^{わた}神達^{つみ}が眠る海の中へ封印された・・・

うらら「折角ハンター放出の危機も去った訳だし・・・落し物を探してあげよう」

再び落し物の搜索に乗り出すアイドル。

しかし、その近くに黒い影・・・

うらら「何処かな？この辺に落ちてる気がするんだけ・・・うわっ、ハンター！」

見つかった・・・

一目散に逃げるうらら。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

うらら「うわぁー！」 ポンッ

残り時間 8 分 5 1 秒 春日野うらら確保 残り 1 1 人

うらら「捕まった・・・！悔しい・・・！」

ひかり「あっ・・・！うららが捕まった・・・！」

のぞみ「嘘・・・！？うらら捕まったの・・・！？」

ほか「これで、芸能人 2 人が揃って捕まった訳ね・・・」

舞「あれ？あの弓形の物って・・・」

舞が何かを見つけた。

舞「あっ……！シユノーケルじゃない……？」

見つけたのは、とある観光客が落としたシユノーケル。これを該当する者に届ければ、逃走に役立つアイテムがもらえる。

舞「誰かしら、落としたのって……」

彼女はシユノーケルの持ち主を探す事に。

祈里「あっ！あれって……」

祈里も何かを見つけた様だ。

祈里「サングラス……？これって、さっきのメールにあった落し物？」

サングラスを発見。

祈里「美希ちゃんもせつなちゃんも捕まっちゃったし、ラブちゃんは自首したいって言ってたし……私が頑張らないと……！絶対出来るって……私、信じてる……！」

舞「探している様な仕草をしている人がいればいいけど……」

シユノーケルを届けるべく、エリアを彷徨^{さまよ}う舞。その時……

？「おい、お嬢ちゃん！」

不意に声を掛けられ、吃驚^{びっく}する舞。声の主とは・・・

舞「あ・・・あなた確か・・・ドーナツ売りのカオルちゃんでしたっけ・・・？」

クローバータウンストリートのドーナツ売り・カオルちゃんこと橘薫だ。

薫「おお・・・いやそうじゃなくて、そのシュノーケル俺が探してた物なんだよ」

舞「あつ、そうだったんですか。じゃあ、どうぞ」

舞は薫にシュノーケルを渡す。

薫「有難ね。えっと・・・」

舞「私、美翔舞です」

薫「舞ちゃん、お礼として・・・これあげちゃう!」

薫が渡してくれた物とは・・・

舞「虫除けスプレー?」

薫「舞ちゃんのその純白な肌、蚊に刺されたら台無しだからね・・・グハッ!それじゃ、頑張つて!」

舞「有難う御座います・・・あれ?この紙切れ・・・」

道具の説明が書かれた紙切れだ。

彼女が受け取った虫除けスプレーらしき物は、ハンター除けスプレー。これをハンターに向けて噴き付けると、そのハンターは一定時間追って来なくなる。但し、量に限りがある為、慎重に使わなければならない。

舞「すごくいい物じゃない、これ・・・！」

かなりの自信が湧いてきた様だ。

祈里「何処にいるのかな？サングラスを落とした人・・・」

祈里もサングラスの持ち主を探していた。その時・・・

？「それ、私のサングラスじゃん！」

突然の大声に吃驚^{びっくり}する祈里。声の主とは・・・

祈里「えっ？ミ・・・ミユキさん！？」

人気ダンスユニット・トリニティのリーダーのミユキだ。

ミユキ「祈里ちゃん！？何でこんな所にいるの！？」

祈里「私は、ハンターって言う人達から逃げてる最中で・・・」

ミユキ「それって、若しかして逃走中の事？」

祈里「それに似たゲームですよ。カメラも付いてないですから。で

も、ミュキさんこそ何でここに？」

ミュキ「久しぶりのオフだから、大輔と2人でここに・・・それはそつと、早くサングラス返して」

祈里「あっ・・・そうでしたね、すみません。どうぞ」

祈里はミュキにサングラスを渡す。

ミュキ「有難う。じゃあ、お礼にこれあげるね」

ミュキが渡してくれた物とは・・・

祈里「何ですか、これ？このタイマーに結構似てますね」

ミュキ「きっと何かの役に立つと思うよ。じゃあ、頑張ってね！」

祈里「有難う御座います。あれ？何、この紙・・・？」

彼女が受け取ったタイマーらしき物は、GPSモニター。これを使うと、初期のハンター4体の居場所を知る事が出来る。但し、追加されたハンターの居場所は認知出来ない。

祈里「この4つの黒い点がハンターって事なんだ・・・！これなら逃げ切れそう・・・！」

心強い味方を付けた様だ。

その頃、ダイビングに使われるタンクの充填所^{じゅうてん}では・・・

従業員「おい！60本積んで来た筈なのに、何で55本しか無いんだよ！？」

スタッフ「そ、そんな筈は無いですよ！」

従業員「だってほら！」

並べられた空タンクは、確かに55本しか無い・・・

スタッフ「ええっ！？な・・・何で・・・？」

従業員「何でって・・・お前が全部積まなかったからだろ！一気に充填^{じゅうてん}したかったのに・・・コンプレッサーが止まったら、なかなか再起動出来ないのお前だって知ってるだろ！」

スタッフ「す・・・すみません！」

ビーチに置かれた空タンクを全て回収してなかったスタッフを叱咤する従業員・・・

そして、ビーチに置き去りとなった5本の空タンクが、逃走者の運命を左右する・・・

ひかり「ハンターいそうで怖い・・・」

ピリッピリッ ピリッピリッ

ひかり「あつ・・・メールかな・・・？」

ラブ「うわ・・・来たよ、ミッション2・・・」

なぎさ「『ビーチにスタッフが回収しなかった5本の空タンクがある』・・・」

のぞみ「『残り60分までに、全ての空タンクを充填所に運ばなければ、コンプレッサーが停止してしまい』・・・」

舞「『ゲーム時間が30分間延長されてしまう』・・・ええ！？30分も！？」

りん「『全員で協力し、空タンクを全て運びたまえ！』・・・30分延長つて・・・シャレになんないよ・・・！」

MISSION？ ゲーム時間延長を阻止せよ！

ビーチに置き去りとなった5本の空タンク。残り60分になると、これを充填する為のコンプレッサーが停止してしまい、ゲーム時間が30分間延長。勿論、その分の賞金も減らされてしまう。それを防ぐ為には、5本の空タンク全てを充填所まで運ばなければならぬ。

こまち「30分延長はきついわ・・・！とりあえず、ビーチ行かないと・・・！」

りん「30分も時間延ばされたら、絶対最後まで行き付けないよ・・・！」

くるみ「5人行けばいい話でしょ？だったら、6人は別に行かなく
ったっていい訳だし・・・」

ラブ「ビーチから充填^{じゅうてん}所までって、かなり距離あるじゃん・・・！
絶対ヤダ・・・！」

動けばハンターに見つかる危険が高まる。

ゲーム時間延長まで、およそ14分。

全ての空タンクを運ぶ事は出来るのか！？

ミッション1終了！（後書き）

ここまで7人の逃走者（つぼみ・咲・かれん・せつな・いつき・美希・うらら）が確保された

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・ラブ・ひかり・えりか・くるみ・こまち・なぎさ・舞・ほのかの11人

逃走者に襲い掛かるゲーム時間延長の危機！

この危機を脱せられるのか！？

ゲーム時間延長阻止へ！（前書き）

猛暑の中課せられた壮絶なミッション！

逃走者達は、この難関を乗り越えられるのか！？

ゲーム時間延長阻止へ！

残り60分までに、ビーチに置き去りとなっている空タンク5本全てを充填^{じゅうてん}所に届けなければ、ゲーム時間が30分間延長され、逃走者にとって圧倒的不利な状況となってしまう。

えりか「残り60分で36万円なのが、失敗したら30分延長で残り90分になって、お金は・・・半分の18万円！？ええ！？誰か早くタンク運んでよ・・・！」

くるみ「酷過ぎる話ね」

ブルルルルル

くるみ「えっ、何？ラブから・・・何？」

ラブ「くるみ？ミッションどうするの？」

くるみ「やる訳無いじゃない・・・！誰かやるわよ」

ラブ「そうだよな。行かない方がいいよね」

くるみ「当たり前でしょ。行ったら絶対ハンターに捕まるし・・・」

ラブ「言えてる・・・じゃあね」

2人は電話を切った。

ラブ「タンクなんて重い物運んでたら、捕まるに決まってるもんね」

えりか・くるみ・ラブの3人は、早々に諦めて人任せに。

動けばハンターに見つかる危険が高まる。ミッションに参加するかもしれないかは逃走者の自由だ。

ほのか「ビーチ近いわ・・・！行きましょう・・・！」

偶然ビーチの近くにいたほのか。ミッションに挑む様だ。

なぎさ「力仕事なら、あたしに任せときな・・・！」

祈里「30分延長はかなりのマイナスだよ・・・！行かなきゃ・・・！」

ひかり「誰かがやらなきゃ、皆が損する・・・！」

りん「何処だ、タンクが置いてある所？」

こまち「急がないと・・・！」

のぞみ「このミッションは、絶対に成功させとかないと・・・！」

6人もゲーム時間延長を阻止する為、空タンクを求めてビーチへと向かう。

ほのか「あれかしら、空タンクって？」

一足早くほのかがビーチに到着し、空タンクを発見。

ほのか「これね。これを充填^{じゅうけん}所まで運べばいいのね?」

彼女は空タンクを1本持つ。ところが・・・

ほのか「えっ!?一寸^{ちよつと}待って、何これ!?すごい重い!タンクってこんなに重いのか!?」

空タンクの重さはおよそ14kg。持ったまま移動するのは、かなりのリスクを伴う。

ほのか「重い・・・!これでハンターに追われたら、絶対に逃げられないわ・・・!」

なぎさ「あつ、ほのか」

なぎさもビーチ付近にやって来た。

ほのか「なぎさ・・・!このタンクすごい重い・・・!高を括^くてたら痛い目に遭うわ・・・!」

なぎさ「そんなに重いのか?」

ほのか「あそこにあるから・・・!持ってみれば分かるわ・・・!」

言われるがままに、なぎさは空タンクの許^{もと}へ。

なぎさ「タンクとはいえ、空^{から}なんでしょ?ほのかだったら大袈裟^{おおげさ}なんだよ」

そう言ってタンクを持ち上げる。しかし・・・

なぎさ「うわっ！嘘！？ホントに重い！これを持ってけって言つの
！？ありえない！」

これで、タンクを運んでいるのはほのかとなぎさの2人。

ビーチに置かれている空タンクはあと3本。

重さに耐え切れず、タンクを置き水分補給をしながら充塙所^{じゅうてん}へ向かうほのか。

ほのか「ペットボトルの水・・・このタンク運びだけで結構消費し
そうね・・・」

彼女が持つペットボトルには、あと200ml程度しか残っていない。

ほのか「猛暑の中でのこのミッションは、体力の消耗が激し過ぎる
わ・・・」

かなり重労働の様だ。

しかし、向かう先に2体のハンター・・・

ほのか「このミッションだけはやっとなないと・・・こんなところで、
もたついてる暇は・・・えっ・・・？キヤー！」

見つかった・・・

タンクを手放し、一目散に逃げるほのか。しかし、逃げる先にもう

1体・・・挟まれた・・・

ほのか「何でこんな時に・・・！止めてー！」

逃げ続けるほのか。しかし、ハンターとの距離が縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

ほのか「いやゝ！」 ポンッ

残り時間71分2秒 雪城ほのか確保 残り10人

ほのか「タンク運んでる時に2体で・・・はあ・・・きつい・・・」

体力を消耗し過ぎ、力尽きた・・・

りん「あつた、これだ」

りんが空タンクの許もとに到着。すぐさまタンクを持ち上げる。

りん「重っ！これ力無かったら、1人じゃ無理だよ・・・！」

祈里「あつ、りんちゃん」

りん「祈里・・・このタンク結構重い・・・！祈里は多分1人じゃ持てないと思う・・・！」

祈里「ホントに？」

そう言われ、祈里は空タンクの許もとへ。そしてタンクを持ち上げる。

祈里「ホントだ・・・！すごい重い・・・！1人で持ち運べなくは無いけど・・・辛い・・・！」

のぞみ「あれ？何であんな所にタンクが？」

のぞみが、向かう先に空タンクを発見。ほのかが運んでいた物だ。のぞみは近付くや否や持ち上げる。

のぞみ「な・・・何これ！？お・・・重いよ・・・！」

これでタンクを運んでいるのは、なぎさ・のぞみ・りん・祈里の4人。残る空タンクはあと1本。

のぞみ「ハンター来たら、ハンター冷却剤使っしか無いね・・・」

志穂から受け取ったハンター冷却剤。これを投げ付ければ、ハンターを冷却させる事が出来る。但し、使えるのは1回のみ。また、その効力は5分間のみだ。

のぞみ「でも使っちゃったら、もう使えなくなっちゃうし・・・どうしよう・・・？」

祈里「あっ・・・！背後から来てる・・・！」

ミユキから受け取ったGPSモニターで、ハンターの位置を確認しながらタンクを運ぶ祈里。背後から近づいてくるハンターをモニターで確認し、別のルートを辿る。

ひかり「あっ・・・りんさん」

りん「ひかり？」

ひかりがタンクを運びりんを見つけた。

りん「ひかり、このタンク相当力が無かったら絶対運べないよ。一寸持ってみな」
— ちょ

ひかりは渡されたタンクを持ち上げる。3cmほどしか浮かばなかった。

ひかり「重い！これ無理ですよ」

りん「無理でしょ？あつちに祈里がいたから、手伝ってあげて」

ひかり「分かりました」

そしてひかりは、祈里を発見。

ひかり「祈里さん。一緒に運びましょう」

祈里「運ぶ？」

2人は協力して充填所を目指す。

こまち「あつた！これね」

漸くビーチに辿り着いたこまち。最後の空タンクを持ち上げる。

こまち「重い・・・！これは相当な重労働ね・・・！」

これで、5本の空タンク全てが逃走者の手に渡った。無事に届け、ゲーム時間延長を阻止出来るのか。

なぎさ「もう少しだ、充填所^{じゅうけん}」

充填所^{じゅうけん}近くまでタンクを運んできたなぎさ。

その近くに黒い影・・・

なぎさ「すごい汗掻^かいてるな・・・こんなに掻^かいた事無いよ、ホントに・・・ってわ〜!」

見つかった・・・

なぎさ「何でこうなるの〜!?!」

タンクを手放し、一目散に逃げるなぎさ。しかし、その差は徐々に詰められていく。最早、逃走不可能・・・

なぎさ「ひゃ〜!」 ポンッ

残り時間 6分49秒 美墨なぎさ確保 残り9人

なぎさ「折角^{せつかく}ここまで運んだのに、ありえない・・・!」

くるみ「『美墨なぎさ確保』・・・だから、目立とうとすれば絶対捕まるんだって・・・! そんな事も分からないの・・・? ホントバカよね、なぎさって・・・」

舞「なぎささん捕まった・・・!」

目の前で確保を見た舞。

舞「あそこにタンクあるわね・・・」

なぎさが手放したタンクに近付く。しかし、その近くにはなぎさを追ったハンターが・・・

舞「不味い・・・！ハンター来た・・・！」

見つかった・・・

しかし、舞は逃げる様子が無い。

舞「あっち行ってハンター！」

シュー！

舞は薫からもらったハンター除けスプレーを使い、ハンターを退けた。

舞「ホント効果あるわね、このスプレー・・・！って余韻よゐんに浸しづつてる場合じゃなかった・・・早くタンク運ばないと・・・！」

舞は近くにあるタンクを持ち上げる。

舞「重い・・・！でもすぐそこだし・・・」

そして舞は充填所じゅうてんに到着。

舞「すみません。これ、ビーチにあった空タンクなんですけど」

従業員「持って来てくれたんですか？」

舞「はい。どうぞ」

舞は空タンクを従業員に渡す。

従業員「有難う御座います。ほら！お前も謝れ！」

スタッフ「自分の不注意で・・・苦勞掛けさせてしまい、本当に申し訳ございません！」

舞「いいんですよ、そんな・・・」

牢獄

かれん「『美翔 舞の活躍により、空タンクが1本返還された』・・・！」

咲「すごい舞！」

うらら「よく運べましたね！」

美希「でも、まだ4本残ってる訳だから・・・」

いつき「喜んでばかりもいられないね」

のぞみ「ここかな？」

充填所^{じゅうけんじょ}付近にやって来たのぞみ。

舞「あつ、のぞみさん」

のぞみ「舞じゃん・・・！」

舞「タンク運んでるの？」

のぞみ「うん・・・」

舞「一緒に運びましょう。すぐ近くだから」

のぞみ「ホントに・・・？有難う・・・！」

2人は協力して充填所^{じゅうけんじょ}にタンクを運ぶ。

舞「すみません。もう1本タンク持って来ました」

のぞみ「どうぞ・・・」

かなりバテた様子で、のぞみは空タンクを従業員に渡す。

従業員「有難う御座います！」

スタッフ「すみません。何度も何度も・・・」

舞「いいんですよ」

のぞみ「疲れた〜・・・水飲もう・・・」

のぞみはペットボトルの水をラッパ飲みする。

のぞみ「ぶはあ〜！働いた後の水は格別だね・・・！よし、このまま逃げ切るぞ〜！けっ〜い！」

牢獄

かれん「またミッションのメールよ・・・！『夢原のぞみの活躍により、2本目の空タンクが返還された』・・・！」

つぼみ「すごいです、のぞみさん！」

せつな「あののぞみが、1人でタンクを・・・！？」

うらら「意外ですね」

くるみ「のぞみったら・・・体力無いくせに何やってんの・・・後で倒れても知らないからね」

ミッション成功者の陰口ばかり叩く、動きたくないくるみ。

誰かの助けに行く気は全く無さそうだ。

ゲーム時間延長まで 5分

2本の空タンクが届けられ、残る空タンクはあと3本。

運んでいるのは、りん・ひかりと祈里・こまち。間に合わなければ、ゲーム時間が30分間延長され、舞とのぞみの苦労が無駄に終わってしまう。

果たして、間に合うのか!?

ゲーム時間延長阻止へ！（後書き）

次回、ミッション2が終了！

その結果はいかに！

ミッション2終了！（前書き）

漸く実家から帰って来て、生活も落ち着きました。

今日から更新の滞りも減ります。（多分・・・）

大学生活と両立して頑張って参ります！

ミッション2終了！

こまち「早く運ばないと・・・！時間が無いわ・・・！」

充填所^{じゅうけんじょ}から1番遠い所にいるこまち。休み休み空タンクを運ぶ。

りん「こんな所でハンターに出くわしたら、絶対クリア出来ないよ・・・！」

ハンターを警戒^{けいけい}し、充填所^{じゅうけんじょ}を目指すりん。もう少しで目的地に辿り着く。

しかし、背後からハンター・・・

そして、見つかった・・・

りん「もう一寸^{ちひつと}だ・・・ハンター来るな・・・って言った傍^{そば}から！？ヤバい、最悪だ！」

背後から迫^{せま}って来るハンターに気付き、タンクを手放して一目散に逃げるりん。

りん「ヤバい、このままじゃ捕まる・・・！こうなったら・・・！」

次の瞬間、りんはハンター以上の速さで逃げているではないか。

健太から受け取った緊急用逃走靴の威力を発動させたのだ。

ゲーム時間延長まで 4分

りんはそのままハンターを撒いてしまった。

りん「ホントに速いよ、この靴・・・あっという間に視界から消えたよ・・・」

ハンターから逃げる為に9秒間使用された。緊急用逃走靴の効果はあと51秒。

りんの後ろから空タンクを運んでいた、ひかりと祈里。

祈里「あっ」

ひかり「どうしました？」

祈里「前方にハンターがいる・・・！」

ひかり「ええ？」

GPSモニターで、2人が向かう先にいるハンターを確認した祈里。

祈里「こっちから行こう。こっちならハンターいないし」

ひかり「わ・・・分かりました」

別のルートを回る事に。

りん「ヤバイ・・・タンク置き去りにしてきちゃった・・・早く戻らないと・・・！」

ハンターに追われ、手放した空タンクと距離が開いてしまったりん。すぐさま取りに戻る。

りん「時間無いな〜・・・歩いてられない・・・！」

一方、リスクを冒したくないこの女は・・・

ラブ「誰か早くミッションクリアして・・・！そして、早く時間経つて。50万円になつて・・・！」

また、事あるごとに口出しをするこの女も・・・

くるみ「何で3本目の通知が来ないの・・・？早くしてよ・・・！30分も延長されたら、堪ったもんじゃないわ・・・！」

そして、金に貪欲なこの女も・・・

えりか「半分に減るのだけは勘弁してほしい・・・！早く延長止めてほしいな〜・・・」

その場から殆ど動かず、焦燥感だけを増していく・・・

ゲーム時間延長まで 3分

こまち「あつた！ここね、充填所^{じゅうてん}」

ハンターに追われてタイムロスをしたりんと、別ルートを通つて遠回りをしているひかりと祈里を差し置いて、充填所^{じゅうてん}に辿り着いたこまち。

しかし、その近くに黒い影・・・

こまち「すみません・・・空になったタンクをお持ちしました・・・
お受け取り下さい・・・」

こまちは空タンクを従業員に渡す。

しかし、それと同時にハンターに見つかった・・・

従業員「有難う御座います！」

スタッフ「すみません。自分の不注意で・・・」

こまち「そんな・・・大丈夫ですよ・・・えっ・・・？」

こまちは迫り来るハンターに気付いたが、逃げ場無くその場に立ち
往生。最早、逃走不可能・・・

こまち「・・・」 ポンッ

残り時間6分41秒 秋元こまち確保 残り8人

こまち「嘘・・・ハンターいたの・・・？しょうがないと言えばし
ようがないけど・・・やっぱり悔しいわ・・・」

牢獄

かれん「『秋元こまち確保』！」

美希「ええ〜！？こまちさん・・・！」

なぎさ「うわ〜・・・あんなにいろいろ頑張ってたのに・・・」

のぞみ「『秋元こまちの活躍により、3本目の空タンクが返還された』・・・て事は、こまちさん・・・タンクを運んで捕まったの・・・！？ええ〜・・・？」

舞「これで、3年生は全滅・・・どうしよう・・・？」

ひかり「一寸走りながら行きましょう。歩いてたら絶対間に合いませんよ？」

祈里「そうだね・・・じゃあ、息を合わせて行こう・・・！」

ひかり「はい・・・！」

2人は2人3脚をする様に、息の合った足取りでタンクを運ぶ。

りん「くそ〜・・・！ハンターに追われたせいで、疲労が溜まったのかな・・・？さっきより重く感じる・・・！」

重い足取りでタンクを運びりん。しかし、諦めればゲーム時間が30分間延長され、他の逃走者に大きな迷惑を掛ける事になる。そうならない為にも、歯を食い縛って彼女は充填所^{じゅうてん}を目指す。

りん「何が何でも・・・このミッションは絶対クリアさせとかない

と・・・！」

ゲーム時間延長まで 2分

牢獄

咲「残り2分切ったよ」

いつき「これ成功するかな？まだ2本残ってるし・・・」

うらら「やってくれる筈ですよ、皆さん」

つぼみ「えりかは信用出来ませんが・・・お金の事しか考えてないみたいでしたから・・・」

せつな「ラブも信用出来ないわ。すぐにでも自首したいって何回も言ってたし・・・」

かれん「くるみも、ミッションは無い物だと思ってるみたいだし・・・」

ほのか「でも30分延長は相当な痛手よ？こんな猛暑じゃ、120分は疎か150分なんて持たないわ」

なぎさ「それはそうだけど・・・」

美希「あたし達は、生き残ってる人達の成り行きを見てるだけしか出来ませんから・・・」

その頃、ひかりと祈里は充墳所じゅうふんじょ近くまでやって来た。

祈里「近くにハンターもいなさそう・・・ひかりちゃん、今なら大丈夫。行こう・・・！」

ひかり「はい・・・！」

そして2人は充墳所じゅうふんじょに到着。

ひかり「すみません・・・空タンクを・・・お持ちしました・・・」

祈里「どうぞ・・・」

2人は空タンクを従業員に渡す。

従業員「有難う御座います！おいお前！こんな非力そうな2人にタンク運びをさせてどうすんだ！誠意を持って謝れ！」

スタッフ「すみません・・・！ホントにすみません・・・！こんな重労働を押し付ける様な形になってしまつて・・・！」

ひかり「そんな・・・別に苦になつてはいないですから・・・」

祈里「そうですよ・・・私達は大丈夫です・・・」

ゲーム時間延長まで 1分30秒

舞「またミッションのメール・・・！『九条ひかりと山吹祈里の活躍により』・・・」

のぞみ「『4本目の空タンクが返還された』・・・あと1本だ・・・！誰かやつてるかな・・・？」

りん「結局、ミッション成功はあたしの手に懸かってるって事が・・・」

残る1本の空タンクを運んでいるりん。果たして、間に合うのか。

ミッションをやり遂げ、充填所じゅうていしよを離れるひかりと祈里。

その近くに2体のハンター・・・

祈里「あれ？」

GPSモニターでそのハンターの動きを察知した祈里。

ひかり「どうしました、祈里さん？」

祈里「ひかりちゃん、こっちに行こう・・・！ハンターが2体近くに・・・！」

ひかり「ええ・・・！？分かりました・・・！」

2人はすぐさまその場を離れる。

しかし、見つかった・・・

ひかり「来た！」

祈里「うわっ！」

別方向に逃げる2人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

ひかり「こっち来た！」

ひかりだ・・・

ひかり「わぁーっ！速いー！」

一目散に逃げ続けるひかり。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

ひかり「あぁっ！」 ポンッ

残り時間 6 1 分 3 秒 九条ひかり確保 残り 7 人

ひかり「速過ぎる、ハンター・・・あぁっ・・・折角せっかくここまで残ってたのに・・・はぁ、悔しい・・・」

ゲーム時間延長まで 1 分

のぞみ「あっ！ひかりが確保された！」

舞「うわっ・・・とうとう1年生も全滅・・・」

りん「マジで時間無い・・・！あと52秒・・・！急げ・・・！」

充填所^{じゅうてい}へと急ぐりん。小走りで目的地との距離を詰めていく。

くるみ「あと45秒・・・！」

ラブ「ヤダなく、残り90分から再スタートになるの」

えりか「ホントに延長だけは止めて。あたしのお金が飛んでっちゃう」

りん「よし・・・！もう目の前だ・・・！ハンターいないかな・・・？」

ゲーム時間延長まで 30秒

舞「あと30秒切ったわ・・・！」

のぞみ「この苦勞が無駄に終わったら、もう逃げ切れないよ、誰も」

祈里「もうすぐ20秒・・・！」

りん「よしっ、いないな・・・！急げ・・・！」

ゲーム時間延長まで 20秒

りん「すみません・・・！すみません・・・！」

りん、漸く充填所^{じゅうてい}に到着。

りん「これ・・・最後の空タンクです・・・」

ゲーム時間延長まで 10秒

りん「どうぞ・・・」

りんは空タンクを従業員に渡す。

従業員「有難う御座います！」

ミッションクリア

従業員「おい！お前は一般の中学生の女の子に、しかも6人にこんな重労働を押し付けたんだぞ！無責任な奴め・・・！お前は今日付けでクビだ！」

スタッフ「そ・・・そんな～・・・」

りん「そんなちつぱけな事だけでクビにするなんて・・・ハートの小さい従業員さんだね～・・・そのスタッフさんがいなくなったら、誰がここを担当するの？」

従業員「・・・っ！まあいい、今日の事は大目に見てやる。だが、もう次は無いと思え。いいな？」

スタッフ「は・・・はい！」

りん「まっ・・・ミッションは何とかクリア出来たし、この2人のいざこざも治まったし、一件落着かな・・・？」

ピリッピリッ ピリッピリッ

のぞみ「メール来た。ミッション結果だ」

祈里「『夏木りんの活躍により、最後の空タンクが返還された』・
・やった・・・！クリアしたんだ・・・！」

舞「『全てのタンクが返還され、ゲーム時間延長は免れた』！良かった」

ラブ「59分45・・・44・・・43・・・時間延びてない！やった！これで幸せゲット出来そう」

えりか「36万2600・・・2700・・・2800・・・お金減ってない！嬉しい！」

停止寸前だったコンプレッサーも運転を止める事無く、無事にタンクの充填じゅうてんを行う事が出来た・・・

従業員「さっきはきつい事言って悪かったな・・・」

スタッフ「いいですよ。もう気にしてませんから」

ギクシャクしていた2人の関係も、何とか取り繕えた様だ・・・

りん「それにしても、さっきのミッションの間はかなり減ったな」。

やっと折り返し地点に来たって言うのに、残り7人だよ？半分以上じゃない」

舞「これ以上人数減ったら、これから先かなり不利になるわね・・・」

現在エリアには4体のハンター。彼等は視界に捉えた逃走者を見失うまで追跡する。待ち伏せなどはしない。

くるみ「思ったら、運動神経抜群じゃない人ばかり残ってるわね。のぞみとか舞とかラブとか祈里とか・・・そういうものなのかしら、逃走中って」

逃走中というゲームは、運動神経がいいばかりでは勝利を手にする事は出来ない。それを活かせる運も必要なのだ。

祈里「ぷはあ・・・」

ペットボトルの水を飲んでいる祈里。

祈里「あっ・・・もう殆ど残ってない・・・どうしよう・・・？」

彼女の水は底を突きそうだ。

しかし、それは彼女に限った事ではない・・・

のぞみ「うわゝ、水飲み過ぎちゃった・・・あんまり残ってないじゃ〜ん・・・」

舞「500mlじゃ少な過ぎる・・・まだ喉が潤ってない感じ・・・

「

りん「これじゃあ、途中で絶対熱中症になるよ・・・」

3人のペットボトルの水も、最早100mlも残っていなかった。

・・・と、その時・・・

ピリッピリッ ピリッピリッ

えりか「嘘？またミッション？もう止めてよ」

舞「えっ・・・？何これ・・・？」

くるみ「『これより、ゲームを一時中断し』・・・」

のぞみ「『^{しば}暫しの休憩時間とする』・・・えっ・・・？」

祈里「『全員コテージに集合せよ！』・・・コテージ・・・何処だろう・・・？えっと・・・あつ、ここだ・・・」

ラブ「休憩時間ってどういう事？そんな事、実際の逃走中では無かった筈^{はず}なのに・・・」

りん「あたし達が中学生って事もあるから、体力的に心配してくれてるんだろっね・・・分かんないけど」

多くの疑問を抱きながらも、生き残っている7人の逃走者は、エリア内にあるコテージへと向かう。

そのコテージで待ち受けているものとは!?

ミッション2終了！（後書き）

残る逃走者はりん・のぞみ・祈里・ラブ・えりか・くるみ・舞の7人

彼女達に暫ししばしの解放感を与える休憩時間。

そこで目の当たりにするお饗もてなしとは何なのか！？

それは次回明らかとなるだろう！

休憩時間（前書き）

今日成績表を取りに行ったら、前期の授業単位が全部取れてた〜！
ワ〜イ！＼（＾Ｏ＾）／

この調子で後期も頑張っていきたいと思います！

無論、この小説もどんどん進めていきます！

休憩時間

りん「何するんだろう、コテージで？」

舞「ゲームが始まってから、1時間くらい経ってるわね」

祈里「多分昼食・・・かな？」

のぞみ「休憩は兎も角、水を補給してほしいよ」

思い思いの言葉を口にする逃走者達。

最初にコテージに辿り着いたのは、港付近から殆ど動いていなかったラブだ。

ラブ「ああ・・・ここだ、コテージ。・・・あれ？あの人って・・・」

コテージのドアの前に立ち開る^{はだか}1人の男・・・

ラブ「あつ！あの時の！」

今朝、逃走者達をこのエリアへと連れてきた、ハンターを彷彿とさせるSPの様な男だ。

男「お待ちしていました、桃園ラブ様・・・生存している者が全員集まるまで、暫くお待ち下さい・・・」

ラブ「えっ？中入れないの？一寸待つてよ・・・暑くてしょうがな

いんだけど・・・」

男「では、あちらのヤードの下にでも・・・日陰になっていますので、多少は快適かと・・・」

そう言われ、ラブは近くのヤードへ。そして、そこにある椅子に腰掛ける。

ラブ「はあゝ・・・涼しいゝ・・・皆早く来ないかなゝ？」

そう言っている間に、今度はえりかがやって来た。

えりか「暑ゝつ・・・やつと着いたよ・・・あれ？あの人って・・・今朝あたし達の迎えに来てた・・・」

男「お待ちしていました、来海えりか様・・・全員がこちらに集まるまで、あちらのヤードでお寛くわんぎ下さい・・・既に桃園ラブ様がこちらに来ております・・・」

えりか「ああ、そう・・・もう先着がいたんだ・・・」

えりかはそのままヤードへと向かう。そこには、椅子に腰掛けリラックスしているラブの姿・・・

えりか「ラブ！」

ラブ「えりか。来たんだ」

えりか「まあね。あつ、全然疲れた感じ無いね」

ラブ「分かる？港の近くから全然動いてなかったからさ。でも、そんな事言ってるえりかだって、全然疲れてなさそうじゃん」

えりか「そりゃね、ミSSION全部任せてるから」

ラブ「やっぱりそうだよね。こんな暑い中ミSSIONやるなんて、完全な自殺行為だもんね」

ラブ&えりか「アハハハハハハハ！」

？「へえ〜・・・あんた達もそういう考えなのね〜」

2人はギクツとし、恐る恐る声のした方を向いた。そこには・・・

ラブ「く・・・くるみ・・・！」

えりか「び・・・吃驚びっくりさせないでよ・・・！もし今のがりんとかだつたら・・・」

くるみ「『間違いなくボコボコにされてた』・・・かしら？」

えりかは首を何回も縦に振る。

くるみ「でもいいんじゃない？動くも動かないも、その人次第な訳だし・・・まつ、私は今までミSSIONに参加してた人達は、皆偽善者だと思ってるからね。あなた達の言い分は否定しないわ」

ラブ「ぎ・・・偽善者って・・・酷過ぎる悪口・・・」

くるみ「だってそうじゃない？りんは口悪いし、のぞみや祈里や舞

は極度の運動音痴だし・・・のぞみに関しては、ホームラン級のバカでしょ？そんな人が善人まが紛いな事したって報いがある訳でもないし・・・況まして逃げ切れる訳じゃあるまいし・・・私はミッシヨン全部スルーして逃げ切るつもりだから・・・」

？「誰が口が悪いですって？」

？「極度の運動音痴でホームラン級のバカで悪かったね」

そのあまりにも殺気を感じる言葉に、くるみを含む3人は冷や汗を掻いてガタガタ震えていた。その声の主は・・・

りん「貢献者を嘲あやむってそんなに楽しいかー！？（怒）」

のぞみ「私は偽善者なんかじゃないもん！（怒）」

くるみ「ご・・・ゴメンなさい、ゴメンなさい・・・！」

えりか「ゲツ！りん・・・！」

ラブ「のぞみまで・・・！」

自分達をバカにしたくるみを追い掛け回すのぞみとりん。そこへ・・・

舞「な・・・何が起こってるの、ここでは・・・？」

祈里「少なくとも、仲間割れ・・・かな・・・？」

状況を呑み込めずにやって来た舞と祈里。

男「それでは皆さん・・・」

突然聞こえた男の声。7人は男の方を向いた。無論のぞみ・りん・くるみの3人は、追いかけてこを止めた。

男「全員集まりましたので、コテージの中へご案内致します・・・どうぞこちらへ・・・」

そう言われ、7人は男の後を続く。そして、コテージのドアの前で男は一旦足^{いったん}を止めた。

男「それでは今から休憩時間と致します・・・休憩は1時間・・・中にタイマーがありますので、偶^{たま}に時間を気にしながら休憩をお願いします・・・休憩時間を過ぎると、強制的にゲームが再開します・・・その時にコテージに残っていた人は強制失格となりますのでご注意ください・・・」

りん「強制失格って言葉を聞くと、これもゲームの内なのかって思っちゃうよ・・・」

祈里「ホントだね・・・」

男「それでは・・・心行くまでの休息を・・・」

言い終わると、男はコテージのドアを開ける。それと同時に、中に掲げられているデジタルタイマーが60分から1秒ずつカウントダウンを始めた。

えりか「さうて・・・ここでどうしろって言うのかな？」

くるみ「えりかったら、ホントバカね。よく見なさいよ」

えりか「ふえ？」

くるみが指差す先には、様々な料理が並べられている長いテーブル。

のぞみ「わあ〜！美味しそう〜！」

祈里「やっぱり昼食だったんだ」

舞「でもこれ・・・一寸豪華過ぎない？見た事無い様な料理がいっぱいよ？」

？「そりゃそうさ」

？「ここまで頑張ったご褒美さ」
ほうび

突然聞こえた2人の男の声。7人は声のした方を向く。そこに立っていたのは・・・

祈里「ウ・・・ウエスター！？・・・じゃなくて・・・隼人さん・・・！？」

ラブ「サウラー！？・・・じゃなかった・・・瞬さん・・・！？」

嘗てラブと祈里を苦しめた、ウエスターとサウラー改め西 隼人と南 瞬だったのだ。

ラブ「な・・・何で2人がここに！？」

瞬「実は・・・僕等はただここに海水浴に来ただけだったんだけど・・・君達が会ったあのハンターに似た男が突然現れて・・・」

隼人「『この領域はお前達のいる所では無い。今すぐ出て行け。出て行きたくなければコテージで働け』と命令された・・・」

瞬「もちろん勿論最初は断るつもりだったが・・・あの男は僕達の過去を知っているらしくて、『断ればその事実を世間にばら撒く』と脅されて・・・」

隼人「結局ここで働く羽目になってしまったんだ・・・」

舞「酷い・・・!」

りん「あの人は・・・結局いい人なのか、それとも悪い人なのか・・・」

くるみ「このゲームが終わったら・・・全てが分かるかもしれないけど・・・」

のぞみ「もうー!皆そんな硬い顔しないでさ!今は休憩する為にいっぱい食べとこうよ!」

りん「のぞみったら・・・ホントに緊張感無いよね」

のぞみ「だって・・・その為にこのコテージに来たんでしょ?」

えりか「それはそうだけど・・・」

祈里「若しかして・・・」

ラブ「どうしたの、ブッキー？」

祈里「実際の逃走中にあつた、『謎の存在』って言うのと何か関係があるんじゃないのかな？」

彼女の口から出た言葉、「謎の存在」・・・

それは、実際に放映されている逃走中のエンディングで映し出されているシーンの事だ。

舞「でも、現段階ではその素性は全く分かつて無いんでしょ？」

えりか「いろいろと何かを彷彿させるシーンほっふつは所々見掛けるけど・・・」

隼人「目に見えない存在・・・か」

瞬「誰も知り得ない事実・・・と言つべきか」

りん「兎に角、このゲームが終われば恐らく・・・！」

くるみ「『謎の存在』の目的も見えてくるかもね・・・！」

祈里「その為に、私達は逃げ切らなきゃいけない・・・！」

ラブ「よし！そうと決まれば、たくさん食べてパワーを付けるぞく！」

えりか「時間内に食べられるだけ食べるぞ〜！」

のぞみ「豪華な料理、全部食べ尽くすぞ〜！けって〜い！」

舞「3人のせいで、折角せつかくのシリアスな展開が台無しね・・・」

りん「ホントだよ・・・」

くるみ「のぞみなんか、食べる事だけしか考えてないし・・・」

祈里「まあ・・・元気がいいって事で・・・」

それから7人の逃走者は、用意されていたA-5ランクの牛肉のステーキ・最高級の魚を使用した鮎すしなど、初見の豪華料理に舌鼓を打った。

ラブ「牢獄の人も来て食べればいいのにね」

その牢獄では・・・

かれん「屈辱ね・・・」

仕切りが無く、中が生ゴミの様にぐちゃぐちゃになっている弁当を食べさせられていた。それもかなりの少量だ。

お嬢様育ちのかれんは、かなりの精神的ダメージを受けている。

咲「何だよこれ〜・・・見た目以上に不味いんだけど・・・」

うすら「しかも、こんな少ないんじゃないとお腹いっぱいになりませんよ……」

なぎさ「いくら敗者だからって、この扱いは無いよ……」

11人の負け犬達は、涙声でネチネチ愚痴を漏らし続ける。

こまち「生き残ってる人達……一体何食べてるのかしら……？」

せつな「少なくとも……私達よりはいい物でしょうね……」

いい物過ぎる物だ……

ひかり「これじゃあ、物乞いに見られちゃいます……」

美希「間違い無くバカにされるわね……あたし達……」

つぼみ「私なんて、端からバカにされてる人間ですから……お似合いでしょ……？」

ほのか「つぼみさん、そんなネガティブにならなくても……」

いつき「というか……自虐的になってるし……」

それから50分後……

休憩時間終了まで残り5分を切っていた。

生存者7人全員は既に最高級ビュッフェを満喫した様だ。

のぞみ「じゃっ、美味しい物いっぱい食べれたし、疲れも吹き飛んだし」

ラブ「この先も頑張るぞー！」

全員「おおー！」

7人はコテージを後にしようとする。その時・・・

隼人「待て！」

突然隼人が止める。

祈里「な・・・何で止めるんですか？もう時間無いんですよ？」

隼人「お前達・・・ペットボトルの水、結構少なくなってるんじゃないのか？」

そう言われ、全員が「あっ」と口を揃える。

瞬「そうだと思ったんだよ・・・だから・・・はい」

瞬は1つの段ボール箱を渡した。

えりか「何これ？」

瞬「いいから開けてみな」

言われるがままに、その箱を開ける逃走者達。そこには・・・

舞「スポーツドリンク？」

りん「これをあたし達に？」

瞬「そうだ」

隼人「身体の水に近い飲料水だからな。屹度^{きつと}役に立つ筈さ！」

のぞみ「有難う御座います！」

7人は500mlのスポーツドリンク飲料を手に取り。

ラブ「じゃあ、改めて・・・絶対逃げ切るぞー！」

全員「おぉー！」

7人はコテージを後にした。

そして、自らが決めた地点からゲーム再開の時を待つ。

ゲーム残り時間55分・・・

生き残る者は現れるのか！？

休憩時間（後書き）

最高の休憩時間を過ごした逃走者達

しかし次回、史上最悪のミッションが7人を襲う！

エリアへ向かって走行する高速船。そこには無数のハンター

この高速船の目的は！？

ゲーム再開！（前書き）

残り55分から再スタートとなる逃走中！

残る7人の逃走者の運命はいかに！？

そして、エリアに近づく高速船が巻き起こす事件とは！？

ゲーム再開！

エリアに散らばる逃走者達。

そして、残り時間55分――ゲーム再開

逃走者確保の為に、再び起動し始める4体のハンター。

ラブ「今のところ、39万2千円か・・・あと20分ぐらいで50万円だね・・・！早く時間経って・・・！」

目標金額50万円のラブ。先程と同じ、港付近に身を潜めている。

りん「今は午後2時くらいかな？今まで以上に暑いんだけど・・・！」

額ひたいに大粒の汗を浮かべているりん。

りん「とりあえず、このスポーツドリンクは大事にしないと・・・！」

くるみ「あれハンターじゃない？」

物陰からハンターを見つけたくるみ。

くるみ「やっぱり怖過ぎる・・・！全然動けない・・・！」

ヤードで見せた強気な態度とは一変、子猫の様に怯おびえている。

祈里「ハンターの位置には気を付けとかないと・・・気を抜いてたら危ないよ・・・!」

GPSモニターを見て、ハンターの位置を確認しながら移動する祈里。

えりか「動かない方がいいな」

ゲーム開始から、殆ど場所を移動してないえりか。

えりか「ハンターの前には、あたし達はあまりにも無力だし・・・」

ハンターから逃げ切る事は容易ではない。

舞「ハンター4体に対して、残ってるのが7人・・・残り時間は5分・・・いくらなんでも減るペースが速過ぎるわ・・・!」

実際の逃走中でもあり得なかった事態が起こっている事に不満を漏らす舞。

舞「これじゃあ、言わば全滅パターンじゃない・・・!」

のぞみ「牢獄の人を助けるミッションとか来ないかな?」

ミッションに期待を寄せているのぞみ。その様なミッションに参加する意思がある様だ。

この港には、数多くの海神わたつみが海を守り、人々を海へ呼び寄せるとい

う言い伝えがある・・・

その為、毎年観光客は延べ100万人以上訪れるほどであり、漁業も大繁盛なのだ・・・

しかし・・・今年は勝手が違う・・・

今年の観光客は何故か半減し、漁も伸び悩んでいた・・・

それもその筈・・・

この港の海に棲むと言われている海神達わたつみの身に、信じられない事が起こっていたのだ・・・

祈里「何か客足が治まった感じだけど・・・もうすぐ夕方になりそうだから、皆帰ってるのかな？」

りん「ビーチの方、さっき来た時より観光客が少なくなってる気がするんだけど・・・気のせい？」

舞「帰るには不自然ね・・・何て言うんだろう・・・？」

のぞみ「逃げる様に帰ってる感じがする。慌てふためいてると言うか・・・」

えりか「何かに怯おびえてる感じに見えなくもない」

くるみ「何があったのかしら？」

ラブ「さっきまでの楽しげな声が、全然聞こえてこないんだけど」

牢獄

咲「観光客が皆帰ってくよ」

いつき「帰ってくと言う割には不自然な動きだよね？」

美希「何かから逃げてる感じ・・・」

こまち「一体どうしたのかしら？」

なぎさ「あたし・・・嫌な予感しかしないんだけど・・・」

・ 観光客の身に何が起こっているのか、逃走者全員はまだ知らない・・・

ビーチでは、観光客の驚愕の音が轟とどろいていた・・・

男「おい！何だよあれ！」

女「ば・・・化け物〜！」

海辺に現れた無数の怪物・・・否、^{いや}その怪物こそこの海に棲むと言
われている海神^{わたつみ}その物だったのだ・・・

男「まさか・・・この海にしていると信じられてきた・・・海の神・・・
!?」

男「海の神!? 何で・・・!?」

女「いや〜!」

女「助けてー!」

観光客に無作為に襲い掛かる海神^{わたつみ}達・・・

しかし、人々を呼び寄せると噂されている海神^{わたつみ}達が、観光客を襲う
筈が無い。一体何故・・・

その答えは、すぐに分かった・・・

海神「ザケンナー!」

海神「ウザイナ〜!」

海神「コワイナ〜!」

海神「ホッシーナー!」

海神「ナーケワメーケー!」

海神「ソーレワターセー!」

海神「うゝみゝはゝ広いゝなゝ！」

最初のミツシヨンで封印された筈の怪物達が、逃走者への復讐の為に海神達に憑依したのだ・・・

そして、彼等の存在は別の物を引き寄せていた・・・

水平線の彼方からうつすらと影を現した3艘の高速船・・・

そこには無数のハンターが乗っていた・・・

更に、高速船の登場で、逃走者のタイマーが狂い出したのだ・・・

のぞみ「やっぱり帰ってるんじゃないよ・・・！何かから逃げてる・・・！」

祈里「あの悲鳴・・・！確実に他人事^{ひとごと}じゃない・・・！」

えりか「ダイビングしてたと思う人達まで、ウエットスーツ着たまま一緒に逃げてるし・・・！」

舞「でも何で？何で皆逃げてるの？何が起こったの？」

ラブ「もうヤバいんじゃない・・・？」

くるみ「怖い、怖い、怖い、怖い、怖い・・・！」

ピリッピリッ ピリッピリッ

りん「何だ、何だ？あつ、ミッションだ・・・！ミッション3・・・！」

舞「『エリア内の海に棲んでいる海神達わたつみが、怪物に憑依されて観光客を襲い始めた』・・・ええ！？」

ラブ「『海神わたつみに引き寄せられる様に、水平線の彼方から3艘の高速船が現れた』・・・高速船？」

くるみ「『船にはそれぞれハンターが200体ずつ』・・・200体！？合計600体が乗っている』！？何よそれ！？」

えりか「600体って・・・シャレになんないよ！『更に、3艘の内1艘には妨害電波発生装置が作動しており』・・・」

のぞみ「『タイマーが狂い出した』！？わっ！ホントだ！残り45分で秒数が行ったり来たりしてる！ええ！？どうすんの！？」

りん「『阻止するには、灯台を点灯させて合図を送り、船を引き返さなければならぬ。但し、船は2艘しか引き返す事が出来ない』！？はあ！？200体は確実に上陸するって事！？」

祈里「『急ぎたまえ！』・・・そんな事言われたって・・・！200体が来られたら絶対逃げられないじゃん！」

MISSION？ ハンターフェリーを追いつ返し、新エリアへ移動せよ！

怪物達に憑依され、観光客を次々に襲う海神達^{わたつみ}。彼等に引き寄せられる様に、3艘の高速船が姿を現した。それぞれの船にはハンターが200体ずつ、合計600体乗っている。更に、1艘の船に妨害電波発生装置が組み込まれており、タイマーが45分と44分59秒の一進一退を続けている。このままでは、残り45分で全滅か自首を待つしかなくなってしまう。ハンターフェリーの到着を阻止するには、エリア内3か所に設置されているレバーを3人同時に下ろし、灯台を点灯させて船を引き返さなくてはならない。但し、引き返す事が出来るのは2艘まで。妨害電波発生装置を組み込んだハンターフェリーを引き返せなければ、エリアに到達するまでタイマーは狂い続ける。

更に、200体のハンターが上陸すれば、逃げ切るのは粗^ほ不可能となる。その為、港に用意された緊急用のボートに乗り、新エリアへと移動するしかない。但し、ボートは3艘しか用意されておらず、乗り遅れればボートは港を離れてしまい、エリアを埋め尽くすハンターの餌食となる。

りん「きつ過ぎだよ・・・！船引き返せだの、エリア移動しろだの・・・1度に2つの仕事を中学生の女子に押し付けないでよ・・・！」

のぞみ「一寸^{ちよつと}待ってよ・・・！高速船、いつ頃エリアに来るの・・・？」

タイマーが狂っている為、3艘のハンターフェリーがいつ港に到達するか分からない。

舞「こんな危機的状況、生まれて初めてよ・・・！怖過ぎる・・・！」

祈里「全滅を待つしかないって・・・そんなの嫌だ・・・！早く船

止めないと・・・！」

エリアには4体のハンター。ミッションに動けば遭遇する危険も高まる。

えりか「あれか、緊急用のボートって・・・！今から乗っても大丈夫かな？」

早めにボートに乗る事も可能ではある。しかし、ボートはすぐには出港しない。

ラブ「もう一寸ちよつとだけ粘って、50万円まで釣り上がったらずくに自首しよう・・・！200体なんて絶対無理・・・！」

くるみ「誰かやって・・・！早く高速船引き返してよ・・・！」

自分の事しか頭に無いくるみ。ハンターフェリーを引き返す気は全く無さそうだ。

ハンターフェリー到達まで、推定およそ19分。

2艘のハンターフェリーを引き返し、無事新エリアへ移動出来るのか！？

ゲーム再開！（後書き）

10月10日の逃走中

過去最長のゲーム時間及び過去最高の賞金らしいです！

必ず見ましょう！

ハンターフェリー入港拒否へ！（前書き）

kさん・千歳 涼介さん・しょうたろうさん、いつも感想を書いてくださいます。有難う御座います

そして、BOSSさん・ターザンさん・ハリケーンさん・リスくんさん・ワグナーさんも感想有難う御座います

徐々にエリアに近付く、600体という前代未聞の大量ハンターを乗せた高速船。

逃走者達は一体どうなってしまうのか！？

ハンターフェリー入港拒否へ！

逃走者は、3ヶ所中2ヶ所のレバーを3人同時に下ろし、灯台を点灯させて船を引き返さなければならない。そして、ハンターフェリーから放たれるハンターから逃れる為、港に停泊している緊急用のボートに乗り、新エリアへと移動しなければならない。

りん「何処だ、レバーって？」

地図を見ながら、レバーの位置を探すりん。

りん「3人必要なんでしょ？電話して呼び寄せるか」

りんは電話を掛ける。

ブルルルルル

のぞみ「ん？電話？りんちゃんからだ・・・！もしもし？」

りん「のぞみ？今何処にいるの？」

のぞみ「今ね、売店がいつぱい並んでる道にいるんだけど・・・りんちゃんは？」

りん「あたし今、ビーチ沿いの道にいるんだよ。それでさ、民宿の方にレバーがあるでしょ？」

のぞみ「ホントだ。ちゃんと地図に書いてある」

りん「そのレバー下ろそう。向かう道中で誰かと会ったら、その人誘って。あたしも誰か誘ってみるから」

のぞみ「OK」

2人は電話を切った。

りん「よし……！あと1人……やっぱり祈里しかないのかな？」

祈里「ハンターがレバーのある所に集中してる……！これじゃ近付けない……！」

GPSモニターを使って、ハンターの位置とレバーのある位置を照らし合わせる祈里。思う様に動けない。

ラブ「一寸何これ……！？賞金が全然上がらないじゃん……！」

タイマーが残り45分と44分59秒の表示を繰り返している為、当然賞金も45万円と45万100円の表示を繰り返している。ラブの目標金額である50万円に届かせるには、妨害電波発生装置が組み込まれているハンターフェリーを追い返さなくてはならない。

ラブ「誰かさ……早く高速船引き返してよ……！」

欲求不満に陥おちいっていても、ミッションに参加する気は無い様だ。

民宿付近のレバーを目指すのぞみ。彼女が向かう先には、ハンターにビビりまくり、ずっと隠れっ放しのくるみの姿が……

のぞみ「あつ！くるみ！」

くるみ「えっ？のぞみ？何でこっち来るのよ！？しかも、寄りによつてあんたが！」

のぞみ「そんな言い方無いでしょ！？近くの民宿に、高速船を引き返す為のレバーがあるんだよ。それで、りんちゃんもこっち来るから、私達3人でレバー下ろそうよ」

りんとの口約通り、くるみをミッションに誘う。しかし・・・

くるみ「嫌よ、ミッションなんて！あんた達2人だけ行って、2人とも捕まればいいじゃない！」

のぞみ「な・・・何でそういう事言うの・・・！？やれば少しは有利に事を進められるのに・・・！」

絶望がのぞみを襲う・・・

くるみ「運動音痴でホームラン級のバカで偽善者ぶったあんたが言ったところで、説得力に欠けるし・・・第一、このゲームは生き残る事に意味があるの！なのに、ミッションに参加してハンターの餌食にされたら堪^{たま}ったもんじゃないわ！」

くるみの言う通りだ・・・この逃走中というゲームは、捕まってしまえばそこで終わりだ。しかし、今はそんな正論を盾にして口論をしている場合ではない。

のぞみ「酷いよ・・・！」

くるみ「ええ？」

のぞみ「ミッションは自分の為だけにやってるんじゃないのに・・・そんな風に思ってたなんて・・・！もういいよ！くるみとなんか2度と口聞いてあげないんだから！」

目に涙を浮かべ、のぞみはミッションへと足早に向かう。そんな彼女を見て、くるみは途方に暮れる事も無く・・・

くるみ「勝手にすれば！？あんたなんか、さつさと捕まればいいのよ！バーカ！ホント生き残ってるの低能ばかり！」

暴言とも取れる言葉を吐き捨てる。

その荒々しい声を近くで聞いていたえりか。

えりか「今ののぞみとくるみの声だよね？何で2人して、喧嘩みたいに罵声浴びせ合ってるの？」

突然の事に動揺を隠せない様だ。

しかし、その近くに黒い影・・・

えりか「どうしよう？レバー結構近いんだよね・・・行ってみようかな・・・？ん・・・？ヤバッ！」

見つかった・・・

ピーーーーーー

えりか「ヤバい！来てるよー！」

一目散に逃げるえりか。何度も曲がり角を利用し、ハンターの視界から外れようとする。

逃げ続ける彼女の近くに、舞の姿・・・

舞「えっ？あれって・・・えりかさん？ハンターに追われてるみたい・・・！」

反射的にその場を離れる。

尚も逃げ続けるえりか。

ピーーーーーーーーーーーーーーーー

しかし、ハンターはえりかを見失った様だ。

えりか「あれ？追って来ないよ？撒いたのかな？ハア・・・良かった・・・あつ、あれって・・・」

逃げた先にあつたのは、民宿近くにあるレバー。既にのぞみが到着している様だ。

えりか「のぞみー！」

のぞみ「ん？えりかだ」

合流する2人。

えりか「これで2人か・・・あと1人・・・」

のぞみ「もうすぐりんちゃんが来ると思うから、ここで待つてよう」

えりか「うん・・・あれ？のぞみ、何で涙目になってるの？それに、さっき聞こえた怒声って・・・」

のぞみ「へっ？」

えりかに指摘され、目に浮かんでいた涙を拭う。

のぞみ「な・・・何でも無いよ！何でも無い！」

えりか「ふん・・・」

誰かに感付かれては困ると思い、ケロッとした顔で誤魔化すごまかのぞみ。
それも今となつては手遅れだが・・・

りん「おゝい！のぞみ〜！」

のぞみ「あっ！りんちゃん！やっと来たよ〜」

えりか「あたしは、そんなに待つてないけどね〜」

りん「あっ・・・えりかも来てくれたんだ。都合いいね」

えりか「エへへへ・・・あたしだって、やる時はやるんだよ」

りん「じゃあ、さっさと下ろそう」

のぞみ・りん・えりか「せーの・・・」

3人はレバーを下ろす。

すると、エリア内に聳え立つ灯台が黄色の光を点灯させた。

それにより、ハンターフェリー1艘が方向転換。沖の方へ進んで行った。

えりか「そうだ！タイマーは？タイマーはどうなってるの！？」

3人はタイマーを確認する。時間の歪みは・・・

りん「ダメだ！全然進んでない！」

直っていないかった・・・

えりか「ええー！？これじゃないのー！？」

のぞみ「兎に角、あと1つしか下ろせないよ！？」

えりか「どうすんの！？もう高速船が見えてきたよ！？豆粒くらいの大きさだけど・・・」

りん「見つけるしかないよ、レバーを。兎に角、この3人で固まって行こう。ハンターに見つかりやすいけど、そうでもしないと400体が来ちゃうし・・・！」

えりか「OK！」

のぞみ「急ごう!」

ハンターフェリー到達まで 推定10分

ピリッピリッ ピリッピリッ

舞「何?」

祈里「『夢原のぞみ・来海えりか・夏木りんにより、ハンターフェリー1艘を追い返す事に成功』・・・!」

ラブ「『下ろせるレバーはあと1つ』・・・あれ?時間の事に全く触れてない・・・って事は・・・!?」

ラブはタイマーを確認する。

ラブ「狂ったまま・・・どうしよう・・・?これじゃあ、いつまで経っても50万円に行き付かない・・・!」

くるみ「えりか・・・あれだけミッションやらないって言うついて・・・裏切ったわね?」

今度はえりかに敵対心を抱くくるみ。

くるみ「まっ、どうせ3人ともすぐに捕まるんだから。自業自得よ・・・!」

未だにミッション参加者をこっ酷く嫌っている様だ。

りん「そういえばさ・・・のぞみ」

のぞみ「ん？何？」

走りながら、りんはのぞみにある事を尋ねる。

りん「さつき、あんたとくるみの怒りに任せた様な声が聞こえてたんだけど・・・あれって何なの？」

のぞみ「ええっ！？き・・・気のせいじゃない？」

えりか「あたしも同じ事聞いたんだよ、さつき。その時のぞみ、目に涙を浮かべてたし・・・」

りん「マジで？やっぱり何かあったんじゃない、くるみと」

のぞみ「だ〜から〜・・・ホントに何でも無いんだってば〜」

りん「ホントかな〜？」

えりか「明らかに嘔吐^っしてるよね？」

のぞみ「嘘じゃないもん・・・そんな事より、早くレバー行こつよ」

りん「はいはい・・・」

しかし、3人が向かう先にハンター・・・

えりか「あっ！2人とも止まって！」

りん「えっ？何？」

周囲を警戒するえりか。そして・・・

ピーーーーーー

えりか「やっぱりだ・・・！逃げよう！」

のぞみ「何、何、何、何？」

えりか「ハンター来た！」

りん「マジかよ！？」

見つかった・・・

一目散に逃げる3人。ハンターに追われ、3人が引き裂かれていく。
ハンターが狙いを定めたのは・・・

ピーーーーーー

のぞみ「来た〜！」

のぞみだ・・・

のぞみ「うひゃ〜！ハンター来ないで〜！」

一目散に逃げるのぞみ。その声を聞いたくるみは・・・

くるみ「ほら見なさい・・・！ハンターに追われてるじゃない・・・
！ミッション参加者は捕まる運命なのよ・・・！」

遠い目で侮辱する・・・

りん「のぞみが標的にされた・・・!」

緊急用逃走靴を8秒使い、ハンターから逃れたりん。靴の効果はあと43秒。

えりか「吃驚^{びっくり}した・・・!ハンターいたよ・・・!」

えりかも間一髪撒いた様だ。

のぞみ「もう・・・もうヤバい・・・追いつかれる・・・」

逃げ続けるのぞみ。しかし、30m以上あつた距離も10m足らずまで締められ絶体絶命。その彼女が逃げる先に・・・

ラブ「もうこのまま自首しちゃうかな・・・?」

ラブの姿・・・

ラブ「何この足音・・・?ん・・・?」

音のした方を見ると、そこにはハンターに追われているのぞみの姿が・・・

ラブ「ええ?ハンターに追われてるじゃん・・・!ヤバい・・・!ここから離れないと・・・!」

すぐさま場所を移動する。

その時、ハンターの標的が突然ラブに変わった・・・

ラブ「ええゝ！？何であたしなのゝ！？」

一目散に逃げるラブ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

ラブ「うわあゝっ！」 ポンッ

残り時間45分（故障中） 桃園ラブ確保 残り6人

ラブ「ううわゝ・・・確実にのぞみが捕まると思って・・・油断してた・・・はああ・・・自首しとくんだったゝ・・・」

抜け駆けしようとした罰だ・・・

ピリッピリッ ピリッピリッ

舞「今度は何？確保情報・・・！」

くるみ「のぞみでしょ？言われなくったって分かってるわよ・・・
つてええー！？」

牢獄

かれん「『桃園ラブ確保』！」

かれん以外「ええー!？」

せつな「ここまで生き残つといて・・・嘘でしょ？」

美希「これで、あたし達の世界で残ってるのブッキーだけよ？」

祈里「ラブちゃん捕まった・・・!」

自分以外の3人が確保され、言葉を失う祈里。

のぞみ「もうダメ・・・動けない・・・疲れた・・・」

長い事ハンターに追われ、かなりの体力を削ってしまったのぞみ。
ビーチに倒れ込む・・・

のぞみ「そうだ・・・スポーツドリンク・・・」

ペットボトルを取り出し、飲料水をラッパ飲みする。しかし、体力回復には繋が^{つな}っていない様だ。

のぞみ「もうダメだ・・・りんちゃん・・・えりか・・・後はお願
い・・・」

りん「不味いな・・・!誰か呼ばないと・・・!」

えりか「レバー何処だろう?」

2人は、のぞみが体力が無くなったと悟ったのか、彼女を切り捨て

て別の逃走者を探す。

現在、2艘のハンターフェリーが逃走者のいるエリアへ向かっている。その内一方には、タイマーを狂わせている妨害電波発生装置が組み込まれている。

ハンターフェリー到達まで、推定およそ7分。

このままでは400体のハンターが上陸し、逃げ場は完全に無くなってしまう。

残る6人は、もう1艘のハンターフェリーを追い返してタイマーを正常に戻し、新エリアへと移動出来るのか！？

ハンターフェリー入港拒否へ！（後書き）

次回、遂にハンターが上陸！

タイマーは正常に戻るのか！？そして、大量ハンターに囲まれてしまふ哀れな逃走者は現れてしまふのか！？

ハンター上陸！（前書き）

エリアに迫る2艘のハンターフェリー！

逃走者達の運命はいかに！？

ハンター上陸！

舞「そうだ！このスプレーがあるんだから、ハンターに怯える必要なんか無いじゃない」

ハンター除けスプレーを持っている事に気付いた舞。果敢にレバーを探しに行く。

一方、同じ様な道具を持っているのぞみは・・・

のぞみ「こんな所で倒れてる場合じゃないよ・・・ボートに乗らないと・・・」

重い足取りで港へ向かう。

祈里「こっちからも行けるかな？」

GPSモニターを頼りに、ハンターの目を掻い潜^{かく}ってレバーを目指す祈里。

りん「ハンターいるな・・・」

向かう先にハンターを見たりん。思う様に進めない。

りん「こっちからは無理だな・・・回り道しよう・・・」

くるみ「もう無理でしょ？高速船、すぐそこまで来てるし・・・」

ミッションに一切参加せず、ここまでずっと隠れ続けていたくるみ。

くるみ「ボートに乗って、さっさと新エリアに行きましょう・・・」

1人新エリアへと逃げる・・・

しかし、その近くに黒い影・・・

くるみ「誰かやってくれる筈よ・・・ボートに乗っちゃえば安全な訳だ・・・嘘・・・！？ハンターいる・・・！」

ハンターを見つけ、すぐさま元の場所へ戻る。しかし、ハンターには気付かれていない様だ。

くるみ「何でよ、もう・・・！港に近付けないじゃない・・・！」

ハンターフェリー到達まで 推定5分

えりか「あつた、あつた・・・！」

漸くレバーを見つけたえりか。

えりか「早く誰か来ないかな？もう来ちゃうよ、ハンターがいっぱい・・・！」

焦りを感じ始めている。

その近くにハンター・・・

えりか「時間が分かんないっていうのが嫌だよね・・・いつ着く

のか分かんない……ゲッ！ハンターだ！」

見つかった……

ピーーーーーー

一目散に逃げるえりか。建物の角を利用し、上手く撒いた様だ。

えりか「うわ……どうしよう……？レバーからかなり離れちゃったよ……」

りん「あれだ！」

えりかが去ったレバーにりんが到着。

舞「あれね……！あつ、りんさん！」

りん「舞じゃん！来てくれたんだ」

舞「ええ！あと1人……」

もう1人の逃走者を待つ2人。

しかし、えりかを追ったハンターが接近……

りん「あつ……！ハンターだ……！舞、逃げよう……！」

舞「大丈夫よ……！」

りん「何が？」

舞「私にはこれがあるから・・・！」

そう言つて、舞はハンター除けスプレーを取り出す。

りん「何それ？」

舞「いいから見てて」

その時、ハンターが2人の確保へ向かう。

舞「せーの・・・」

シュー！

舞はハンター除けスプレーを噴出させた。すると、ハンターは方向転換して去って行った。

りん「ええ・・・？スプレーでハンター帰っちゃうんだ・・・」

意外過ぎる展開に、りんも開いた口が塞がらない・・・

祈里「いた、いた！」

そこへ祈里が合流。

りん「3人目来たね」

舞「これで3人揃ったわね」

祈里「このレバーだね。早く下ろそう」

舞・りん・祈里「せーの・・・」

3人はレバーを下ろす。

すると、エリア内に聳え立つ灯台が緑色の光を点灯させた。

それにより、ハンターフェリー1艘が方向転換。沖の方へ進んで行った。

舞「タイマーはどうなったのかしら？」

3人はタイマーを確認する。時間の歪みは・・・

祈里「あっ！戻ってる！ちゃんとカウントダウンしてるよ！」

直っていた・・・

りん「ヨッシャ・・・！あとはボートに行くだけだね」

ピリッピリッ ピリッピリッ

のぞみ「メールだ・・・！」『山吹祈里・夏木りん・美翔 舞により、ハンターフェリー1艘を追い返す事に成功。これにより、タイマーが元に戻った』・・・！？嘘！？」

のぞみはタイマーを確認する。

のぞみ「ホントだ！戻ってる！3人とも有難う！」

えりか「『ハンターフェリーの到着は残り41分と判明』・・・残り41分!?あと3分ぐらいしか無いじゃん!急ごう、港に!」

妨害電波発生装置が組み込まれたハンターフェリーが引き返した為、タイマーが正常に戻った。逃走者は残り41分までに、港に停泊している緊急用ボートに乗って新エリアへ移動しなければならない。

ハンターフェリー到達まで 3分

港付近までやって来たのぞみ。

のぞみ「あのボートだ・・・!あれに乗れば、新エリアに行けるんだね?」

そして彼女は、港へと繋^{つな}がる一本道に差し掛かる。

先程までは、2人の男が通せんぼをしていたのだが、この騒動で2人とも逃げる様になくなってしまっている。つまり、港に進入するのに通行証が必要無いのだ。

のぞみ「りんちゃん、あの時港に来ても入れないって言ってたのに、ちゃんと入れるじゃん・・・」

港に来たのは初めてである為、りんの言葉に疑問を抱く。

しかし、近くにいたハンターに見つかった・・・

のぞみ「あそこだ・・・ってうわー!」

一目散に逃げるのぞみ。

のぞみ「ホントは最後まで使いたくなかったけど・・・えいっ！」

のぞみは、志穂からもらったハンター冷却剤を投げ付ける。

すると、追って来たハンターは凍り付けとなり、動かなくなってしまった。

のぞみ「うひゃ～・・・ホントに動かなくなっちゃったよ・・・そんな事言ってる場合じゃなかった・・・ボート乗らないと・・・」

のぞみは、凍り付けになったハンターを尻目に、近くに停泊しているボートに乗り込む。

ハンターフェリー到達まで 2分

のぞみ「これで安全だね・・・」

そう言った瞬間、のぞみを乗せた船が港を離れていく。

のぞみ「うわっ！もう動いちゃったの？皆大丈夫かな？」

夢原のぞみ ミッションクリア

続々と港へ移動する逃走者達。

りん「200体なんて、どう考えても無理・・・！きつ過ぎる・・・！」

舞「スプレーがあれば、恐れる物なんて無い訳だから・・・！」

えりか「開き直って、行くしかないよ・・・！」

くるみ「ハンターの死角を狙って、近付いた方がいいわね・・・！」

祈里「こんな所で、ハンターと出くわしたくない・・・！」

ハンターフェリー到達まで 1分30秒

港に現れた1人の女・・・

りん「あのボートだね？」

りんだ・・・彼女はボートに乗り込む。

りん「ヨッシャ・・・！あつ、もう1人来た」

祈里「あつた・・・！」

りん「祈里！こつち、こつち！」

祈里「あつ！りんちゃん！良かった・・・！」

祈里はボートに乗り込む。

りん「これ200体が埋め尽くしたら、大変な事になるね」

祈里「絶対逃げ切れないもんね。脱出する為のボートも無くなっちゃうから・・・」

？「そのボート待つてー！」

ボートに出発を待つ様に叫ぶ1人の逃走者。

えりか「あたしを乗せてー！」

えりかだ・・・彼女もボートに乗り込む。

ハンターフェリー到達まで 1分

えりか「はあ・・・疲れた・・・」

すると、3人を乗せた2艘目のボートも港を離れる。

えりか「わわわわわ！」

突然の揺れに、えりかはバランスを崩す。

りん「えりか！乗ったなら乗ったでちゃんと座りなよ！」

祈里「転覆したらどうすんの！？」

えりか「アハハハ・・・ゴメン、ゴメン・・・」

夏木りん・山吹祈里・来海えりか ミッションクリア

これで移動出来ていないのは、舞とくるみの2人。間に合うのか。

ハンターフェリー到達まで 30秒

くるみ「時間無い・・・!」

舞「道迷っちゃった・・・!どうしよう・・・?」

ハンターフェリー到達まで 20秒

くるみ「あつた!まだ1艘ある!うわっ!あと15秒!」

舞「港どっち?こっち?」

ハンターフェリー到達まで 10秒

くるみ「待つて!まだ出港しないで!乗らせて!」

くるみはボートに乗り込む。

舞「何処?」

そして、くるみを乗せた3艘目のボートが港を離れる。

くるみ「もうダメ・・・苦しい・・・」

美々野くるみ ミッションクリア

舞「えっ?あのボート最後?嘘・・・!?!私取り残された・・・!」

舞1人を残し、全てのボートが新エリアへと向かって行った・・・

そして、ハンターフェリーが港に到達。200体のハンターが一斉にエリアへと放たれる。

舞「あれ200体のハンター……！？あんなに多くちゃ、スプレーじゃ全然効果が無いじゃない……！」

すぐさま港の近くから離れようとする。

しかし、ハンターに見つかった……

舞「来た〜！」

一目散に逃げる舞。しかし、相手が200体では勝ち目が無い。最早、逃走不可能……

舞「いや〜っ！」 ポンッ

残り時間41分0秒（停止中） 美翔 舞確保 残り5人

舞「捕まった……捕まった上にボートに乗れなかった……酷過ぎる……」

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・えりか・くるみの5人

怪物に寄生された海神^{わたつみ}によって支配された、人が立ち去った旧エリア……

そして、そこに上陸した200体のハンター……その数は合計2

04体・・・

すると・・・海神^{わたつみ}達は更に、ハンターにまで憑依し始めた・・・凍り付けとなった1体を除いて・・・

旧エリアに君臨した203体の海神^{わたつみ}ハンター・・・しかも、怪物に憑依されて・・・

その時、メールが・・・

牢獄

かれん「メールが来たわ」

なぎさ「メール？」

つぼみ「何なんでしょうか？」

ラブ「タイマー止まってるのに？」

かれん「通達！」

こまち「通達？」

ひかり「こんな時に通達する事なんて・・・」

せつな「無い筈はずよね？」

ほのか「兎に角、読んでみて」

かれん「『これよりゲームを一時中断し』・・・」

いつき「中断？」

かれん「『敗者復活ゲームを行う』ですって！」

この報告に、牢獄の者達は大喜び。

旧エリアに取り残された牢獄の13人に復活のチャンス。

彼女達は、これよりプリキュアに変身し、海神達わたつみに憑依した怪物203体を倒していく。そして、倒した数が多い上位5人がゲームに復活出来る。

咲「でも、変身する為の道具は全部没収されてる筈はずだよ？」

その通り・・・プリキュアに変身する為の道具は、事前に回収されてしまっている為、彼女達は変身出来ない。

うらら「じゃあ、どうするんですか？」

全く辻褄つじつまが合わない話に困惑する敗者達。

その時、彼女達の前に1人の女が・・・

いつき「あ・・・あれは・・・！」

つぼみ「キュアムーンライト・・・！」

現れたのは、月影ゆりが変身するプリキュア・キュアムーンライトだった・・・

舞「な・・・何であの人が・・・！？」

他の者も、彼女の登場に動揺を隠せない。

ムーンライト「最初に言っておくわ・・・私は他ならぬ部外者だから、この事には手を出さない・・・でも、少しばかりの手助けはしてあげるわ・・・」

そう言うと、ムーンライトは右手の上に13の光る玉を出現させる。その玉は、牢獄の13人を一気に包み込む。

そして光が弾け飛ぶと、13人はプリキュアに変身していたのだ。

ブラック「え・・・ええゝ！？」

ベリー「道具を使ってもいないのに・・・！」

レモネード「変身しちゃいましたゝ！」

ブルーム「すごいというか、怖いというか・・・！」

サンシャイン「道具を回収した意味って・・・！？」

ムーンライト「さあ、行きなさい・・・！復活する為に・・・そし

て、この港を怪物達の脅威から救う為に・・・！」

そう言い残すと、ムーンライトはその場から去って行った。

ブロッサム「ムーンライト・・・有難う御座います・・・！」

アクア「あの人に感謝するのでもいいけど・・・」

ホワイ「今はあの怪物達を何とかしないと・・・！」

パッション「ムーンライトとかいう人の言う通り・・・」

ルミナス「このエリアを救わないと・・・！」

ミント「行きましょう・・・！」

イーグレット「この海を守る為に・・・！」

ピーチ「そして、お客さんや従業員の人達の笑顔を守る為に・・・！」

そして、牢獄が開放され13人は一気に脱獄。203体の怪物達に
歯向かって行く。

復活するのは誰だ！？

ハンター上陸！（後書き）

遂に始まった敗者復活ゲーム！

復活する5人は一体誰なのか！？

ここで、この小説を読んでくださっている皆さんにアンケートを取ります！

誰を復活させてほしいか、第1希望～第5希望までの5人を投票してください。

当然ですが、投票は1人1回までです（必ず遵守してください）

出来るだけアンケートの結果を反映させるつもりです。

締め切りは逃走中の放送終了（10日の21時52分頃）までとします。

宜しくお願いします！

敗者復活ゲーム（前書き）

久々の更新です

多くの方々からアンケートの回答を受けました！

アンケートに参加してくれた皆さん、本当に有難う御座います！

復活出来る5人は果たして！？

敗者復活ゲーム

脱獄するや否や、13人のプリキュア達は目の前にいる怪物達に立ち向かっていく。

ブロッサム「ブロッサム・スクリューパーンチ！」

最初に確保された花咲つばみ改めキュアブロッサム。こころの花の力を込めた拳をエネルギーとして放ち、怪物達を薙^なぎ倒していく。

ブルーム「やあっ！たあっ！はああっ！」

2番目に確保された日向 咲改めキュアブルーム。精霊の力を集めたパンチを繰り出し、怪物達を次々と倒す。

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

3番目に確保された水無月かれん改めキュアアクア。光の弓矢が、怪物達の身体を貫く。

パッション「吹き荒れよ！幸せの嵐！プリキュア・ハピネス・ハリケーン！」

4番目に確保された東 せつな改めキュアパッション。激しい旋風で大量消滅を試みる。

サンシャイン「サンシャイン・フラッシュュ！」

5番目に確保された明堂院いつき改めキュアサンシャイン。光の雨を降らせ、怪物達を追い込んでいく。

ベリー「響け！希望のリズム！プリキュア・エスポワールシャワー・フレーション！」

6番目に確保された蒼乃美希改めキュアベリー。スペード型のエネルギー光波で怪物達を浄化していく。

レモネード「プリキュア・プリズム・チェーン！」

7番目に確保された春日野うらら改めキュアレモネード。光の鎖を駆使し、怪物達を粉碎する。

ホワイト「ふんっ！はあっ！たあぁー！」

8番目に確保された雪城ほのか改めキュアホワイト。合気道系統の技で、怪物達を^{おの}懾らせる。

ブラック「でりゃあ！とりやつ！やあー！」

9番目に確保された美墨なぎさ改めキュアブラック。そのパワフル

さで、怪物達を圧倒していく。

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

10番目に確保された秋元こまち改めキュアミント。円盤状のオーラで、怪物達を次々と切り刻む。

ルミナス「光の意思よ！私に勇気を！希望と力を！ルミナス・ハーティエル・アंकショーン！」

11番目に確保された九条ひかり改めシャイニールミナス。動きを封じ込め、有利に事を進める。

ピーチ「届け！愛のメロディ！プリキュア・ラブサンシャイン・フレッシュ！」

12番目に確保された桃園ラブ改めキュアピーチ。ハート型の光弾によって、次々と怪物達を浄化する。

イーグレット「はいやー！たあー！やあっ！」

最後に確保された美翔 舞改めキュアイーグレット。自慢のキックで多くの怪物達を振り払っていく。

怪物に憑依された海神ハンターも残り半分^{わたつみ}にまで減った時、のぞみ

によつて凍らされたハンターの氷が、太陽の熱により全て融けた・
・そしてハンターは、再び逃走者の搜索へ・・・

そして、そのハンターは13人の敗者が集まっている場所へ・・・

ベリー「・・・！」

突如加速を始めたハンターに気付いたベリー。

ベリー「ハンターが来てる・・・！」

イーグレット「あつ・・・！ハンター・・・！」

ミント「えつ・・・？何で・・・？」

ブラック「不味い・・・！完全にあたし達を確保しようとしてる・
・！」

他のプリキュア達も、ハンターの存在に気付いていく。

氷の封印から解かれたハンターは、逃走者を見つければすぐに確保
へと動く。プリキュアに変身しても、その恐怖から逃れる事は出来
ない。勿論、ハンターに捕まれば敗者復活ゲームから強制離脱とな
る。

ピーチ「ハンターに捕まらない様に倒さなきゃいけないって事・・・

!？」

サンシャイン「きつ過ぎる・・・！あまりにも苛酷かこく過ぎる・・・！」

アクア「逃げながら相手を倒すなんて・・・こんな相容れない事・・・理不尽過ぎるわ・・・！」

ホワイト「どれだけ辛い思いをさせれば気が済むのかしら、この逃走中は・・・！」

ゲームから強制離脱されなければ、ハンターから逃げなければならぬ。しかしそれは、復活の可能性を低くする事にも繋つながってしまう。

しかし、彼女達は今プリキュアという人並み外れた力を持っている。追われても、驚異的な跳躍力でハンターの追跡を易々と免れる事が出来る。

ブルーム「くそっ・・・！1匹でも多く倒して、1秒でも早く終わらせないと・・・！」

レモネード「絶対復活してやる・・・！」

ルミナス「あと少し・・・！でもハンターが叫び声に反応して、こっちに来やすくなってる・・・！」

パッション「ハンター怖いけど・・・何もしないで終わりたくないわ・・・！」

ブロッサム「捕まりたくない・・・！そして、復活したい・・・！」

一心不乱に海神ハンター^{わたつみ}の怪物を倒していく13人の敗者達。

そして、敗者復活ゲームが終了。203体の怪物達は全て浄化された。

それと同時に、13人の変身が解ける。

ピリッピリッ ピリッピリッ

いつき「メール来た・・・！」

うらら「『敗者復活ゲーム終了。復活出来た上位5人は』・・・」

果たして・・・誰なのか・・・？

そして、復活した5人は港に停泊しているボートに乗る為、揃って港へと向かう。

その顔触れは・・・

なぎさ「まさかあたしが1位通過なんて、自分でも信じられないよ」

圧倒的な強さで、見事１位に輝いた美墨なぎさ・・・

つぼみ「私が復活出来るなんて・・・ホント嬉しいです!」

意外にもなぎさと僅かの差で２位となった花咲つぼみ・・・

こまち「ここで復活出来たんだから、逃げ切れそうな気持ちになつてきたわ」

己の必殺技が功を奏し、３位に食い込んだ秋元こまち・・・

舞「こまちさんと同数で勝ち抜けるのも、ある意味すごい事ですよ?」

こまちと同率３位で復活を果たした美翔 舞・・・

最後の1人は・・・

かれん「復活出来るのって、やっぱり気持ちがいいわね」

運も味方に付け、新エリアへの最後の切符を手にした水無月かれん・
・

5人は港に到着するや否や、ボートに乗船。そのままボートは港を
離れ、新エリアへ。

舞「逃げ切って！」

かれん「72万円！」

なぎさ「頂^ぐぜ！」

つぼみ「獲ります！」

こまち「絶対！」

新たな逃走劇の舞台となる新エリアは、数々の商店や海を一望出来る民宿付きダイビングハウスが立ち並ぶとある島^{アイランド}。広さは東京ドーム約1・5個分。

ゲーム再々開前、新エリアを下見する10人の逃走者達。

えりか「うわゝ．．．すごい人が復活してきた。つぼみ復活出来たんだ」

つぼみ「何処行っても海が見える．．．夕日が綺麗．．．」

かなりの時間移動していた為、夕日が今にも沈もうとしている。

りん「舞が復活したよ．．．あのスプレーすごかったなゝ．．．」

舞「まだこのスプレー使い切っていないから、多分大丈夫だと思うけど．．．」

祈里「3年生が3人復活したけど．．．1年生がどっちも復活出来てないのが、一寸腑^{ちよつと}に落ちないなゝ．．．」

なぎさ「潮風が気持ちいいねゝ」

かれん「少し涼しくなってきたわ」

こまち「始まった時とはまるで違うわね」

3人の顔からは、少しばかり余裕の表情が見られる。

のぞみ「もうすぐ暗くなりそう・・・暗くなると、ハンター見えにくくなっちゃうよ・・・」

くるみ「まさか夜まで続くの、このゲーム・・・もう止めてよ・・・！」

暗闇に包まれそうになる新エリアに、一抹の不安と恐怖を抱くのぞみとくるみ。

愈々新エリアでの逃走劇が幕を開ける！

敗者復活ゲーム（後書き）

残る逃走者は10人（りん・のぞみ・祈里・えりか・くるみ・なぎさ・つぼみ・こまち・舞・かれん）となった

次回、ゲーム再々開！

逃走者達を更に追い詰める、驚異的な事件が！？

アンケートを集計してて気付いた事が1点

1年生の2人がまさかの0票・・・（汗）

そして、逃走中のOAを見てて思った事

『謎の存在』の伏線を書いた意味無し・・・（泣）

ゲーム再々開！（前書き）

残り41分からゲームがまた再開される！

復活組も含め、逃走者は残り10人！

更に過酷なものとなる逃走劇の中、生き残れる者は現れるのか！？

ゲーム再々開！

エリアに散らばる10人の逃走者達。

そして、残り時間41分――ゲーム再々開

高速船に乗って来たのは、旧エリアから引き継がれた4体のハンターだ。

船着場に到着するや否や下船し、逃走者の確保へと向かう。

祈里「今、船着場から4体が降りてきた……！」

GPSモニターで、ハンターの出現を確認した祈里。

舞「このスプレーも、復活した命も大事にしたいわね……！」

なぎさ「やっぱりこうやって逃げると、ゲームに参加してるんだな……って思うよね」

かれん「ここで復活出来たって事は、私に運が向いてきた証拠だし……この運を持って逃げ切りたいわ……！」

こまち「絶対逃げ切って、72万円獲る……！」

つぼみ「どうしよう……？もうあと5分ぐらいで50万円……自首……しちゃおうかな……？」

エリア内2ヶ所の船着場で、チケットを渡し乗船すれば自首が成立。

その時点までの賞金を獲得し、ゲームからリタイアとなる。

りん「そういえば、あたしミッションでチケット渡しちゃったから、自首出来ないんだよね」

自首をする事が出来ないのは、りん・のぞみ・祈里・なぎさ・こま
ちの5人。

つぼみ「いやっ・・・！そんな事で怯む私じゃないです・・・！復活したんだから、絶対逃げ切ろう・・・！」

自首という悪魔の囁きに乗らないと決めたつぼみ。逃げ切りを誓う。

一方でこの女は・・・

えりか「結構いい額になってきてるじゃん。これ、自首もありかもね」

賞金欲しさに、自首しようか悩むえりか。

のぞみ「あっ・・・」

のぞみが前方に誰かを発見。

くるみ「このエリア、狭過ぎるから隠れる場所無いわね」

くるみだ・・・

先程、ミッション参加に関して彼女に暴言を吐かれたのぞみ。嫌悪感を露にする。

のぞみ「何だよ、くるみつたら・・・！人の苦勞を知りもしないで偽善者呼ばわりして・・・！ふんっ！」

くるみの許から逃げる様に、その場を離れる。

りん「うわ・・・段々暗くなってきたよ・・・マジで怖くなってきた・・・！」

暗闇に包まれていくエリアに恐怖を覚えるりん。

その近くに2体のハンター・・・

りん「ハンターだ・・・！こっち来てる・・・！」

その場から離れるりん。

しかし、気付かれた・・・

更に別のハンターにも見つかり、挟まれるりん・・・

りん「へぐっ！」

緊急用逃走靴を発動させて挟み撃ちをかわし、一目散に逃げるりん。

りん「舞逃げろ！」

りんが逃げる先に舞の姿・・・

舞「ええ！？」

りんは釣られ、一目散に逃げる舞。

りんは驚異的な瞬発力で、ハンターの追跡をかわした。

緊急用逃走靴を12秒使い、靴の効果はあと31秒。

りん「狭過ぎる・・・！こんなすぐにハンターと出くわすなんて・・・！」

舞「危ない・・・！」

舞も、どうやらハンターを撒いた様だ。

その頃、別の場所でこまちとかれんが合流。

こまち「かれん」

かれん「こまち・・・このエリア狭くないかしら？」

こまち「狭いわよね・・・こんな簡単に2人が集まっちゃうんだから・・・」

そこへ、のぞみもやって来た。

のぞみ「あれ？こまちさんにかれんさん」

かれん「のぞみ？」

のぞみ「あんまり大勢で固まってるって危ないですよ？」

こまち「それは分かってるんだけど、どうしても集まっちゃうのよ」
のぞみ「ええ？」

かれん「エリアは狭いし、人数は10人だし・・・」

こまち「もうすぐ暗くなるしね・・・」

のぞみ「なるほど・・・」

こまち「それに、暗くなったらハンターが見えにくくなるしね。ハンターって黒ずくめだから、黒に黒って事で・・・」

かれん「それもそうよね・・・」

のぞみ「やっぱりここは、バラバラになるのが賢明ですよ」

3人は別行動に。

つぼみ「何処かに隠れた方がいいのかな？」

地図を頼りに、エリアを小走りで彷徨^{ひたひた}うつぼみ。その姿を見たのが・
・

くるみ「あれつぼみ？走ってる姿初めて見た・・・あの姿、全っ然似合わない・・・！」

つぼみに関しては、その姿をも侮辱する様だ。

なぎさ「暗っ……！全然街灯無いじゃん、この道。危な過ぎるでしょ？」

灯りが全く無い小道に来てしまったなぎさ。

その近くに黒い影……

なぎさ「これでハンターに来られたら最悪だよ……ん？ヤバイ……！あれハンターだ……！」

遠くにハンターを見つけ、一目散に逃げるなぎさ。ハンターは気付いていない様だ。

なぎさ「怖っ……！暗闇の中だと、ハンターの怖さが倍増してるよ……！ありえない……！」

祈里「こればれるかな？」

タイマーだけでなくGPSモニターも光っている為、他の逃走者よりも若干ハンターに見つかりやすい祈里。

祈里「でもこれは、逃げ切る為には必要だし……それ以前に、ミユキさんからもらった物だし……壊す訳にはいかないよ……！」

くるみ「そろそろ誰か捕まるんじゃない？」

周囲を警戒するくるみ。

くるみ「もう少してゲームが動きそうなんだけど……」

えりか「どうしよう？あともう5分ぐらい待って、お金釣り上げようかな？」

賞金は間もなく50万円に届こうとしている。

えりか「船着場の近くで待つといて、船が来たらすぐに自首しよう」

逃げ切りよりも、目の前の賞金を選んだえりか。

しかし、彼女の近くにハンターが接近・・・

えりか「もう無理だよ、こんな狭い中で4体相手とか・・・絶対追われたら終わりじゃ・・・って来たよー！」

見つかった・・・

ピーーーーー

えりか「嫌だー！うわああー！ああー！」

絶叫に近い悲鳴を上げながら一目散に逃げるえりか。

りん「うるさい・・・！あの声ってえりか？多分追われてるな・・・でも、だからってあんな悲鳴上げなくても・・・」

えりか「ヤダァー！来ないでー！」

逃げ続けるえりか。しかし、ハンターとの距離が縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

えりか「ひゃあゝ！」 ポンッ

残り時間36分27秒 来海えりか確保 残り9人

えりか「うわあゝ！捕まったー！最悪だー！」

抜け駆けしようとした報いだ・・・

りん「えりか、だからうるさいって・・・！夜だよ？少しは静かにしろっての・・・！」

ピリッピリッ ピリッピリッ

なぎさ「何？」

のぞみ「確保情報だ・・・！」

舞「ええ・・・！？『来海えりか確保』・・・！えりかさん捕まったの・・・！？」

つぼみ「ええ・・・！？えりかゝ・・・」

くるみ「あのうるさい声・・・えりかのだったの？」

暗闇に包まれた、新エリアとなっている島アイランド・・・

月の光に照らされた水面みなもがとても幻想的だ・・・

ダイビングハウス付きの民宿では、ダイビングのログ付けで大賑わい……

スタッフ「こんな魚いましたね」

男「あゝいたいた」

女「私、写真も撮ったんですよ！皆で見ましようよ！」

中にはナイトダイビングを楽しむ者も……

男「いやゝ、夜のダイビングも捨てたもんじゃないな」

女「夜光虫がとっても綺麗だった」

しかし、夜だからこそ楽しめるこの島に、^{フィリピン}9色のハンターボックス
が出現……

逃走者達に危機が迫る……

祈里「怖い……怖くなってきた……！」

ピリッピリッ ピリッピリッ

祈里「えっ？何？」

メールだ……

こまち「あつ・・・ミッション4・・・！」

なぎさ「『エリア内に9つのハンターボックスを設置した』・・・」

舞「『残り25分になると、それぞれのボックスの扉が開きハンターが放出される』・・・」

つぼみ「あと10分ぐらいで、9体出てくるって事？厳し過ぎる・・・！」

のぞみ「『阻止するには、ダイビングハウスでケミカルライトをもらい』・・・」

くるみ「『それを発光させて同じ色のボックスに嵌め込み、ロックしなければならぬ』・・・ケミカルライト？」

かれん「『但し、ケミカルライトは1人1本まで。急ぎたまえ！』・・・1人1本ってどういう事？」

りん「一寸^{ちよつと}待つて・・・ボックスの数と残り人数・・・同じじゃん・・・！」

MISSION? ハンター放出を阻止せよ！

エリア内に設置された9つのハンターボックス。残り25分になるとハンターが放出。その数は最大13体に増えてしまう。阻止するには、ダイビングハウスでケミカルライトをもらって発光させ、同じ色のボックスに嵌め込み、扉をロックしなければならない。但し、ケミカルライトは1人1本しか手に入れる事が出来ない為、1人でもゲームから離脱したり、色が重複してしまったりすると、全ての

ボックスをロック出来なくなってしまう。

りん「厳し過ぎ・・・！25分まで誰も捕まれないって事じゃん・・・！」

祈里「捕まったら、皆に迷惑掛けちゃうよ・・・！」

くるみ「ええ？このミッション、半強制的じゃない・・・！何で？」

つぼみ「9体も出てきたら、その瞬間ゲームオーバーって言っても過言じゃないよ・・・！」

かれん「まずはダイビングハウスに行かなきゃいけないのね」

ハンター放出を阻止する為に動き出す逃走者達。

しかし、エリアには4体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

ハンター放出まで、およそ9分。

全てのハンターボックスをロック出来るのか！？

ゲーム再々開！（後書き）

ミッションに動き出す逃走者達！

恐怖が渦巻く暗闇の中、彼女達はどう動くのか！？

ハンター増殖の危機！（前書き）

残った9人の逃走者に課せられたミッション！

絶対に捕まらないプレッシャーが彼女達を窮地に追いやる！

一体どうなってしまうのか！？

ハンター増殖の危機！

残り25分までに、ダイビングハウスで手に入るケミカルライトを使つてハンターボックスをロック出来なければ、最大9体のハンターが放出されてしまう。

なぎさ「これやらなかったら、他の人達にも迷惑掛けるし・・・況^まして、自分の首を絞める事になり兼ねないよね」

りん「やらない人なんていないでしょ？やらなかったら、その人自分の立場が分かってないって事だよ？」

こまち「ケミカルライト・・・光らせないとロック出来ないのよね？」

舞「どのみちハンターに見つかるのは覚悟しないと・・・！」

くるみ「嫌だな・・・2、3人捕まってから動いた方がいいわね・・・」

殆^{ほとん}どの者がミッションに行く中、動かないのはやはりくるみ1人。

エリアには4体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

更に、1人でも確保されればハンター放出が確定してしまう。

のぞみ「1人1本って言うのが厳しいよね・・・？」

周囲を警戒し、ダイビングハウスを目指すのぞみ。

つぼみ「怖い・・・ハンターが全然見えない・・・」

暗闇の恐怖に慄き、^{おの}足取りの重いつぼみ。

その時、ハンターが1人の逃走者を見つけ確保へと向かう。見つかったのは・・・

のぞみ「こつちでいいのかな・・・？」

つぼみ「ハンターに來られたらヤダな・・・って言った傍からー！？」

つぼみだ・・・

背後から迫るハンターから一目散に逃げるつぼみ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

つぼみ「嫌だ！いやあー！」 ポンッ

残り時間33分15秒 花咲つぼみ確保 残り8人

つぼみ「嘘・・・！何でこうなるの？」

再び牢獄へ・・・

牢獄

咲「あつ！『花咲つぼみ確保』だつて」

いつき「ええゝ！？」

美希「復活したのに！？」

うらら「意味無いじゃないですかー！」

ほか「一体何の為の復活だったのよー！？」

かれん「つぼみが捕まった・・・！これ、1体は確実に出て来るって事？」

つぼみの確保により、1体のハンター放出が確定となった。

くるみ「何やってんのよ、つぼみ・・・！」

祈里「あそこだ・・・！」

偶然ダイビングハウスの近くにいた祈里。ケミカルライトを手に入る為に、店の中に入ろうとする。しかし・・・

祈里「あれ・・・？あれ・・・！？扉が開かない！しかも、中からシャッターが下ろされてる！？どういう事！？」

女「すみません。ここで何をされてるんですか？」

店の脇から現れた1人の女・・・

祈里「あ．．．あなたは？」

女「私は、ここのダイビングハウスのスタッフですが．．．こちらに何か御用ですか？」

祈里「あの．．．ケミカルライト欲しいんですけど．．．」

スタッフ「申し訳ありませんが、もう営業時間外ですので．．．その件に関しては一寸^{ちよつと}．．．」

祈里「ええ！？営業時間外って．．．入れないって事ですか!？」

スタッフ「すみません．．．」

祈里「いや．．．今すぐにいるんですよ！ケミカルライトが無いと、大変な事になるんですよ！」

スタッフ「どうしてもと言うのなら、この裏手にある倉庫に行ってください。その中の段ボールの中にある^{はず}筈です．．．」

祈里「倉庫．．．うわっ、まだずっと向こうだ．．．!」

既に閉店時間を過ぎており、ダイビングハウスに入る事は出来ない。ケミカルライトを手に入れるには、裏手にある倉庫へ行き、中にある段ボールから持ち出さなければならぬ。

祈里「またこれだよ、メールに書かれていない事をやらせるミッシヨン．．．!しかも、出てくるハンターはこのモニターに映らないし．．．絶対的に不利じゃん．．．!」

祈里の腕に付けられているGPSモニターに映されるのは、初期の4体のハンターのみ。このミッションで放出されるハンターは映されない。

そこへ、りんが到着。

りん「あれ？祈里・・・ケミカルライトは？持ってるんじゃないの？」

祈里「ダイビングハウス、もう閉まってるから入れないの」

りん「はあ！？じゃあ、どうすんの！？」

祈里「裏手にある倉庫にある段ボールの中から持って来って・・・スタッフの人が言ってた」

りん「マジかよ・・・！」

渋々倉庫へ向かう2人。

その近くに黒い影・・・

祈里「あっ・・・！ハンター来てる・・・！りんちゃん、一旦隠れよう・・・！」

りん「嘘・・・」

逸早くハンターに気付き、建物の陰に隠れる。上手くやり過ごした様だ。

かれん「1体増えるだけでも、かなりの痛手よね・・・」

何も知らずにダイビングハウスを目指すかれん。彼女が向かう先に・

くるみ「かれん・・・？ミッションに向かおうとしてるのかしら・
・？」

かれん「あら・・・？あれって・・・くるみ？」

かれんはくるみに駆け寄る。

かれん「くるみ・・・ミッションどうする・・・？」

くるみ「うーん・・・あんまりやりたくないのよね、ミッションは・
・」

かれん「でも、これやらなかったら相当恨まれるわよ・・・？」

くるみ「もう既に恨まれてるから、関係無いわ・・・」

恨まれ役を買っているくるみ・・・

かれん「これ以上の放出は絶対避けないと・・・！」

くるみ「分かってるけど・・・怖過ぎて・・・」

かれん「そんなの皆一緒よ・・・」

ミッションに行くかどうかで悩む2人の近くにハンター・・・

くるみ「確かに増えるのはきついわね・・・」

かれん「そうよ・・・早くダイビングハウスに・・・あっ！ハンター来た！」

くるみ「嘘でしょ!？」

見つかった・・・

一目散に逃げる2人。二手に分かれ、更に逃げる。建物の影を利用し、上手く撒いた様だ。

くるみ「どうしよう・・・全然近付けない・・・!」

思う様に動けない・・・

なぎさ「あつた、あつた・・・!」

ハンター放出まで 5分

ダイビングハウスに到着したなぎさ。しかし、目指すべき場所はどこでは無い。

なぎさ「あれ？扉が開かないんだけど。何で？」

スタッフ「すみません。こちらで何をされてるんですか？」

なぎさ「ケミカルライトが欲しくて来たんですけど・・・」

スタッフ「生憎あいにくですが、もう既に閉店してるので・・・」

なぎさ「ええ！？ケミカルライトもらえないの！？ありえない！」

その声に反応した近くのハンターが、なぎさの確保へと動く。

スタッフ「裏手の倉庫にならいくらかありますけど・・・」

なぎさ「倉庫・・・分かりました。・・・てわーっ！」

見つかった・・・

一目散に逃げるなぎさ。何回も曲がり角を利用し、ハンターの視界から消えようとする。

なぎさ「うわうっ！」

しかし、とうとう曲がり切れずに転倒。最早、逃走不可能・・・

なぎさ「うわ・・・！」 ポンッ

残り時間29分28秒 美墨なぎさ確保 残り7人

なぎさ「不運過ぎるよ・・・ケミカルライトは手に入らないわ、ハンターには捕まるわ・・・もう最悪・・・！」

彼女もまた、牢獄に逆戻り・・・

牢獄

咲「なぎささんも捕まった！」

ひかり「ええ〜！？嘘でしょ〜！？」

ほのか「何してんのよ、なぎさ〜！私とひかりさんの希望だったのに〜！」

こまち「もう2体放出確定・・・！きつ過ぎる・・・！」

舞「もうヤダ・・・！どんどん捕まってる・・・！」

のぞみ「この狭さで6体相手にするの・・・？絶対誰も逃げ切れないじゃん・・・」

その頃、りんと祈里は倉庫に到着。

りん「この中って事でしょ？」

祈里「うん」

ハンター放出まで 4分

2人は倉庫の扉を開ける。

りん「何だこれ！？すごく^{かび}黴臭い！」

祈里「段ボール箱・・・これかな？」

2人は協力して、1つの段ボール箱を外に出す。

祈里「結構重さがある・・・！」

りん「同じ色のが何本も入ってるんだろっね」

中を開けてみると、何十本ものの9色のケミカルライトが無造作に入れられていた。

祈里「どれやる？」

りん「あたしは、ここから1番遠い所にある白をやるよ」

祈里「じゃあ、私はその次に遠い黄色をやる」

りん「あつ、そうだ。目的のボックスに行きがてら、皆にケミカルライトを配ってやってもらおう」

祈里「そうだね。もう3分半ぐらいだし・・・」

りん「よしっ！急ごう！」

祈里「うん！」

近くを通り掛かった逃走者にケミカルライトを配り、その色のボックスを封印してもらった作戦の2人。これが功を奏するのか。

のぞみ「ハンターいないね・・・」

何も知らずにダイビングハウスに近付くのぞみ。

のぞみ「あれ？電気が消えてる・・・何で？」

電気が消されてしまっており、閉店の臭いを漂わせているダイビングハウス。

のぞみ「まさか閉まってるの？」

そこへ、りんと祈里が通り掛かる。

ハンター放出まで 3分

祈里「のぞみちゃん！」

のぞみ「えっ？りんちゃん？祈里？」

りん「のぞみ。これ・・・白と黄色以外の1本取って」

のぞみ「これ・・・ケミカルライト？何処にあったの？」

りん「そんな事どうでもいいから、早く選んで！」

のぞみ「わ・・・分かったよ・・・うん・・・この近くにある青やろっつと」

青のケミカルライトを受け取る。

祈里「じゃあ、お願いね」

のぞみ「OK」

2人はそのまま、足早にのぞみの許もとを去る。

のぞみ「青・・・青のボックス・・・あつ、これだ・・・！これを
先まず光らせるんだよね？」

のぞみはケミカルライトを折って、中の液体を振り混ぜる。すると
青色に発光した。

のぞみ「それで、これをここに嵌めるんだね？」

ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

のぞみ「OK・・・！ロックした・・・！」

青ハンターボックス ロック

この間にりと祈里は、こまちに紫、舞に橙だいだいのケミカルライトを手
渡した。

ハンター放出まで 2分30秒

かれん「早くしないと、ハンターが・・・！これ以上増えるのだけ
はゴメンよ・・・！」

なかなか目的地に辿り着けないかれん。その近くにハンター・・・

かれん「10体とかになったら、もう逃げ切りは無理ね・・・何と
か止めないと・・・って嘘でしょ!？」

見つかった・・・

かれん「いやっ!来ないでー!」

一目散に逃げるかれん。果たして、逃げ切れるのか!？

ハンター増殖の危機！（後書き）

次回、ミッションが終了！

逃走者を追いつめるハンターは、何体増えてしまうのか！？

ミッション4終了！（前書き）

多くの方々から感想をいただいて、本当に嬉しいです

これを励みに、最後まで挫折せずに頑張ってください！

2体のハンター放出が確定した今、逃走者達はどう動くのか！？

ミッション4終了！

ハンターに見つかったかれん。

かれん「ハンター来てる・・・！」

一目散に逃げるかれん。何度も曲がり角を利用し、ハンターとの距離を広げる。

ハンターはかれんを見失った様だ・・・

かれん「ハア・・・ハア・・・助かった・・・」

かれんが逃げた先に、緑のハンターボックス。

かれん「これね・・・でも、ケミカルライト持ってないわ・・・」

途方に暮れる彼女の許に、遠くにあるボックスを^{もと}目指しているりと祈里が姿を現す。

かれん「あら・・・？りんに祈里・・・？」

祈里「あつ、かれんさん」

かれん「りん・・・その段ボールは一体何？」

りん「これですか？ケミカルライトが入ってるんですよ。これを通り掛かった人達に配ろうとしてるんです」

かれん「丁度良かったわ。ここに緑のハンターボックスがあるのよ」

りん「あつ、ホントだ」

ハンター放出まで 2分

祈里「それじゃあ、かれんさん……ここから緑のケミカルライト取って下さい。私達は白と黄色のをやるんで」

かれん「白と黄色……？ここから結構距離あるわね……」

かれんは、地図を見返してそう呟く。^{つぶや}

りん「あの、かれんさん？」

かれん「あつ……ゴメンなさい……じゃあ、緑はやっとくわね。後は任せるわ」

緑のケミカルライトを受け取るや否や、2年生の2人は一目散にボックスへ向かう。

かれん「早くロックしましょう……！」

かれんはケミカルライトを折って、中の液体を振り混ぜる。すると緑色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

かれん「これでOKね」

緑ハンターボックス ロック

同じ頃、こまちが紫のハンターボックスに到着。

こまち「あつた・・・！」

こまちはケミカルライトを折って、中の液体を振り混ぜる。すると紫色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

紫ハンターボックス ロック

こまち「今、何体ロック出来たのかしら？」

ハンター放出まで 1分30秒

舞「もう少しね・・・！」

その近くにハンター・・・

舞「ここ曲がったらすぐね・・・あつ、ハンター来た・・・！」

見つかった・・・

舞「食らいなさい！」

シュー！

ハンター除けスプレーだ・・・

舞「スプレーまだ残ってるわね・・・あと5回は持つと思うけど・・・

・あつ、あつた・・・！」

^{だいたい}橙のハンターボックスに到着。

舞「これを光らせて・・・」

舞はケミカルライトを折って、中の液体を振り混ぜる。すると^{だいたい}橙色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

^{だいたい}橙ハンターボックス ロック

舞「あと1分10秒・・・！時間無い・・・！他の皆頑張つて・・・！」

のぞみ「皆・・・ロック出来てるのかな？このままじゃ、圧倒的に不利になっちゃうよ」

このままでは、5体のハンターが放出され、合計9体となる。

ハンター放出まで 1分

その時、りと祈里が黄色のハンターボックスを発見。

りん「祈里早く！」

祈里「分かつてる！」

祈里はケミカルライトを折って、中の液体を振り混ぜる。すると黄色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミ

カルライトを挿入する。

黄ハンターボックス ロック

祈里「よしっ・・・！」

そこへ近付く1人の女・・・

くるみ「りんが抱えてるあれは何？」

くるみだ・・・

祈里「あっ！くるみちゃん！こっち来て！」

くるみ「な・・・何？」

りん「くるみ！もう時間無いから、近くの黄緑のボックスロックして！ここから黄緑のケミカルライトを・・・！」

くるみ「ええ？」

りん「躊躇^{ためら}ってる暇無いよ！あと40秒切ってるんだから！」

くるみ「わ・・・分かったわよ」

くるみは、りんが地面に置いた段ボールの中から黄緑のケミカルライトを手取る。

祈里「じゃあ、2人ともお願いね！」

りん「OK!」

くるみ「何とかやってみるわ!」

ハンター放出まで 30秒

のぞみ「あと30秒だ・・・!」

こまち「増えるのは2体で勘弁して・・・!」

舞「もう増えないで、ハンター・・・!」

かれん「これ以上増えたら、一巻の終わりね・・・!」

既にボックスをロックした者も不安を隠せない。

ハンター放出まで 20秒

りん「これだ!」

りんはケミカルライトを折って、中の液体を振り混ぜる。すると白色に発光した。そして、ボックスの横にある装置に、発光したケミカルライトを挿入する。

りん「ロック!」

白ハンターボックス ロック

りん「くるみ行ってくれてるかな?」

くるみ「早くしないと・・・放出される・・・！」

くるみ、間に合うのか!?

ハンター放出まで 10秒

くるみ「うわぁ・・・!無理・・・!間に合わない・・・!逃げなきゃ・・・!」

間に合わないと踏み、ボックスから離れていく。

そして、赤・桃^{ピンク}・黄緑のボックスからハンターが放出。その数は7体となった。

ピリッピリッ ピリッピリッ

こまち「来た・・・!メール・・・ミッション4結果・・・!」

舞「『ミッション失敗。3体のハンターが放出され、その数は合計7体となった』・・・」

りん「うわ・・・!くるみ間に合わなかったんだ・・・!」

くるみ「私最悪・・・!頼まれておきながら、ハンター止められなかった・・・」

かれん「この狭さで7体・・・!?逃げ切れないわよ、どう考えても・・・」

のぞみ「どうすんの、ホントに!?!7体なんて絶対多過ぎるでしょ

！？」

祈里「3体も増えられたら・・・確実に全滅になっちゃっよ・・・！」

残る逃走者7人に対し、ハンターは同数の7体。

舞「逃げ辛くなって・・・どうしよう？」

ハンターが増え、怯^{おび}える舞。

かれん「これでまだミッションが来るといふなら、もうクリア出来ないと考えた方が賢明ね・・・」

逃げ切りの可能性が低くなり、戦意喪失となっているかれん。

牢獄

美希「あっ・・・来た」

牢獄の者達の前に現れた、復活組の2人。

彼女達は一斉に、2人に罵声を浴びせる。

ラブ「全っ然意味無いじゃん！」

いつき「しかも復活ゲーム1位2位の2人がだよ!？」

うすら「いくら何でも酷過ぎます!」

ほか「自分達の立場分かってるの!？」

言われたい放題の2人は、そのまま入獄する。

つぼみ「皆さん!一言だけ言わせて下さい!・・・ゴメンなさい・・・」

なぎさ「不甲斐無さ過ぎました・・・」

2人は9人に頭を下げる。

ひかり「不甲斐無い以前の問題ですよ!」

咲「2人とも、言わば秒殺じゃん!」

せつな「1位2位で復活した人としてあるまじき事よ!？」

これでもかと言わんばかりに続く罵声に、2人は土下座をする。

つぼみ「すみませんでした!」

なぎさ「申し訳ありません!」

えりか「もういいじゃん、皆・・・罵声浴びせ過ぎだよ。2人も謝り過ぎ。過ぎた事いちいち引き摺^ずつても仕方無いじゃん」

えりかの言葉に、牢獄の中は水を打った様に静まり返った。

えりか「復活の人はまだ3人いるんだから、3人の応援をしなきゃ」

いつき「・・・それもそうだね」

咲「まだ舞が残ってたね、そう言えば」

うらら「こまちさんとかれんさんも残ってます」

美希「まあ・・・復活した人じゃなくても、誰かは残ってほしいわね」

ラブ「でもハンター7体だから、相当きついよ」

ほのか「のぞみさんや祈里さんが、過労で倒れないか心配だわ」

せつな「無事に終わってくれればいいけど・・・」

ひかり「信じるしか・・・無いですよね・・・？」

のぞみ「こんな怖い事初めてだよ・・・プリキュアやってる時の方が全然楽」

恐怖に駆られるのぞみ。その近くからハンターが接近・・・

のぞみ「7体は厳しいな・・・隠れてた方が・・・ってうわぁー！」

見つかった・・・

ピーーーーー

一目散に逃げるのぞみ。彼女が逃げる先にくるみの姿・・・

くるみ「もう動かないでいましょう・・・絶対に動いたら・・・えっ・・・？のぞみ？しかもハンター連れてるしー！」

のぞみと一緒にくるみも逃げる。しかし、2人が逃げる先にも別のハンター・・・挟まれた・・・

ピーーーーー

のぞみ「うわー！こっちからも来たー！」

くるみ「最悪ー！」

のぞみ・くるみ「こうなったら・・・」

ハンターの横を強行突破する作戦に出た2人。

迫り来る2体のハンター・・・その横の隙間を縫う様にすり抜ける。ところが、1人はすり抜けた瞬間に足を滑らせ転倒。そのままハンターの標的となったのは・・・

くるみ「転けたー・・・」

くるみだ・・・最早、逃走不可能・・・

くるみ「・・・」 ポンッ

残り時間 2 1 分 4 6 秒 美々野くるみ確保 残り 6 人

くるみ「もうゝ．．．何で選_よりに選_よって 2 体で来るのよゝ．．．」

天罰が下った．．．

その間に、のぞみは上手く逃げ延びた様だ。

のぞみ「さつき『ボタン』って音が聞こえたけど．．．何だったの？」

ピリッピリッ ピリッピリッ

祈里「確保情報．．．！」

かれん「あつ．．．！『美々野くるみ確保、残り 6 人』．．．！と
うとつくるみが捕まった．．．！」

りん「自分で増やしたハンターに捕まったのかな？」

そうでは無い．．．

復活ゲームで浄化された怪物達．．．

しかし、怪物達は浄化される寸前、プリキュアに対する憎しみをこ
の新エリアにばら撒いていた．．．

そして、その憎しみが形となってその姿を現した・・・

それは・・・いつき以外の逃走者全員に憎しみを持つ深海の闇・ボトム・・・

無論、このボトムは怪物達の集まりの様な所謂クローンいわゆるの存在で本物ではない・・・

しかし、プリキュアに対する憎しみがそのまま受け継がれていた・・・

ボトム「ガアァー！」

彼は唸りうな声を放ちながらその憎しみに身を任せ、エリアで暴れ始めた・・・

このままではエリアは水没してしまう・・・

この騒動を止める事が出来るのは、他の何者でもない逃走者のみ・・・

こまち「無闇に動けないわ・・・」

ピリッピリッ ピリッピリッ

こまち「えっ・・・？またミッション・・・？」

のぞみ「ミッション５・・・！『エリア内に深海の闇・ボトムのク

ローンが現れた』……ええ！？倒した筈のボトムが！？何でクローンなんかで！？」

かれん「『彼は君達に対する恨みに身を任せ、エリアで暴れ始めた』……嘘でしょ！？こんな事であるの！？」

舞「『残り10分になると、彼の力によりエリアの3分の2が水没してしまう』……何それ！？」

りん「『阻止するには、牢獄前に置かれた変身アイテムを使ってプリキュアに変身し、ボトムのクローンを浄化しなければならない』……マジで！？滅茶苦茶不利になるじゃん、水没したら！」

祈里「『急ぎたまえ！』……島が無くなっちゃうの！？それは絶対ダメだよ！」

MISSION？ エリア縮小を阻止せよ！

エリアに現れたのは、嘗ての逃走者達の宿敵・ボトムのクローン。彼はエリア中を暴れ回っており、残り10分になると彼の手によってエリアの3分の2が壊滅・水没してしまう。阻止するには、牢獄の前に置かれたプリキュアに変身する為のアイテムを手に入れて変身し、ボトムのクローンを浄化しなければならない。但し、プリキュアに変身してもハンターに追われる身である事は変わらない。

こまち「島は壊滅させられちゃう上に、エリアが狭くなっちゃう……！それは絶対に阻止しないと！」

のぞみ「絶対にこの島は守ってみせる！またボトムの思惑通りになんかせないんだから！」

りん「6人しかいないけど・・・6人でやらなきゃ、島の人達が危ないよ！」

かれん「戦う前に誰も捕まらないで・・・！1人でも減ったら、それだけ不利になる！」

祈里「こんな景観のいい島は絶対に壊させない！皆でなら出来るって・・・私、信じてる！」

舞「行きたいけど・・・咲とじゃないと、私は変身出来ない筈・・・どうすれば・・・！」

一抹の不安を抱く舞も含め、残る逃走者全員がミッションに挑む様だ。
いちまつ

しかし、エリアには7体のハンター。動けば見つかる危険が更に高まる。

エリア縮小まで、およそ9分。

ボトムのクローンを浄化する事は出来るのか！？

ミッション4終了！（後書き）

エリアとなっている島に訪れた最大の危機！

逃走者達は、この島を救えるのか！？
アイランド

そして、変身する為のパートナーがいない舞に奇跡が！？

ボトム撃退 & a m p ; エリア縮小阻止へ！（前書き）

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・こまち・舞・かれんの6人

ゲーム終盤に訪れた最大の恐怖！

彼女達は乗り越えられるのか！？

ボトム撃退 & エリア縮小阻止へ！

残り10分までにボトムのクローンを浄化しなければ、彼の手によ
りエリアの3分の2が水没してしまう。

こまち「^ま先ずは牢獄に行つて、アイテムを取らないと……！」

逃走者達は、変身アイテムを手に入れる為に、牢獄へ向かわなければ
ならない。

しかし、エリアには7体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。
更にプリキュアに変身しても、ハンターの標的とならなくなる事は
ない。

のぞみ「いる……！どうしよう？やっぱり7体って多いよ……」

ハンターを目撃し、思う様に近付けないのぞみ。

りん「あれこれ考えずに、開き直って行くっきゃないよ……！」

かれん「誰かが捕まったら、クリアは粗不可能ね……」

舞「どうしたらいいんだろう？行っても変身出来ないんじゃない……」

祈里「追加されたハンターには、一段と注意を払つて……！」

逃走者達が牢獄へ向かう中、ボトムのクローンは島の^{アイルランド}ビーチを荒ら
し、建物を壊し、地鳴りも起こしている。

祈里「すごい音・・・！」

こまち「もたついてられないわ・・・！」

アイランド
島中に響き渡る音が、逃走者達の心を掻き乱す・・・

いつき「あっ・・・誰か来た」

ラブ「誰？」

うらら「りんさんじゃないですか？」

ひかり「ホントだ。りんさんだ」

りん「着いた！」

最初に牢獄に到着したのは、夏木りん・・・彼女は牢獄前の箱に入っていた、自分のキュアモを取り出す。

りん「よしっ！これで・・・プリキュア・メタモルフォーゼ！」

りんはキュアルージュに変身。

ルージュ「ヨッシャ・・・！行こう！」

彼女はボトムのある場所へと走って行く。しかし、向かう先にハンター・・・

ルージュ「ハンターには気を付けないとな・・・追われる身だって

事は変わらない訳だし・・・ん・・・？ヤバい、来た！」

見つかった・・・

ルージュー「こんな所で捕まってたまるか！」

一目散に逃げるルージュー。持ち前のフットワークで、ハンターの追跡をかわした。

ルージュー「ビビるよ、やっぱりハンターには・・・あつ、あれかな？」

視界に巨人の様な影を見たルージュー。すぐさま駆け寄って行く。

ルージュー「やっぱりボトムだ！・・・つて、えっ？あれ・・・ホントにボトム？前見たのと全然違うじゃん」

彼女が見たボトムのクローン。以前見たときの様な面影はそこには無く、身体は海の底に沈んでいたと思われるヘドロや廃棄物などで形成されており、頭部も鯨さめというより海鼠なまこに近い、見掛けも気味が悪いおぞましいものだった。

ルージュー「怖っ・・・！・・・つてそんな事言ってる場合じゃないよ・・・！早くこいつを倒さないと！やあー！」

1人立ち向かうルージュー。しかし身体がヘドロで出来ている為、ボトムには殆どほとんど打撃は通用していない。

ルージュー「これ1人じゃ無理だ・・・！早く誰か応援来て・・・！」

ほか「今度は2人来たわ」

牢獄の近くに現れた、舞と祈里。

咲「舞だ！」

美希「ブッキーも！」

舞はクリスタル・コミュニケーションを、祈里はリンクルンを箱から取り出した。

祈里「急ごう！チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

祈里はキュアパインに変身。

パイン「舞ちゃん！先に行ってるから！後からお願いね！」

舞「え・・・ええ」

舞を置いて、パインは加勢しに向かう。

舞「どうしたらいいの？咲は捕まってるし・・・このままじゃ変身出来ない・・・！」

そう・・・舞は咲と一緒にでなければプリキュアに変身出来ない。つまり、変身アイテムを取っても意味が無いのだ。

・・・と、その時・・・

牢獄の者達の視界に現れた1人の男・・・

なぎさ「な・・・何、あの人・・・!？」

くるみ「この島の人・・・アイランドでは無さそうね・・・」

つばみ「じゃあ・・・誰なんですか・・・？」

せつな「待って・・・あれってまさか・・・」

その男は、上半身裸で手にはバルディツシユの様な武器を持っている。そして彼は、舞の前で足を止めた。

舞「あ・・・あなたは・・・どなたですか・・・？」

男「私は、この海に棲む神々を司る、ポセイドン・・・君達は、先程私の仲間達を助けてくれたそうだな・・・」

敗者復活ゲームでの出来事だ・・・

舞「あつ・・・ええ、まあ一応・・・」

せつな「やっぱり・・・あの人・・・海の神様のポセイドンだったのね・・・」

ポセイドン「いくら憑依されていたとはいえ、君達や観光客を襲撃した事は申し訳なかった・・・」

舞「いや・・・いいですよ、そんな・・・」

ポセイドン「それにしても、君は何か困っている様だが・・・」

舞「あつ・・・実はそうなんです。あなたの仲間達をあんな目に遭わせた黒幕が、今この島で暴れてるんです。^{アイランド}そして私は、プリキュアというのに変身して、それを浄化しなきゃいけないんです。でも、変身するにはパートナーが必要で、そのパートナーは牢獄にいるから変身出来ないんです・・・」

ポセイドン「プリキュアか・・・よかろう・・・私が恩返しに、単独でも変身出来る様にしてあげよう・・・」

舞「ほ・・・本当ですか・・・!?!?」

エリア縮小まで 5分

ポセイドン「勿論だ・・・君の手に持っている、その変身に使うアイテムを私の前に差し出してくれ・・・」

舞「は・・・はい・・・」

言われるがままに、舞はクリスタル・コミュニケーションをポセイドンの前に差し出す。

そこへ、のぞみ・こまち・かれんの3人が牢獄にやって来た。

こまち「あら？舞さん、何やってるのかしら？」

かれん「それに、その男の人は？」

えりか「ここの海を守ってる神様のポセイドンですよ」

こまち「ポセイドン？何でここにいるの？」

咲「舞が単独でも変身出来る様にしてあげるって言ってるんですよ」

のぞみ「嘘！？そんな事出来るの！？」

かれん「確かに、神様でなければ出来ないかもね・・・」

その時、舞のクリスタル・コミュニケーションが突然強い光を発し出した。

のぞみ「な・・・何！？」

こまち「すごい光・・・！」

かれん「2人とも・・・！感心してる場合じゃないわよ・・・！私達も早く変身しないと・・・！」

こまち「そ・・・そうね」

のぞみ「アイテム、アイテム・・・」

暫くすると、光は治まった。

エリア縮小まで 4分

ポセイドン「さあ、これで君は単独で変身出来る様になった・・・この海を守る為に、全力を尽くしてくれ・・・！」

舞「はい・・・！有難う御座います！」

そして舞は、単独変身が可能となったクリスタル・コミュニケーションを天に翳す・・・

舞「プリキュア・スピリチュアル・パワー！」

舞はキュアイーグレットに変身。

それに続き、のぞみ・こまち・かれんの3人も同時に変身する。

のぞみ・こまち・かれん「プリキュア・メタモルフォーゼ！」

のぞみはキュアドリームに、こまちはキュアミントに、かれんはキュアアクアに変身。

しかし、先程の強い光を見たハンターに見つかった・・・

アクア「あっ！ハンター来たわ！逃げましょう！」

ドリーム「タイミング悪過ぎ〜！」

一目散に逃げる4人。曲がり角を利用し、ハンターの視界から消えた様だ。

ミント「何とか撒いたみたいね・・・そんな事より、早く行かないと・・・！」

イーグレット「ポセイドンさんからもらったこの力・・・絶対に無駄にしないわ・・・！」

その頃、ルージュとパインはボトムのクローンに悪戦苦闘していた。

パイン「私達の技が・・・殆ど効いてない・・・！」^{ほとんど}

ルージュ「本物以上に戦い辛いよ・・・！」

2人の必殺技を同時に食らっても、ボトムは全く痛痒を感じていない。^{じつちやう}

エリア縮小まで 3分

パイン「どうしよう・・・あと3分で水没しちゃう・・・！」

ルージュ「おまけに、ハンターに何回も追い掛けられて・・・やっぱり皆が来ないと・・・！」

ドリーム「ルージュ！」

ルージュ「・・・！この声・・・！」

2人は声のした方に振り向く。

その視界には、ハンターの追跡から逃れてきたドリームとアクアの姿・・・

ルージュ「ドリーム！」

パイン「アクア！」

ドリーム「お待たせ！」

ルージュ「遅いよ！パインと2人で、すごく大変だったんだから！」

アクア「確かに、すごい傷ね・・・でももう大丈夫よ」

パイン「あれ？残りの2人は？」

イーグレット「はぁー！」

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

ボトムの背後から奇襲した2人。

イーグレット「パイン！ゴメンなさい、随分待たせちゃって」

パイン「いいよ、大丈夫！」

ルージュ「これでやっと、役者が全員揃ったね」

ドリーム「さあ！ここからが本番だよ！」

エリア縮小まで 2分30秒

このままボトムのクローンを浄化出来なければ、エリアの3分の2が壊滅・水没し、逃げ切る事は粗不可能となる。

果たして、逃走者もといプリキュア達の運命は！？

ボトム撃退& a m p ;エリア縮小阻止へ！（後書き）

次回、遂にゲームが終了！

逃げ切れるのは誰だ！？

そして、ゲームの様子を見ていた謎の存在が思わぬ行動に！？

一体、何を考えているのだろうか！？

ゲーム終了！（前書き）

江戸編のDVD・・・未公開シーンの内容が充実していて面白い！

次回の王国編も楽しみです

6人のプリキュアvsボトムのクローン。戦いの行方は！？

そして、ゲームを傍観している謎の存在が遂に動き出す！

ゲーム終了！

集まった6人の逃走者もといプリキュア達。ボトムのクローンを浄化しなければ、エリアが3分の1しか残らず、逃げ切る事は粗^ほ不可能となる。

しかし、彼女達は本物の10分の1にも満たない力のクローンに悪戦苦闘している。

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

同時に必殺技を繰り出すミントとアクア。しかし、ボトムのクローンの胴体は大部分がヘドロで出来ている。2人の攻撃で引き裂かれたり貫かれたりしても、すぐに復元してしまう。

アクア「・・・！」

ミント「全然効いてない・・・！」

ドリーム「こうなったら・・・ルージュ！」

ルージュ「OK！」

ドリーム「プリキュア・シューティング・スター！」

ルージュ「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

2人は顔の部分に向けて必殺技を繰り出す。しかし、ボトムのカロインの頭部は海鼠の様なもの。危険を察知し、頭部を硬くしてガードする。その防御力は絶大。ルージユの技をいとも簡単に跳ね返し、突進してきたドリームをも弾き飛ばす。

ドリーム「うわ〜！」

アクア「ドリーム！」

ミントとアクアが、弾き飛ばされたドリームを助ける。

ドリーム「あ・・・有難う御座います」

ルージユ「嘘でしょ・・・！？あたし達の必殺技が、何一つ効かないなんて・・・！」

エリア縮小まで 2分

ミント「このまま私達は、アイランド島が消えるのを黙って見てるしか無いの・・・？」

イーグレット「そんな事はさせない！」

パイン「何としても止めないと！」

イーグレットは空中からの攻撃を試み、パインはパインフルートを構える。しかし・・・

ボトム「グアァー！」

プリキュア「キヤー！」

ボトムの身体から無数のヘドロの爆弾が現れ、プリキュア達に襲い掛かる。彼女達は成す術も無く、その場に倒れる・・・

アクア「くっ・・・！いくらなんでも・・・^{けた}桁が違い過ぎる・・・！」

イーグレット「クローンなのに・・・何であんなに強い・・・？」

ルージュ「もう無理だよ・・・間に合わない・・・」

エリア縮小まで　1分30秒

パイン「あと90秒しかない・・・どうしたらいいの・・・？」

・ 最早打つ手が無くなり、絶望に浸るしか無くなったプリキュア達・

・・・と、その時・・・

ドリーム「あ・・・あれ？」

ミント「・・・？どうしたの、ドリーム・・・？」

ドリーム「さっきまであんなに暴れてたボトムが・・・止まってる・・・」

ドリーム以外「えっ・・・？」

ふと見ると、ボトムのクローンはまるで石化したかの様に、動きが止まってしまったのだ。更に、彼の身体のヘドロが乾燥している様にも見える。一体どういう事なのか。

イーグレット「あつ・・・！皆、あれ！」

イーグレット以外「ん？」

イーグレットが指差すその先には、先程イーグレットが単独で変身出来る様にしてくれたポセイダンの姿が・・・

ポセイドン「私達が守るこの海を汚す者は・・・それ相応の罰を下すまで！」

牢獄

ピリッピリッ ピリッピリッ

咲「あれ？メール来たよ？」

えりか「まさか、誰か捕まったんじゃない・・・」

うらら「どうも違うみたいです・・・」

咲「通達・・・」『ポセイドンが逃走者達への恩返しにボトムのクローンの動きを止めた為、ミッション残り時間が3分間延長された』
「だって！」

なぎさ「ポセイドンが!？」

くるみ「3分延長って結構大きいわよ？」

つぼみ「という事は・・・あと4分ぐらいです」

これで、エリア縮小がゲーム残り7分まで延長された。

ポセイドン「だが、私が出来るのはここまでだ・・・プリキュアの諸君!この者を何としても葬り去ってくれたまえ!」

ドリーム「ポセイドンさん、有難う御座います!」

イーグレット「まさか、またポセイドンさんに助けられるなんて・・・」

ルージュ「よしっ・・・!少し余裕が出来た・・・!危なかった・・・」

ミント「でも、どのみち時間が無いわ・・・!」

パイン「ハンターに気を付けながら、早く倒しましょう・・・!」

アクア「皆で一斉攻撃よ・・・!」

エリア縮小まで 3分

6人は打撃を繰り返して、ボトムのコロンの身体の乾燥したヘド

口を徐々に崩していく。彼が動き始める前に、出来るだけ身体を崩せば、それだけ有利となる。

ドリーム「どんどん崩れてる!」

イーグレット「このまま全部崩しましょう!」

しかし・・・その近くに2体のハンター・・・

パイン「あつ・・・!一旦離れよう!ハンター来た!」

ルージュ「マジかよ!?!」

見つかった・・・

ハンターに追われ、6人はバラバラに・・・

更に、近くにいた別のハンターが、逃げるイーグレットの姿を見つけ、確保へと向かう。

イーグレット「こっちからも来た・・・!」

方向転換し、一目散に逃げるイーグレット。ハンターは彼女を見失った様だ・・・

イーグレット「きつ過ぎる・・・!」

現在エリアには7体のハンター。発見されれば、プリキュアに変身してるとは言えど、逃げ切るのは容易ではない。

パイン「どうしよう・・・？戻れるかな・・・？」

ハンターに追われ、ボトムとの距離が離れてしまったパイン。

ミッションに戻る為に動けば、ハンターに見つかる危険が更に高まる。

エリア縮小まで 2分

先にボトムの許もとに戻って来たのはアクア。しかし、かなりの時間が経ってしまった為、封印が解かれ始めている・・・

アクア「不味い・・・！このままじゃ、ミッションクリア出来ない・・・！皆、早く戻ってきて・・・！」

続いて、ルージュとミントが戻って来た。

アクア「早くしないと、また暴れ出すわ！」

ミント「分かってるわ！」

ルージュ「間に合いそうにないな・・・！こうなったら、必殺技で一気に崩しましょう！」

アクア「そうね・・・それしか無さそうね」

そこへ、ドリームも戻って来た。

ドリーム「皆、戻って来てる・・・！」

ルージュ「ドリーム！早く手伝って！時間無いから！」

ドリーム「ええ！？わ・・・分かった！」

エリア縮小まで　1分30秒

ミント「プリキュア・エメラルド・ソーサー！」

アクア「プリキュア・サファイア・アロー！」

ドリーム「プリキュア・シューティング・スター！」

ルージュ「プリキュア・ファイヤー・ストライク！」

4人の攻撃が、ボトムに直撃。その直後、ボトムの封印が解かれた。
・再び暴れ出すクローン。しかし、封印されている間に身体への
ドロが6割ほど削られ、先程の様な動きは出来なくなっていた。

その時、イーグレットとパインが揃って到着。

パイン「うわっ！すごい事になってる！」

ミント「何とか身体^{ほしん}の殆どを削ったからね・・・！」

ドリーム「でもまだ勢いは有り余ってるみたい」

イーグレット「ここは私に任せて！はあぁー！」

驚異的な跳躍力でボトムを翻弄するイーグレット。それと同時に、
脆^{もろ}くなった身体を自慢のキックで攻撃。最早彼に、反撃をする力は

殆ど残っていない。

エリア縮小まで 1分

イーグレット「これで大分弱ってる筈……！」

アクア「でも浄化しないといけない筈よ？」

ルージュ「さっきのヘドロのせいで、地盤がかなり緩んだかもしれないからね……」

ドリーム「もう時間無いよ？どうやって浄化するの？」

ミント「もうあと40秒よ？」

パイン「私が浄化します！」

名乗りを上げたパイン。

ルージュ「パインが？大丈夫？」

パイン「任せて！」

そう言い、パインはパインフルートを構える。

エリア縮小まで 30秒

パイン「癒せ！祈りのハーモニー！プリキュア・ヒーリングブレイ
ー・フレッツシュー！」

パインフルートから繰り出されたダイヤ型の光弾が、ボトムのクローンを包み込む。

パイン「はあぁー！」

ボトム「シュワ〜シュワ〜・・・！」

こうして、ボトムのクローンは無事に浄化された。

ミッションクリア

クリアと同時に、6人の変身が解ける。

のぞみ「あれ・・・？戻っちゃった・・・」

かれん「もうプリキュアになってる必要も無くなったからかしら・・・？」

舞「何はともあれ、ミッションクリアですね・・・」

りん「かなり体力消耗したけど・・・逃げ切れるかな・・・？」

祈里「逃げ切らなきゃ・・・！その為のゲームなんだから・・・」

こまち「そうね・・・皆で笑って帰りましょう・・・」

ボトムがいなくなった島^{アイランド}・・・その片隅^{たたず}に佇むポセイドン・・・

ポセイドン「プリキュアの諸君・・・良く頑張ってくれた・・・これでこの海も、私の仲間も・・・襲われる事はもう無いだろう・・・有難う・・・感謝する・・・」

そう言い残し、ポセイドンは彼がつかさど司る海神達と共に海へと消えていった・・・

しかし・・・ゲームはまだ終わらない・・・

ゲーム終了まで 5分

舞「スプレー・・・あと2回ぐらいかな、使えるの・・・？」

ハンターが来た時に備え、ハンター除けスプレーを準備する、敗者復活組の舞。

こまち「残り5分切ってる・・・今69万2千円・・・！すごい金額・・・！」

かれん「このゲーム・・・ホントに過酷ね・・・！」

周囲を警戒する、舞と同じ復活組の3年の2人。

祈里「映ってない3体が、何処から来るか注意しとかないと・・・！」

GPSモニターも当てにならない状況の中で、果敢にミッションに挑んできた祈里。

りん「7体は多過ぎるな．．．挟み撃ちされたら最悪だよ．．．」

緊急用逃走靴と自前のフットワークで、これまで何度もハンターの追跡をかわしてきたりん。

のぞみ「ここまで残ってるんだもん．．．！逃げ切りたいよ．．．」

運動が苦手ながらも、ここまで生き延びてきたのぞみ。

ゲーム終了まで 4分

逃げ切れば72万円。捕まれば0円．．．

その時、かれんがハンターに見つかった．．．

かれん「来てる、ハンター．．．！」

一目散に逃げるかれん。しかし、逃げた先にも別のハンター．．．

かれん「嘘．．．！？こっちからも．．．！？」

挟まれた．．．

ピーーーーーーーーー

迫り来る2体のハンター．．．その横の隙間を縫う様にすり抜けるかれん。だが、もう1体の追跡からは免れず。最早、逃走不可能．．

・

かれん「いやゝ！」 ポンッ

残り時間3分37秒 水無月かれん確保 残り5人

かれん「ええゝ？もう一寸^{ちよつと}だったのに……！あと3分半……！」

牢獄に逆戻り……

りん「確保情報……かれんさん捕まった……！マジかよ……！」

こまち「かれんが確保された……！」

残る逃走者は、りん・のぞみ・祈里・こまち・舞の5人。対するハンターは7体……

ゲーム終了まで 3分

のぞみ「早く終わって……！」

物陰に身を潜めるのぞみ。既に旧エリアでハンター冷却剤を使ってしまった為、無闇に動けない。

のぞみ「やっぱり、あの時使ったのは間違いだったかな……？」

そう呟くのぞみの近くに、ハンターが接近……

のぞみ「ゲッ……！ハンター来た……！」

息を殺し、ハンターの動きを見つめる。幸い、ハンターはのぞみには気付いていないようだ。

のぞみ「怖過ぎだよ．．．こんなビビリまくりのゲームなんて、この世の中にあるもんなの．．．？」

それが逃走中だ．．．

舞「何処から来ても、スプレーを噴き付けさえすれば．．．！」

ハンター除けスプレーを持っている舞に、2体のハンターが接近・

舞「屹度大丈夫．．．！^{きつと}落ち着いて．．．来た、来た．．．！」

見つかった．．．

舞「向こう行って、ハンター！」

シュー！

スプレーを噴き掛けた事で、ハンターはその場から退散。

しかし、別のハンターが背後から接近．．．

ゲーム終了まで 2分

舞「あつちは大丈夫そうね．．．移動し．．．ってこっちからも！？」

スプレーを噴き掛ける事を忘れ、一目散に逃げる舞。

その姿をりんが見つけた・・・

りん「あれ舞？何で逃げてんの？スプレーあるんじゃないの？無くなったの、まさか・・・！？」

りんの心配を尻目に逃げ続ける舞。

舞「止めてー！来ないでー！」

更に、別のハンターに見つかり絶体絶命。

舞「あれ？スプレー残ってる？何で気付かないで逃げてるの、私はー！？」

自己管理の甘い女・・・

舞「兎に角、噴き掛けないと！それっ！」

シュー！

追って来た2体のハンターにスプレーを噴き付ける。間一髪、ハンターの追跡を免れた。

しかし、これによってスプレーは底を突いた・・・

スー・・・

舞「もうガスしか出てない・・・もう使えないわね・・・これで追われたら、もう逃げられない・・・」

ゲーム終了まで 1分

祈里「あと1分だ・・・！集中・・・！」

りん「あともう少し・・・！もう少しで制覇出来る・・・！」

逃走者5人に対し、ハンターは7体。逃げ切れば72万円・・・捕まれば0円・・・

こまち「あと45秒・・・！45秒の辛抱ね・・・！」

のぞみ「ハンター来そう・・・！怖いよ・・・」

舞「ハンター来ないで・・・！」

ゲーム終了まで 30秒

祈里「ハンターいた・・・！」

近くにハンターを見つけた祈里。茂みに身を隠す。

祈里「通り過ぎて・・・！」

こまち「ここまで来たら捕まりたくないわ・・・」

ゲーム終了を今か今かと待つ逃走者達。

のぞみ「いるかな・・・？いないのかな・・・？」

りん「ヤバッ！来た！」

ハンターに見つかったりん。一目散に逃げる。

りん「早く終われ・・・！」

こまち「あと・・・10秒・・・！9・・・8・・・」

舞「7・・・6・・・」

のぞみ「5・・・4・・・」

祈里「3・・・2・・・」

りん「1・・・ヨッシャー！逃げたぞー！」

ゲーム終了

夏木りん・夢原のぞみ・山吹祈里・秋元こまち・美翔 舞 逃走成
功 72万円獲得

のぞみ「逃げた！？私逃げ切った！？やったー！逃げたー！」

祈里「すごい！逃げ切った！嬉しい！」

こまち「ホントに！？ホントに終わり！？」

舞「終わった〜！逃げた〜！」

りん「72万円ゲットだー！ヨッシャー！」

その頃、逃走成功を果たして喜ぶ5人の顔を、モニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面をスライドさせる・・・

するとそこには、『DIMINISH HUNTERS』の文字・・・

それをタッチすると、エリアにいる7体のハンターの顔写真が映し出された・・・

そして謎の存在は、『HUNTER01 KR』と『HUNTER06 TT』以外のハンターの顔写真をタッチ・・・

その直後、エリアにいた5体のハンターが電子音と共に消滅した・・・

更に、謎の存在はもう一度画面をスライドさせる・・・

モニターには『BONUS GAME』の文字・・・謎の存在はそれをタッチした・・・

ピリッピリッ ピリッピリッ

こまち「あら？メールが・・・」

のぞみ「通達だ！『ゲーム終了！夏木りん・夢原のぞみ・山吹祈里・秋元こまち・美翔 舞逃走成功！賞金72万円獲得！』・・・えっ・・・？『しかし』・・・『ゲームはまだ終わらない』！？」

舞「ええっ！？どういう事！？」

祈里「『これより20分間のボーナスゲームを行う。逃げ切れれば更に28万円プラスし』・・・」

こまち「『合計100万円獲得となる』・・・」

りん「『参加するかしないかは、携帯電話で申告せよ！』・・・まだゲームやるの！？」

逃走者に与えられたのは、更なるボーナス獲得の権利。同じエリアで行う20分間の延長戦を逃げ切れれば賞金100万円を獲得出来る。勿論、捕まれば今まで獲得した賞金は全て没収となる。また、りと祈里が持っているアイテムは、これより使用不可能となる。更に・

咲「『牢獄の者達にもチャンスを与えよう！』」

ほのか「何、チャンスって？」

いつき「またゲームに参加出来るの？」

咲「とりあえず読むね」

牢獄の者達も、このボーナスゲームに参加する。ボーナスゲームスタートと同時に全員がエリアに散らばり、ハンターの代わりに逃走者を確保してもらう。ゲーム終了までに、参加者全員を確保出来れば、逃走者への賞金100万円を牢獄の者達で山分け出来る。

くるみ「という事は何？今度は私達が捕まえるって事？」

咲「そう、そう、そう」

ラブ「それで全員を捕まえられれば・・・」

美希「賞金はあたし達の物って事でしょ？」

なぎさ「マジで!？」

せつな「嬉しい!」

この通達に大喜びする牢獄の者達と・・・

りん「何だよ、これ!ふざけるなよ!絶対逃げ切れないじゃん!」

のぞみ「聞いてないよ!そんな事!」

祈里「今まで味方だった人が、皆敵になっちゃったの!？」

こまち「そんなルール無しよ!」

舞「ハンターが13体いるのと変わらないじゃない!」

怒り狂う逃走者達・・・

しかし、このメールにはまだ続きがある・・・

咲「一寸待^{ちよつと}って! 続きがあるよ」

ひかり「続きですか?」

うらら「まだ伝える事があるんですか?」

かれん「もう無い筈^{はず}でしょ?」

咲「まあ、読んでみますね」

このままでは、逃走者にとって圧倒的に不利な状況である。その為、エリアには2体ハンターが残されている。このハンターは、牢獄の者達のみを追跡し確保する。ボーナスゲーム終了までに、牢獄の者達が全員確保されれば、その時点でゲームは強制終了。その時に残っていた逃走者のみ、賞金100万円を獲得出来る。

こまち「ハンターが2体残ってはいるけど・・・今回は私達の味方なのね?」

りん「それなら公平だね・・・」

舞「公平だけど・・・別に参加しなくてもいいのよね、これは?」

そう・・・ボーナスゲームへの参加は自由。不参加を表明すれば、72万円を持って帰れる。

祈里「挑戦はしたいな・・・このままじゃ、逃げ切った感じがしないもん・・・」

のぞみ「ここで止めて72万円を持って帰るべきか・・・20分更に逃げて100万円を持って帰るべきか・・・」

賞金の欲望に悩む逃走者達・・・彼女達が出した答えは・・・

りん「もしもし、夏木りんですが・・・この後のボーナスゲーム・・・参加させていただきます!」

舞「美翔 舞です・・・100万円もらいますので、宜しくお願いします!」

祈里「山吹祈里です・・・ボーナスゲーム、参加させて下さい!」

こまち「秋元こまちです・・・参加します!」

のぞみ「夢原のぞみです・・・あの・・・やりま・・・す・・・」

5人全員が、ボーナスゲームへの参加を決めた。

賞金100万円を賭けて、逃走者と牢獄の者達との最終決戦の火蓋が切って落とされる!

ゲーム終了！（後書き）

まだまだ終わらない逃走中！

次回、恐怖と欲望が加速するボーナスゲームが始まる！

勝つのはどっちだ！？

そう言えば、11月23日にまた逃走中が放送されるそうです。

しかも、声優・平野綾が出演するとか・・・

最早、逃走してるとしか言い様が無い・・・

逃走中同盟リーダーのワグナーさんを始めとする、私達の小説の逃走中の方が全然面白いと感じるのは私だけでしょうか・・・？

ボーナスゲームスタート！（前書き）

11月23日に、また逃走中が放送されます。

これで、もう今年6回目の放送ですよ・・・？

その内月一で放送なんて事になったら、それこそ迷走してるとしか
言えなくなりますよ・・・

キャスティングミスも回を重ねることに増えていつてるし・・・

まあ、身体が反応して結局見ちゃうんでしょうけどね。

緊迫のボーナスゲーム！

逃走者vs牢獄者・・・勝つのはどっちだ！？

ボーナスゲームスタート！

逃走者5人は、20分間逃げ切れば賞金100万円を獲得出来る。
牢獄者13人は、ボーナスゲーム終了までに逃走者全員を確保出来れば賞金100万円を仲間達で山分け出来る。

エリアには2体のハンター。彼等は牢獄者13人のみを追跡し確保する。ゲーム終了前に牢獄者全員が確保されれば、その時点で生き残っていた逃走者全員が賞金100万円を獲得する。

このゲームは、100万円獲得か0円かのどちらかだけ。逃走者達は、もう自首出来ない。

そして、ボーナスゲームがスタート。

りん「絶対負けないぞ……！逃げ切ってやる……！」

スタートと同時に牢獄の扉が開放され、13人は一気に脱獄する。

咲「自由だー！このまま全員捕まえるぞー！」

えりか「全滅させて賞金獲るぞー！」

13人は歓喜の声を上げながら、牢獄の許を離れていく。

逃走者にとって、かなり不利な状況。逃げ切れる者は現れるのか。
引き続き物陰に身を潜めているのぞみ。

のぞみ「牢獄の人達、皆足速いもん・・・動いたら絶対捕まる・・・ハンターが数を減らしてくれないと動けないよ・・・」

13人という大人数に怯えている様だ。

祈里「向こうの人達は携帯で連絡を取り合って、待ち伏せとか挟み撃ちとか目論^{もくろ}んでる筈^{はず}なんだよ・・・」

そう・・・13人も携帯の使用が可能。連係プレーで逃走者達を追い詰める。

こまち「最低でもハンターが半分くらいまで減らしてくれないと、私達に勝算は無いわね・・・」

舞「でも、牢獄の人達がハンターと違うのは・・・視界から外れても執拗^{しつこ}に追い掛けて来れるってところなのよ・・・」

りん「殆ど普通の鬼^{ほしん}ごつこと変わんないから嫌なんだよな・・・3人とか4人とかで来られたら終わりだな・・・」

他の者も、牢獄の者達の脅威に恐怖を駆られている。

その牢獄者13人は、4チームに分かれて行動し、発見次第連絡を取って確実に逃走者を確保する作戦の様だ。

なぎさ「とりあえず、りんは絶対捕まえてかないと」

うらら「何かと厄介ですから、りんさんは」

美希「捕まえちゃえば、勝ったも同然だしね。そうなれば、あたし達は完璧」

りんの確保を狙うなぎさ・うらら・美希。

ほか「ハンターには気を付けて。5人を守りに追い掛けて来るから」

ラブ「大丈夫でしょ？2体しかいないんですから。この調子で幸せゲットだよ」

いつき「油断すると痛い目に遭うよ？ちゃんと気を引き締めて」

ハンターの搜索を掻い潜り、逃走者を探すほか・ラブ・いつき。

かれん「物陰に隠れてそうなのよね、皆」

ひかり「のぞみさんとか絶対隠れてますよ」

咲「足遅い人から捕まえてく？」

つぼみ「その方が手っ取り早いですね。私も活躍したいですし・・・」

足の遅い逃走者を標的とするかれん・ひかり・咲・つぼみ。

くるみ「1人を^{おとり}囚にして、一気に囲むっていうのはどう？」

せつな「連携が成立すれば、絶対上手くいく筈^{はず}よ。その為にも・・・
精一杯、頑張るわ」

えりか「でもハンターには気を付けないと。あたし達を狙ってくるから」

1人を餌にして追い込む作戦のくるみ・せつな・えりか。

彼女達を追い詰める唯一の存在。それがハンター・・・彼等は視界に捉えた牢獄者のみを見失うまで追跡する。待ち伏せなどはしない。

茂みに身を隠している祈里。

祈里「こういう所狙ってそうだな・・・怖い・・・あつ、あれハンター・・・？」

遠くにハンターを見つけた。しかし、今の彼女にとってハンターは味方だ・・・

祈里「早く捕まえて、減らしてほしいな・・・」

そのハンターが向かう先に、ほのかのチーム・・・

ラブ「絶対建物の陰とかにいる筈だよ」

いつき「向こうも無闇に動く訳無いもんね」

ほか「1度5人を油断させてっていうのも1つのさく・・・来たー！」

ラブ・いつき「ハンターだ！」

見つかった・・・

一目散に逃げる3人。ハンターに追われ、お互いバラバラに・・・

ハンターが視界に捉えたのは・・・

ピーーーーーー

ラブ「何でこっち来るの！？」

ラブだ・・・

逃げ続けるラブ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

ラブ「ひゃー！」 ポンッ

残り時間17分48秒 桃園ラブ確保 牢獄者残り12人

ラブ「ええー！？何にもしないで終わっちゃったー！これもう・・・他の皆を信じて待つしかないの？嘘・・・」

ピリッピリッ ピリッピリッ

りん「何だよ・・・！まさか、誰か捕まった・・・？」

せつな「ええ！？『桃園ラブ確保、牢獄者残り12人』！？何してんのよ、ラブ！」

くるみ「酷い！まだ3分も経ってないのに！？」

舞「やつと1人確保された・・・！一寸は楽になったわ・・・」

のぞみ「1人じゃダメなんだってば・・・6人ぐらい減ってもらわないと・・・」

ひかり「ハンターいます・・・！」

遠くにハンターを見たかれんのチーム。

つぼみ「こっち来てますね・・・」

かれん「ここは一旦離れましょう・・・」

4人は別のルートを通る。

りんを探すなぎさのチーム。

うすら「なかなか見つかりませんね」

美希「そんな簡単に見つからないわよ。何せりんは、120分間逃

げ切ってるんだから」

なぎさ「でもかなり体力は消耗してる筈だよ？簡単に捕まえられる
って」

その姿を見た・・・夏木りん・・・

りん「あの3人で固まって行動してるんだ・・・ヤバいな・・・！
見つかったら、間違いなく応援来られるな・・・」

思う様に動けない・・・

物陰に身を隠すこまち。

こまち「あそこ4人いるじゃない・・・！しかも、かれんが引率し
てる・・・！」

かれんのチームを見つけた。

息を殺して、その場から離れるのを待つ。

咲「あそこいそくだよね？」

ひかり「絶対いるでしょう」

こまちの隠れる場所に目を付けた2人。

こまち「こつち来る・・・！」

こまち、絶体絶命・・・

つぼみ「行ってみましょう」

かれん「そうね・・・屹度きつといると・・・ハンター来たわ!」

ひかり・咲・つぼみ「ええゝ!？」

こまちを見つける前にハンターを見つけた4人。一目散に逃げる。

こまち「良かった・・・ハンター来てくれたわ・・・」

こまち、命拾い・・・

ハンターが視界に捉えたのは・・・

つぼみ「何でいつも私なのゝ!？」

つぼみだ・・・

しかし、彼女が逃げる先にはくるみのチーム・・・

せつな「全然いないわね」

えりか「相手が相手だからね」

つぼみ「皆さん逃げてください!ハンター来ました!」

くるみ「嘘!？て言うか・・・あんたが連れて来てるじゃないのゝ!？」

3人も巻き添えに・・・

その時、ハンターの標的が逃げ遅れたえりかに変わった。

えりか「あたし！？来るなー！」

ピーーーーー

一目散に逃げるえりか。しかし、その距離は徐々に詰められていく。
最早、逃走不可能・・・

えりか「ぎゃああゝ！」 ポンッ

残り時間15分29秒 来海えりか確保 牢獄者残り11人

えりか「何で仲間同士で巻き添えにしてるの、つばみはゝ！？」

のぞみ「あつ・・・！えりかも確保だつて・・・！」

祈里「2人確保された・・・」

いつき「何やってんだよ、えりかは・・・！」

ほのか「もう2人も捕まったの・・・！？」

美希「あつ・・・！2人とも一寸待^{ちよつと}って・・・！」

何かを見つけた美希。

うらら「な・・・何ですか・・・？」

美希「あの紫っぽい物と青っぽい物・・・ひょっとして・・・舞じゃない・・・？」

美希に見つかった・・・美翔 舞・・・

舞「気付かれてる、まさか・・・？美希さんの視線が気になる・・・こっち見てるのかしら・・・？」

なぎさ「あっ・・・！舞っぽいね。何か動いてるもん」

うらら「周りにも、そんな色ありませんしね。多分舞さんでしょう」

美希「じゃあ、3人で確保しに行きます？」

なぎさ「行こう・・・！」

うらら「万が一取り逃がしても、他の皆さんの所に逃がせばいい訳ですから」

舞に近付く3人・・・

舞「こっち来てる・・・！やっぱりばれてたのね・・・？逃げなきゃ！」

近付いてくる3人に見つかったと悟り、隠れ場所から抜け逃げ出す舞。

うらら「あっ！逃げました！」

美希「待ちなさい、舞！」

なぎさ「大人しく捕まれー！」

舞「そんな事言われて、素直に捕まる人がいる訳無いでしょ!？」

一目散に逃げる舞。しかし、なぎさ達の声を近くで聞いたくるみも、声のする方へ走り出す。

くるみ「誰か追い掛けられてるわね・・・！」

尚も逃げ続ける舞。しかし・・・

くるみ「いた！」

舞「キャツ!？」

逃げた先にいたくるみに気付き方向転換。

舞「このままじゃ絶対捕まる・・・!あっ・・・!ハンター・・・!」

逃げた先にいたのは、ハンター・・・

なぎさ「ヤバい!あそこにハンターいる!」

くるみ・美希「ええ!？」

ハンターは振り返ると、なぎさ達の確保へと向かう。

なぎさ「こんなのありえない！」

くるみ「もう少して捕まえられそうだったのにー！」

美希「あんなの無しよー！」

逃げ続ける3人。ハンターが視界に捉えたのは・・・

なぎさ「嘘だー！」

なぎさだ・・・

逃げ続けるなぎさ。しかし、その差はどんどん縮まっていく。最早、逃走不可能・・・

なぎさ「いやあー！」 ポンッ

残り時間13分57秒 美墨なぎさ確保 牢獄者残り10人

なぎさ「ちくしょう、舞の奴・・・！ハンターを利用して・・・！」

ハンターにより、九死に一生を得た舞。

舞「何とか撒いたわ・・・これで少しは安心・・・」

しかし・・・背後からつぼみ・・・

舞「えっ・・・？嘘でしょ！？こっちからも！？」

つぼみ「往生際が悪いですよー！」

舞「きつい・・・！」

またしても追われる身となった舞。一目散に逃げる。しかし、逃げた先にはひかりの姿・・・

舞「これじゃ埒明かない・・・！何処かに隠れないと・・・ってこつちにも！？」

ひかり「絶対捕まえますよ！」

逃げ続ける舞。しかし、先程3人に追われかなりの体力を消耗してしまい、そのスピードは格段に落ちている。とうとうひかりに差を詰められる始末。最早、逃走不可能・・・

舞「もうダメ・・・」 ポンッ

残り時間13分33秒 美翔 舞確保 逃走者残り4人

舞「多過ぎる・・・しかも、執拗に追い掛けられるし・・・逃げ切れる訳無いじゃない・・・」

息を切らし、その場に倒れる・・・

ひかり「舞さん捕まえました！」

つぼみ「ホントに！？すごいです、ひかりさん！」

ひかり「いえいえ、つぼみさんのお陰です」

ピリッピリッ ピリッピリッ

かれん「嘘？もうこれ以上減ってほしくないんだけど・・・」

せつな「あつ！『九条ひかりの活躍により、美翔 舞確保』！」

くるみ「『逃走者残り4人』！よしっ！」

咲「ヨッシャー！1歩近付いた！」

牢獄者達は、ボーナスゲーム終了までに逃走者を全滅出来れば、賞金100万円を仲間達で山分け出来る。

祈里「舞ちゃんが捕まった・・・」

りん「こっち側の確保情報は、精神的にきついな・・・」

逃走者達は、あと13分ほど逃げ切れば賞金100万円を獲得出来る。

いつき「あそこにいそうだな・・・気配を感じる・・・」

またしても危機が迫る・・・秋元こまち・・・

こまち「今度はいつきさん・・・1人で来てる・・・」

こまちに近づくいつき。

こまち、またも絶体絶命・・・このまま見つかってしまうのか!？

ボーナスゲームスタート！（後書き）

残る逃走者は4人。対する牢獄者は10人。

ゲーム終了まで、およそ13分。

逃走者は無事逃げ切りを果たし、100万円獲得なるか！？

それとも、牢獄の者達に100万円を持っていかれてしまうのか！？

数が減るまで（前書き）

逃走者4人vs牢獄者10人

圧倒的不利な状況で、逃走者は逃げ切れるのか！？

数が減るまで

こまちに近付くいつき。

こまちは息を殺して体勢を低くする。

こまち「早く行つて・・・」

このままやり過ごせるのか。

いつき「絶対誰かはいるよ・・・」

こまち「不味い・・・見つかる・・・」

そしていつきは、物陰の隙間から様子を窺う。

その直後、こまちは見られたと悟って物陰から一気に抜け出す。

いつき「あっ！逃げた！」

一目散に逃げるこまち。それを追ういつき。

いつき「逃げるなー！」

こまち「そんな事言われて逃げない人がいる訳無いでしょ!？」

逃げ続けているこまち。しかし、いつきとの差はどんどん縮まってい
いく。

こまち「このままじゃ捕まる・・・！」

こまちが逃げた先には、救いのハンター・・・

いつき「わっ！ハンターいる！」

ハンターに見つかり、今度はいつきが逃げる。その間に、こまちは上手く逃げ延びた様だ。

こまち「またハンターに助けられたわ・・・」

ハンターに追われ、一目散に逃げるいつき。曲がり角を利用し、こちらにも上手く撒いた様だ。

いつき「もう一寸ちよつとだったのにな・・・ハンター厄介だな・・・」

こまち「ハンターの近くにいた方が良さそうね。隠れているより・・・」

ハンターを盾にして逃げ切る作戦へと変更するこまち。

しかし・・・

？「いた！」

こまち「えっ？キヤー！」

1人の牢獄者に見つかった・・・こまちを見つけたのは・・・

咲「捕まえてやる！」

咲だ・・・

こまち「ハンター！ハンター来て〜！」

そう叫びながら、再び一目散に逃げるこまち。しかし、彼女の逃げる先にハンターはいない・・・

更に、逃げた先にうららの姿・・・挟まれた・・・

咲「うらら〜！」

うらら「はい！」

こまち「ええ〜！？」

挟み撃ちにされ、逃げ場を失ってしまった。最早、逃走不可能・・・

こまち「逃げれない・・・」 ポンッ

残り時間 1 分 4 6 秒 秋元こまち確保 逃走者残り 3 人

こまち「2 人とも狡いわよ、挟み撃ちなんて・・・」

咲「どんな形であれ捕まえればいいんですよ、私達は！」

うらら「そうです！私達の作戦勝ちって事ですよ！」

こまち「そんな〜・・・」

ハンターに頼ろうとした罰だ・・・

ピリッピリッ ピリッピリッ

のぞみ「またメール・・・お願い・・・！鬼の方の確保情報で・・・！」

祈里「ええ・・・？こまちさん確保・・・」

りん「『逃走者残り3人』・・・！？マジで・・・？復活組の生き残りが全滅した・・・！」

ほか「『秋元こまち確保、逃走者残り3人』！すごい有利になっ
たわ！」

くるみ「これ勝ち決定でしょ？これ勝ったでしょ？」

美希「獲物はあと3人・・・こっちは10人・・・ハンターにさえ
気を付けてれば、絶対大丈夫・・・！」

残るはりん・のぞみ・祈里の3人。対する牢獄者は10人・・・

のぞみ「ハンター何してるんだよ・・・早く牢獄の人達を捕まえ
てよ・・・」

ハンターに望みを託す女・・・

ひかり「物陰を調べていけば、絶対誰かは出てくる筈・・・」

己おのれの直感を信じ、エリア内を探索するひかり。

その近くに黒い影・・・

ひかり「絶好の穴場を無くさせないと切りが無いし・・・ってハンターだ〜！」

見つかった・・・

ひかり「来ないで〜！」

一目散に逃げるひかり。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

ひかり「わあ〜！」 ポンッ

残り時間10分28秒 九条ひかり確保 牢獄者残り9人

ひかり「うわあ・・・舞さんを捕まえて貢献したのに・・・皆さん、後は任せました・・・」

つぼみ「あっ・・・！ひかりさん確保・・・！」

かれん「『残り9人』・・・こつちもどんどん減ってるわね・・・」

物陰に身を潜ませている祈里。

ゲーム終了まで 10分

祈里「残り10分切った・・・！どうしよう・・・！緊迫してきた・・・！」

りん「漸く折り返しだよ……もう耐えられないよ、この恐怖には……！」

のぞみ「牢獄の人達が6人まで減ったら動こう……それまでは無理……」

栄光の逃げ切りまで、あと10分。緊迫する3人。

その3人を追う9人の牢獄者。逃走者に逃げ道は殆ど無い。

くるみ「りん何処？自慢の足を捨てて隠れてるのかしら？りんらしくないわね」

突然、逃走者達の陰口を叩き出すくるみ。

くるみ「というか……何でのぞみと祈里が残ってるのよ？偽善者のくせして……！あんな人間が残ってるのが腑に落ちないわ……！偽善者は偽善者らしく報いを受ければいいのよ……！」

のぞみに加えて、祈里までも偽善者呼ばわり……

せつな「3人とも何処いるの？大人しく出てくれば、罪は軽くなるわよ」

逃走者を犯罪者に見立て、出て来る様に指図するせつな。しかし、そんな事をして素直に出てくる訳が無い。

せつな「隠れ場所を突き止めて、そこを封鎖して袋の鼠にすればいい筈だけど……ハンターのせいで、何処のグループも全員がバラ

バラになっちゃってるから・・・ここはやっぱり電話して、呼び寄せるしかないわね」

せつなは人を呼び寄せる為に、電話を掛ける。

ブルルルルル

くるみ「あっ・・・せつなから・・・もしもし？」

せつな「くるみ？もう1回合流しない？」

くるみ「いいけど、何処にいるの？」

せつな「私は・・・えっと・・・ガソリンスタンドの目の前だけど・・・」

くるみ「ガソリンスタンド・・・？」

その時、ハンターが逃走者の姿を捉えた・・・見つかったのは・・・

せつな「あっ！ゴメン！ハンター来たから切るわね！」

せつなだ・・・

くるみ「嘘でしょ？ハンター来たって・・・どんだけ空気読まないのよ、ハンターは？」

一目散に逃げるせつな。

せつな「速い・・・！ハンター速過ぎる・・・！」

しかし、その差は徐々に縮められていく。最早、逃走不可能・・・

せつな「いやあっ！」 ポンッ

残り時間 8分59秒 東 せつな確保 牢獄者残り 8人

せつな「侮^{あなご}つてた・・・ハンター2体しかないからって油断して
た・・・はあ・・・」

ピリッピリッ ピリッピリッ

りん「うるさいな、着信音・・・！これで牢獄の人に気付かれちゃ
うよ・・・！」

のぞみ「『東 せつな確保、牢獄者残り 8人』・・・！」

美希「せつなも捕まった・・・！こつちも結構ヤバいわね・・・！」

うらら「体力ある人がどんどん捕まってる・・・！」

祈里「あっ・・・！かれんさんだ・・・！」

物陰の隙間からかれんを見つけた祈里。息を殺して、通り過ぎるの
を待つ。

かれん「あの辺って、確かまだ見てなかった筈^{はず}よね？1回見ときま
しょう。いなかったら、ここは諦める」

祈里が隠れる物陰に近付くかれん。

祈里、絶体絶命・・・

祈里「来た・・・どうしよう・・・入って来られたら捕まる・・・」

しかし、2人の近くにハンター・・・

かれん「いそうな感じだけど・・・気配が感じられないわね・・・
いないのかしら？」

祈里「ホントに来ないで・・・」

かれん「いそうに・・・無いわね・・・って来たー！」

見つかった・・・

祈里「ハンター来た・・・！良かった・・・」

祈里、九死に一生を得た・・・

かれん「いやー！」

一目散に逃げるかれん。彼女が逃げる先に、花咲つぼみ・・・

かれん「つぼみ！ハンター来てるから逃げて！」

つぼみ「えっ？ええ？ええー！？」

かれんに釣られ、つぼみも逃げる。

その時、ハンターの標的が突然つぼみに変わった。

つぼみ「何で私なんですかー!?」

かれんに代わり、一目散に逃げるつぼみ。しかし、彼女がハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

つぼみ「キヤーツ！」 ポンッ

残り時間 8分0秒 花咲つぼみ確保 牢獄者残り7人

つぼみ「何でハンターは、いつも私を標的にするの・・・? 酷過ぎる・・・!」

つぼみの確保を目の前で見ていた、夏木りん・・・

りん「つぼみ捕まった・・・! これで向こうは、あと7人・・・! そろそろ外に出ても大丈夫かな・・・? いやっ、まだ・・・! あと1人ぐらいの辛抱だ・・・!」

いつき「つぼみも捕まった・・・不味いな」

ほのか「こつちが全滅したら、もうそれでゲームは終わりでしょ?」

先程までの余裕の表情とは一変、続々と仲間達が確保されて不安を募らせているほのか。

ほのか「早いところ見つけて捕まえないと・・・! こういう形で復活した意味が無いし」

うらら「この減り方、尋常じゃないよ。2体とはいえ厄介だよ・・・ダメダメ・・・！弱気になってたら捕まる・・・！」

のぞみ「追い込み掛けてきそうだな・・・」

残り時間がおよそ7分半となり、更に緊迫するのぞみ。

のぞみ「ここが勝負時だね・・・！」

咲「絶対近くにいる筈だよ・・・！探し物なんて、大抵すぐ傍にあるもんだからね」

近くを探す咲に、ハンターが接近・・・

咲「この辺の何処かにいるでしょ？結構気配を感じるんだけど・・・えっ・・・？ハンターじゃん！」

見つけたのはハンター・・・

咲「ハンターは探してないってばー！」

そう叫び、一目散に逃げる咲。しかし・・・

咲「あいたっ！転けた・・・！」

勢い余って転倒してしまった。最早、逃走不可能・・・

咲「嘘だ・・・」 ポンッ

残り時間7分2秒 日向 咲確保 牢獄者残り6人

咲「最悪・・・何でこういう時に限って転ぶの・・・？」

美希「嘘！？咲も捕まった！『残り6人』・・・！」

りん「よしっ・・・！これで大分楽だいぶんになった・・・！」

祈里「これなら行けそう・・・！」

のぞみ「動こう・・・！これだけ減れば、動ける範囲が広がる・・・！」

移動を試みるのぞみ。漸よつやく動き出す。

かれん「6人は辛過ぎる・・・！」

うらら「あれだけたくさんいたのに・・・もう6人・・・！？」

ほのか「これ、こつちもピンチよ・・・！」

徐々に焦り出す牢獄者達。

りん「6人なら走って勝負出来る・・・！出よう」

りんも一か八か、物陰から抜け出す。

祈里「ここにも埒明らちかない・・・！動こう」

祈里も勝負に出る。

のぞみ「でも残ってる人・・・皆足速いから、そこだけ気を付けな
いと」

周囲を警戒するのぞみ。

美希「いた！」

近くにいた美希に見つかった・・・

のぞみ「えっ・・・？いやゝ！来たゝ！」

追ってくる美希に気づき、一目散に逃げるのぞみ。何度も曲がり角
を利用し、視界から消える。

美希「・・・！見失った・・・のぞみとはいえ、油断出来ないわね・
・・・！」

のぞみ「どうしよう・・・？隠れてた方が良かったかな・・・？
でもずっと隠れてたら、いずれは見つかるし・・・」

祈里「今追われたら、絶対捕まる・・・！あつ、いた・・・！」

遠くにほのかを見つけた祈里。思う様に動けない。

祈里「逃げ切れるかな・・・？逃げ切らなきゃしょうがないよ・・・
！」

自分に言い聞かせる様に呟く。

りん「きついなゝ、ボーナスゲームって・・・もう心臓に悪過ぎる

よ・・・！メチャメチャ速いよ、鼓動が・・・！」

恐怖に怯^{おび}えているりん。

りん「負けたくないな・・・ここまで来たら・・・！」

のぞみ「大丈夫だね・・・」

建物の陰から、通りの様子を窺うのぞみ。

その近くに、くるみの姿・・・

のぞみ「怖いよ・・・普通の鬼ごっこで、こんなに怖い思いした事無いよ・・・わっ！」

くるみ「見つけたわよ、のぞみ！」

見つかった・・・

くるみ「いい加減捕まりなさい、この偽善者！」

のぞみ「誰が偽善者だよー！」

そう叫び、一目散に逃げるのぞみ。しかし・・・

のぞみ「うわあー！何ここ！？行き止まりじゃーん！」

くるみ「ラッキー」

逃げた先は行き止まり・・・最早、逃走不可能・・・

のぞみ「マジで〜!?!」 ポンッ

残り時間5分39秒 夢原のぞみ確保 逃走者残り2人

のぞみ「ええ〜!?!何でだよ〜!?!すごいショック〜!」

その叫び声に釣られてやってきた美希。

くるみ「のぞみ捕まえた!」

美希「ホントに?行き止まりじゃない、ここ」

くるみ「やっと捕まったわよ、のぞみが」

のぞみ「もう〜!もう一寸ちよつとだったのに〜!」

りん「ええ!?!『夢原のぞみ確保、逃走者残り2人』!?!」

祈里「嘘!?!のぞみちゃん捕まった!」

残る逃走者は、りと祈里の2人・・・

対する牢獄者は6人・・・

ゲーム終了まで、およそ5分15秒。

彼女達を待ち受ける、衝撃の結末とは!?!

数が減るまで（後書き）

次回、ボーナスゲームが終了！

勝者は逃走者か！？牢獄者か！？

衝撃の結末を見逃すな！

本当にゲーム終了！（前書き）

江戸編に続き、王国編も未公開シーンが充実していて面白い！

DVDは本当にいい意味で期待を裏切りますね

でも、沖縄編から謎の存在が出てきたから、もうDVDは発売されないのかな・・・？

残り5分の攻防・・・勝利の栄光を掴み取るのはどっちだ！？

本当にゲーム終了！

残る逃走者は、りんと祈里の2人だけ。

対する牢獄者は、ほのか・うらら・かれん・くるみ・美希・いつきの6人。

ゲーム終了まで 5分

くるみ「これ以上捕まったら、りんを確保する事が出来なくなる・・・！早いところ、りんを探して捕まえないと・・・！」

いつき「りんさえ確保出来れば、もう大丈夫・・・！」

美希「ブッキーは、りに比べたら大した事無いもの・・・！」

りんを捕まえる事に意固地になる牢獄者達。

りん「6人全員があたしを狙ってきそうだな・・・ココが正念場だ・・・！」

狙われた女・・・

祈里「怖くなってきた・・・！」

祈里の近くに、ほのかの姿・・・

祈里「ほのかさんだ・・・近付いてる・・・！離れよう・・・！」

ほか「こつち側にいそうな気がする・・・時間無いわね・・・もうここからは走りながら探さないと、間に合わないわ・・・！」

かれん「残り4分38秒・・・このままじゃ2人に逃げ切られる・・・！」

うらら「ここまで残っておいて、負けたくないよ・・・！」

追い込みを掛ける6人。残る2人に緊張が走る・・・

りん「絶対逃げ切って100万円獲って、両親やゆうやあいに何か買ってやりたいよ・・・！」

祈里「100万円獲って・・・いつも頑張ってくれてるお父さんとお母さんと一緒に家族旅行に行きたい・・・！」

夢を膨らませる2人。しかし、牢獄の者達に捕まれば、それも夢で終わってしまう。

美希「全滅させないと、ボーナスゲームでの復活が無意味になるもの・・・やっぱり役目は果たさないと」

2人を探す美希。しかし、向かう先にハンター・・・

美希「何処かしら、りんは？りんを見つければ、全員を呼び寄せて確保って事も出来るわ・・・って嘘でしょー！？」

見つかった・・・

美希「こんな時に限ってー！」

一目散に逃げる美希。しかし、逃げた先に別のハンター・・・挟まれた・・・

美希「こつちからも来た・・・！」

逃げ場を失ってしまった・・・最早、逃走不可能・・・

美希「うわっ！」 ポンッ

残り時間4分3秒 蒼乃美希確保 牢獄者残り5人

美希「あと4分！？何でこんな時にハンターが追って来るのよー！？」

ゲーム終了まで 4分

かれん「あっ！美希が捕まった！」

いつき「『残り5人』って・・・！」

くるみ「また足速い人が捕まった・・・！」

ほのか「これどうするの？」

うらら「こつち完全にピンチでしょー！？」

美希の確保に狼狽^{うごた}える牢獄者達。

りん「残り5人になったとは言っても、エリアが狭いもん・・・気

抜けないよ・・・！」

祈里「一寸歩ちよつといただけで3人も4人も顔合わせちゃうぐらい狭いから、結構ハードル高いよ・・・！」

一瞬の気の緩みが命取りとなる。

残り5人となり、パニック気味になりながら逃走者を探す牢獄者達。しかし、エリアには2体のハンターが彼女達を狙う。不用意に動けば、確保される危険性も高くなる。

くるみ「早く見つけないと・・・！こつちが5人になったから、2人は絶対油断してる筈はず・・・！そこを狙って、何人かで一斉に捕まえる・・・！こうでもしないと、確実に私達の負けが決まってしまう・・・！」

ほのか「ここまで減はらしたのも作戦の1つと思い込ませておけば、向こうも動揺するに違いないわ・・・！」

うらら「いくら2人でも、暗闇に隠れる事は出来ない訳だし・・・姿さえ見つけられれば・・・いた！」

うららが誰かを見つけ、確保へと動く。見つかったのは・・・

祈里「来たっ！」

祈里だ・・・

ゲーム終了まで 3分

一目散に逃げる祈里。それを追ううらら。

うらら「いい加減捕まって下さい！」

祈里「絶対ヤダ！ここまで残ってて、捕まりたくない！」

その声に反応し、ちかくにいたかれんも動き出す。

かれん「誰か追われてる・・・！」

逃げ続ける祈里。しかし、突然視界にかれんの姿・・・

祈里「わっ！」

かれん「絶対逃がさないわよ！」

方向転換し、尚も逃げ続ける。

祈里「は・・・速い・・・！かれんさん、意外に速い・・・！」

しかし、かれんとの差はどんどん縮まっていく。更に、逃げた先にはほのかの姿・・・

祈里「うわっ・・・！ほのかさんまで・・・！」

ほのか「往生際が悪いわね、祈里さん！」

長い距離を走った挙げ句3人に追われる羽目に・・・

そして、意外にも俊足なほのかの実力の前には手も足も出ず・・・

最早、逃走不可能・・・

祈里「もうダメ・・・」 ポンッ

残り時間2分21秒 山吹祈里確保 逃走者残り1人

祈里「嘘・・・あと2分と少し・・・？逃げ切り目前だったのに・・・」

くるみ「おっ！『雪城のほのかの活躍により、山吹祈里確保』！」

いつき「『逃走者残るは夏木りんのみ』！あと1人だ！」

りん「嘘でしょ！？祈里捕まった！？ヤバい、残ってんのあたしだけだ・・・！どうしよう、マジで怖くなってきた・・・！」

エリアにいる牢獄者は5人。標的は・・・りんただ1人・・・

ゲーム終了まで 2分

りん「あと120秒・・・！今までの人生の中で、1番長く感じられる120秒になりそうだな・・・！きつ過ぎる・・・！」

かれん「もうあとはりんを残すだけね！」

くるみ「1番厄介な人が残ったわね」

いつき「絶対見つけて捕まえる！」

ほのか「全員で一丸となって捕まえましょう！」

「うちら「もう勝ち是目前です！」

気合いを入れ、りんを搜索する5人。しかし、エリアには2体のハンター。動けば見つかる危険が高まる。

りん「見つかったても、あたしの足でなら屹度きつと逃げ切れる・・・！何回もハンターを撒いたんだもの・・・！」

周囲を警戒するりん。

逃げ切れば賞金100万円。捕まれば0円・・・100万円は牢獄者13人につけていかれてしまう。

いつき「ハンターにさえ気を付けていれば、りんには確実に近付ける・・・！」

そのいつきの背後からハンター・・・

いつき「ん？ハンターだ！」

しかし、ハンターはいつきに気付いていない。

いつき「ハンターが1番厄介だよ・・・！」

思う様に動けない。

「うちら「ひかりが捕まえられたんだもん。私にだって出来る・・・！」

うららが向かう先に、いつきが見たのとは別のハンター・・・

うらら「1年生だって、捨て駒じゃないんだって事を・・・っていたー！」

今度は見つかった・・・

うらら「来ないでー！」

一目散に逃げるうらら。曲がり角を利用し、ハンターの視界から消えた様だ。

うらら「りんさん何処だろう？」

ゲーム終了まで 1分30秒

りん「何回か叫び声が聞こえるのに、全くメールが来ないんだけど・・・撒いてるって事だよな？ハンター何やってんだよ・・・！1人でも多く捕まえて、あたしを逃げ切らしてよ・・・！まだ90秒も残ってるんだよ・・・？」

かれん「あとはエリアの隅だけね。ここに絶対いる・・・！」

己の直感を信じ、エリアの隅へと向かうかれん。

しかし、向かう先にハンター・・・

かれん「5人で一気に囲んで、逃げ道を無くす。こうすれば、俊足のりんも・・・って何でこんな時に!？」

見つかった・・・

一目散に逃げるかれん。直線勝負だ・・・

かれん「いやっ！止めて！」

しかし、直線勝負でかれんがハンターに敵う訳が無い。最早、逃走不可能・・・

かれん「いやあゝっ！」 ポンッ

残り時間1分16秒 水無月かれん確保 牢獄者残り4人

かれん「あと70秒って時に・・・？もう残りの4人に託すしか無いわね・・・」

うらら「えっ！？かれんさん捕まった・・・！」

くるみ「また足速い人じゃない・・・！」

いつき「不味い・・・！本当に危機的状況になってきた・・・！」

ほのか「もう時間無いわ・・・！」

りん「あと4人・・・残ってるの誰だ？怒涛の様にメールが来たから分かんなくなっちゃったよ・・・！」

互いに焦りを隠せないりんと牢獄者4人。

ゲーム終了まで 1分

りん「あと1分・・・！よしっ、あと60秒・・・！」

いつき「絶対この筈はずなんだよ・・・！」

いつきが向かう先にりんの姿・・・

いつき「いた！」

りん「ん？うわっ！いつきかよ！」

いつきに気付き、一目散に逃げるりん。

彼女が逃げる先に、くるみの姿・・・

くるみ「あっ！見つけたわよ、りん！」

りん「嘘だ！くるみも残ってた！？」

方向転換し、更に逃げるりん。

しかし、彼女は更にほのかにまで見つけた・・・

ほのか「りんさん！賞金は私達がもらうわ！」

りん「そんな事絶対させないですよ！」

3人に追われるりん。自慢の足を活かし、全員との距離を広げる。

ほのか「何、あの異常なまでの俊足・・・！？」

くるみ「全然追いつけない・・・！」

いつき「先回りして、うらががこっちに引き付けるのを待つしかない・・・！」

ゲーム終了まで 30秒

りん「よしっ、諦めた・・・！」

足を止めるりん。しかし、背後からうらがが接近・・・

りん「あと25秒だ・・・！もう大丈夫・・・じゃないじゃん！」

見つかった・・・

うらが「逃がしませんよ！」

りん「ヤバい・・・！スタミナが切れそう・・・！」

りん、このまま逃げ切れるのか。

ゲーム終了まで 20秒

一目散に逃げるりん。向かう先にハンター・・・

うらが「ええ！？ハンター！？！」

ハンターに見つかり、今度はうらがが逃げる。りんは助かった・・・

りん「良かった、ハンター来て・・・あと14秒だ・・・！」

その間、うらはは運良くハンターから逃げ延びた。

うらは「皆さん、りんさんを捕まえられたんでしょうか？」

ゲーム終了まで 10秒

りん「ヨッシャ・・・！もう大丈夫だ・・・！6・・・！5・・・！4・・・！3・・・！2・・・！1・・・！」

ゲーム終了

夏木りん 逃走成功 100万円獲得

りん「よーし！逃げ切ったぞー！100万円獲ったぞー！」

そして、暫くしてりんが牢獄しほくに到着。

最後まで残っていたりん以外の4人は、確保された者達と一緒に牢獄の中に入れられていた。

のぞみ「りんちゃんおめでとうー！」

祈里「りんちゃんなら逃げれるって・・・私、信じてた！」

りん「でも、最後の1分は緊張しっ放しだったよ……！」

いつき「そりゃあ、こっちだってお金欲しいもん」

くるみ「目の色変えて捕まえに行くに決まってるでしょ？」

こまち「それにしても、りんさんは140分も逃げた事になるんでしょ？」

なぎさ「すごい事だよ？中学生が140分って……」

えりか「前人未到の大記録を樹立したって事だね」

りん「大袈裟おおげさだよ、えりか」

咲「にしてもさ、オープニングゲームでハンター出した人が完全逃走成功するなんて、本当にすごいと思うよ」

ひかり「運もりんさんに味方したんでしょうね」

そして、逃走成功したりんは牢獄前の箱の南京錠を解き、中の72万円の札束と28万円の札束 合計100万円 を手に取った。

りん「賞金100万円獲ったぞー！」

牢獄の者達「おめでとうー！」

その頃、その様子をモニター越しに見ていた謎の存在・・・

突然、画面が切り替わる・・・

そこには、今回の逃走中で姿を現さなかった「Hunter02 NN」のデータが・・・

このハンターは長い間、逃走中から姿を消していた・・・それが今になって何故・・・

すると、データを元にハンターが復元される様子が映し出される・・・

そして、「Hunter02 NN」の姿が明確になると、画面に「Restore Complete」の文字が・・・

更に画面が切り替わると、「変更を保存しますか？」の文字・・・

謎の存在は、何の躊躇^{ためらい}も無く「Yes」を選択した・・・

本当にゲーム終了！（後書き）

本編はいかがでしたか？

あまりいい出来ではなかったと思いますが、楽しんでもらえたでしょうか？

次回からは、4回に分けてDVDにもある未公開シーンを書こうと思います。

乞うご期待下さい

そう言えば、来年のプリキュアの情報が出回ってるみたいですよ？

タイトルが「スイートプリキュア」と言って、何でも音楽が関係してるんだとか・・・

「おじゃ魔女どれみ」みたいな事にならなければいいけど・・・

未公開シーン？ 下見中（前書き）

欲望渦巻く港町・・・戦いを前に何処を彷徨^{さまよう}う・・・？

未公開シーン？ 下見中

1番目に鎖を引き抜いた舞。

舞「オープニングからあんな事になって・・・不吉な予感しかしないんだけど・・・はあ、それにしても夏本番ね。すごい暑い・・・！早速水飲みたくなるほどよ、この茹^うだる様な暑さは」

舞は支給されたペットボトルの水を一口飲む。

舞「いっぱい人がいて楽しそう。私の知ってる人達も何人か来てるのかしら？一寸探^{ちよつと}してみたい気持ちもあるけど・・・いつゲームが始まるか分からないし・・・こんな楽しい所、恐怖に怯^{おび}えながら来るもんじゃないわね・・・」

2番目に鎖を引き抜いたうらら。

うらら「港の方にある堤防からエリアを見とくつてのも手だよね」

港から一望する作戦の様だ。しかし・・・

うらら「一寸行^{ちよつと}つてみよう」

男「こらっ！何だ君は！？」

うらら「ええっ！？」

港へと続く一本道を通せんぼする2人の男・・・

うらら「わ・・・私はただ港へ行きたいだけなんですよ！」

男「ここから先は、訳があつて関係者以外は立ち入り禁止なんだ」

うらら「な・・・何なんですか？その訳って・・・」

男「兎に角、ここから先は行けないから！ほらっ！あっち行つた！」

門前払いを受ける・・・

うらら「港に入れないってどういう事？だって、自首の為の船つて港にあるんでしょ？乗れないじゃん、港に入れなかつたら・・・はあ・・・作戦変更だね」

4番目に鎖を引き抜いたえりか。

えりか「あつ・・・舞だ」

下見の途中、舞と遭遇。

えりか「舞！」

舞「えりかさん？」

えりか「作戦立てたの？」

舞「一応ね」

えりか「どんな感じ？」

2人は地図を見せ合う。

舞「とりあえず最初は、漁協とかがある所にいようかなと思ってるのよ」

えりか「何で？」

舞「ハンターって兎に角足が速いから、絶対直線勝負じゃ勝ち目が無いでしょ？だから、この辺の入り組んだ道にいれば、ハンターに追い掛けられたとしても曲がり角を使つて撒ける筈だから・・・」

えりか「でも、あたしが見た中ではそういう事を考えてると、逆に早く捕まる感じなんだよね。ハンターが2体とかで来て挟み撃ちされるって事もあるし・・・目の前の曲がり角の先から突然現れたら、もう逃げられないよ。それに、ハンターに気付かれないでハンターを見つけれられる所じゃないと、結構不利だと思うんだよ」

舞「でも、そんな都合のいい場所なんて殆ど無いわよ？」

えりか「まあ、基本死角から追い掛けられなければ大丈夫だよ。土地勘がある事も相当な武器になる筈だよ」

舞「それは分かるけど・・・作戦つて殆ど役に立たないって事が多々あるから、それが心配なのよね・・・」

えりか「そういうもんだよ、世の中・・・兎に角さ、絶対逃げ切ろうね！」

舞「ええ！絶対逃げ切りましょう！」

2人は別れる。

6番目に鎖を引き抜いたなぎさ。

なぎさ「しかし暑いな。この暑さの中120分だよ？実際でも無かった事でしょ？これ逃げ切ったら、相当豪い事になるよ」

汗を拭いながら、なぎさはビーチへと向かう。

なぎさ「ビーチ結構広いな。エリアの半分ぐらいがビーチじゃない？半分も無いか。うわあすごい！すごい人の数！絶対楽しいだろうな。普通に海水浴でここに来たかったな。何で選り選り選って逃走中なんだろう？」

ビーチではダイバー達も大勢いる。

なぎさ「あの人達、これからダイビングに行くのかな？ほら、いっぱいタンクが置いてある。こんなに未使用のタンクがあるの？相当繁盛してるんだろうね、このビーチ。潮風が気持ちいいな。って観光に来たんじゃないよ、あたしは。ゲームに集中。！」

3番目に鎖を引き抜いたラブ。

ラブ「港の近くにしよう。港にある遊覧船に、このチケットを渡して乗れば自首が成立するんだから、あんまり離れない方がいいね」

港の近くに身を潜める事にした様だ。

そこへ、うららが通り掛かる。

うらら「あれ？ラブさん、そこで何してるんですか？」

ラブ「何って見れば分かるでしょ？隠れてるんだよ」

うらら「ちゃんと下見した方がいいですよ？自分が何処にいるのか分からなくなるのが落ちですよ？」

ラブ「あたし、50万円になったら自首するつもりだからさ。だから別に下見する必要無いもん。ここに隠れてれば、勝手にお金が増えてって、すぐに自首に行けるからさ」

うらら「さっき私、港の方からエリアを見とこうと思って行っただけですけど、訳があつて関係者以外は港には入れないって言ってた」

ラブ「えっ？また・・・遊覧船が港にあるんだよ？一般客が入れない訳無いじゃない。チケットさえ見せれば入れるんじゃないの？」

うらら「それだったら確かに辻褄つじつまは合いますけど・・・というかラブさん。あなたさっき50万円で自首するって言いませんでした？」

ラブ「言ったよ」

うらら「ダメですよ、そんな図々うぬぬしい事考えたら！無欲だっと思われますよ？」

ラブ「無欲でいいんだよ。人間はね、欲を出したら罰が当たるもんなんだよ。それにさ、あたし達は一般人な訳だから、50万円ももらえれば十分じゃん」

うらら「でも多分、他の皆さんは逃げ切りを狙ってると思いますよ？だからせめて、嘘でもいいので、ラブさんも逃げ切るって言ってもらわないと……」

ラブ「まあ……そりゃあ50万円より72万円の方が全然いいよ？逃げ切れば、それだけ達成感もあるだろうし……でも自首だつて正当な手段だと思うよ、あたしは。逃げ切れないと踏んだ時の最終手段なんだから……」

うらら「そう言われると、否定出来ませんね……でも、獲るって決めたからには絶対獲らないとダメですよ？」

ラブ「分かってるって。あたしだって、それぐらいの事は分かってるよ」

うらら「じゃあ、お互い出せる気力を出し切って頑張りましょう！」

ラブ「うん！」

未公開シーン？ 下見中（後書き）

次回は反省中

確保された逃走者達の嘆きコメントに注目せよ！

未公開シーン？ 反省中（前書き）

ハンターに捕らわれた、哀れな逃走者達・・・

未公開シーン？ 反省中

日向 咲編

咲「ハンターのあの速さ……一体何なの……！？反則ものでしょ……！そんなに近くで見つかってなかったから、こっちは何回も曲がり角を使って撒こうとしてたのに、パツと振り向いたらすぐ目の前にいたよ……！あんなに速いもん……！？テレビで見てたのと桁違^{けた}いじゃん……！この様子じゃあ……なぎささんとか……りんとか美希とかいつきとか……運動神経いい人皆捕まっちゃうだろうな……ていうか、一寸待つてよ……10分も経たずに捕まっちゃってるよ、私……これさ……ソフトボール部のエースの名に傷が付くよ……1回捕まったら終わりだもんな、逃走中って……はあ、マジで悔しい……！もう1回だけチャンスがあればな……！」

水無月かれん編

かれん「運が無いにも程があるわ……何で逃げた先にもハンターがいるのよ……？こんな炎天下で休みもしないで、どうやって逃げろって言うのよ……？折角^{せつかく}の水が台無しだわ……はあ……もうあとは……牢獄でこのゲームが終わるのを傍観し続けるしかないものね……」

2回目

かれん「3分半……！？70万円……！？ここまで積み上げて

た70万円が、一瞬にして飛んでった……！ええ……！？最後の望みの敗者復活に勝ち残って……ボトムのクローンも浄化して……ゲーム終了が目前という時に……ハンターに挟まれた……最初の時もそうだったわね、2体で追い掛けられて……こういう運命が付きまといつてゐるのかしら、私には……？もう少しだったのに……

明堂院いつき編

いつき「捕まった……あの足の速さ……まともに走って勝てる訳無いよ……！別のルート通つてれば良かったな……こつちだったらね、ハンターに見つかつても入り組んだ道を使つて撒ける可能性があつた訳だし……鉢合わせだったもんね……悔しいな……今まで感じた事の無い悔しさ……何だろう……？ボクの人生の中で、3本の指に入るほどかな……？兎に角悔しい……！また機会があつたら、参加したいな……面白いよ、逃走中……何回出ても飽き足らないと思うな……」

蒼乃美希編

美希「嘘……！？何にもしないで捕まってる……！こまちさんと協力してミッションやりたかつたのに……何て言うか……さつきの3人にも悪い事してるわね、あたし……多分あの3人で、6人家族のをやりに行こうとした筈はずなのよ……逃げる様に言つたから、散り散りになつちゃって……何処まであたしって最悪なの……？ああもう……！情けない自分にイライラしてきた……」

・！ホント悔しい・・・！」

雪城ほのか編

ほのか「ああ・・・タンクは重いし・・・ハンター2体に挟まれ
たし・・・こんな2重の苦しみなんて過去あった・・・？何で空な
のに、あんなに重い・・・？このミッションは手を出すんじゃない
かったわね・・・力のある人に任せとけば良かったわね・・・それ
にしても、このエリアすごい暑いわ・・・！まるで常夏の南の島じ
やない・・・こんな暑い中であんなタンクを運ばせるなんて・・・
熱中症になって下さいって言ってる様なもんじゃない・・・！私達
が中学生だって事を、一寸は考えてほしいわ・・・」

美墨なぎさ編

なぎさ「すぐそこだったのに、充填所じゅうていじょ・・・！というか・・・あ
たし、心の何処かに隙があった感じだよね・・・？充填所じゅうていじょ着いた、
良かった！みたいな・・・ミッション成功目前だからって安心し切
ってる様じゃ、あたしもダメだね・・・目的を達成するまで、ちゃ
んと気を引き締めなきゃいけなかったね・・・もう終わりだもんな
・・・折角目せっかく立てるチャンスだったのにな・・・これ、復活な
んであるのかな・・・？もし復活出来るんだったら復活したいけ
どさ・・・」

2回目

なぎさ「今度はミツシヨンにも辿り着けなかった．．．！くそ．．．
・！一寸待つてゝ．．．あたし、敗者復活1位で抜けたんだよ．．．
？2位のつぼみがさつき捕まって．．．敗者復活のワンツーフィニ
ッシュを飾った2人が．．．ワンツーで確保されてさ．．．何これ．
．．．？こんな事絶対ありえない．．．！牢獄があたしとつぼみが
落ち着く場所だと思われちゃうじゃ〜ん．．．！」

秋元こまち編

こまち「でも．．．あんな事って起こり得るものなの．．．？振り
向いたら目の前にハンターいるなんて．．．私、別に足が竦んだ訳
でもないのに、1歩も動けなかったのよ．．．？何か．．．金縛り
みたいな感覚になって、気が付いたら確保されてたっていう感じ．
．でもいいわ．．．いろいろなミツシヨンにも参加出来たし．．．
逃走中の面白さもこの身を持って実感出来たし．．．こういう経験
が出来た事に感謝しないとね．．．」

桃園ラブ編

ラブ「ハンター酷過ぎでしょ．．．？ハンターってさ、視界に捉え
た人を見失うまで追うんでしょ．．．？完全にのぞみを狙ってたじ
やん．．．！何で突然あたしを狙うんだって言いたいよ．．．はあ．
．．．しかもさ、タイマーが狂って．．．いつまで経っても50万円
に届かないんだもん．．．！これタイミングがもう少し早かったら、
自首出来てたな〜．．．50万円行かないにしても、あの時自首し
てればいくらかは生活の足しに出来てた筈だもんね〜．．．ああも

うゝ、マジで悔しいゝ．．．！こんなに捕まる事が悔しいなんて．．
」

来海えりか編

えりか「くそゝ．．．！ここまで残ったのにゝ．．．！お金がパーだよゝ．．．！あのまますぐに自首すれば良かったなゝゝ．．金に目が眩んだかゝ．．．でも、皆考えてそうだよね自首ゝ．．だってもう50万円じゃんゝ．．．？一般人の、しかも中学生からすれば50万円もらえればすごい方だよゝ．．まあ、それ以前に逃げ切る事を目標にしてる人が多いんだろうけどねゝ．．はあゝ．．．」

美々野くるみ編

くるみ「こんなの絶対逃げ切れる訳無いじゃないゝ．．．！この狭さで7体とかふざけてるでしょゝ．．．？最悪ゝ．．．のぞみに巻き添え食らったゝ．．．あんな偽善者からゝ．．．普通ハンター連れて他人まで巻き込むゝ．．．？連れてきた人が捕まれば、全部丸く収まるのにさゝゝ．．．何で善良な私が見放されるのゝ．．．？ここまで来たら、絶対逃げ切ろうと思った矢先にゝ．．．運が私の許から離れていった感じゝ．．．また出る機会があつたら、その時は絶対に逃げ切りたいゝ．．．！運も一緒に味方してゝ．．．！」

未公開シーン？ 反省中（後書き）

次回は獲得中

賞金を獲得した逃走者達の喜びのコメントに注目せよ！

そう言えば、23日の放送ではオープニングゲームが新しくなるそうですよ。

どんな物になるのか非常に気になります。

未公開シーン？ 獲得中（前書き）

港町に愛された勇者達・・・

未公開シーン？ 獲得中

正規ステージ

夢原のぞみ編

のぞみ「2・・・1・・・0！終わった！ええ！？逃げた！？私逃げ切った！？やった！逃げた！すごい！まさか逃げ切れるなんて・・・全然運動出来ないのに・・・まだ実感湧かないや・・・ホントに！？嬉しい！こんなに嬉しかった事、今まであった？こんなに達成感がある事なんて今までしてきた？いや、やれば出来るもんなんだね！絶対最初の10分ぐらいで捕まっちゃうかと思ってたけど・・・120分間逃げたよ、私！しかも72万円！こんなにすごいお金を持って帰れるんだよ！？よし！このお金で、お父さんとお母さんに親孝行するぞ！けっ！いい！」

山吹祈里編

祈里「2・・・1・・・0！逃げた！ホントに逃げた！すごい！逃げ切った！嬉しい！あそこに・・・すぐそこにハンターがいたよ・・・！良かった、気付かれなくて・・・！ハンターが7体が増えたから、もう無理だと思ってたけど・・・やっぱりあれかな？ミッシヨンを積極的にやったからかな？のぞみちゃんもりんちゃんも逃げ切ってるもんね？やっぱりそうだよ・・・！怖がって何もしなかったら、絶対罰当たってたよ・・・！ミッシヨン出来た事も嬉しいけ

ど、逃げ切った事は特に嬉しい！面白いな、やっぱり逃走中って・
・出て良かった・・・！頑張った分の報いがあつたよ・・・！こ
の喜び、一刻も早く親に伝えたいな・・・！絶対喜んでくれる筈・
・！」

秋元こまち編

こまち「2・・・1・・・0！嘘！？ホントに！？ホントに終わり
！？ええ？復活枠で逃げ切ったの、私？ホントに？ホントに終わっ
たのね・・・！嬉しい・・・！でも私、100分ぐらいしか逃げ
てないのよ？それで72万円持って帰っていいの？私、1回ハンタ
ーに捕まってるのよ？ホントにいいの？一緒に復活したのに、結局
捕まった3人に申し訳ない様な・・・いいんだたら、有無を言わ
さず持って帰るわ・・・！それで、72万円で家族で旅行に行きた
いわ・・・汗水流して得られたお金だもの・・・！屹度お姉ちゃん
も喜んでくれるわ・・・！逃走中ってホントに楽しいものね・・・
！機会があつたら、いつでも出てみたい・・・そう感じさせるゲ
ムだったわ・・・！有難う御座いました・・・！」

美翔 舞編

舞「2・・・1・・・0！終わった！逃げた！すごい！敗者復
活枠での逃走成功！嬉しい！途中で200体のハンターに囲まれ
て捕まった時は、もうダメだと思ったもの・・・！でも、このハン
ター除けスプレーが・・・私を助けてくれた・・・！これのお陰で、
私はこうやって逃げ切った！これをくれた力オルちゃんにも感謝し

ないといけないし、いろいろと私の手助けをしてくれたポセイドンさんにも感謝しないと・・・！感謝の心は絶対に忘れちゃいけないから・・・72万円を持って帰る前に、2人に感謝したいわ・・・！2人のお陰で私は逃げ切つて、72万円獲得出来た！そしてそのお金は、2人への感謝を忘れずに、大事に使いたいわ！」

ポースステージ

夏木りん編

りん「逃げたぞー！滅茶苦茶緊張した・・・！心臓に悪過ぎるよ、このポースゲーム・・・！何処まで追い掛けてくるもんだから・・・でも逃げ切ったぞ！マジで嬉しい！さっきの120分間逃げ切った時の何倍も嬉しい！ヤバイ・・・！恐怖からなのか疲労からなのか分かんないけど・・・もう足の震えが止まんないよ・・・！正直言うと、始まって8分ぐらい経ってから咲が捕まった時、あたしも近いうちに捕まるんじゃないかって思ってたんだよね・・・ハンターの速さが尋常じゃない事は知ってたけど、咲が捕まった時はまさかと思つたから・・・でもこうやって逃げ切ってる自分がいる訳だから、胸張つて帰れるね・・・！捕まったら、家族にもフットサルのチームメートにも悪いからさ・・・100万円か・・・宝くじでも当たんなかったよ、そんな金額・・・！いやもう、多額のお金を獲った事よりも、合計140分間最後まで逃げ切った事が何よりも嬉しい・・・！1回牢獄に行かなきゃいけないでしょ？大丈夫かな・・・？牢獄代表の皆から野次飛ばされないかな・・・？それだけが心配・・・」

未公開シーン？ 獲得中（後書き）

今回は牢獄中

これで遂に完結！

牢獄内で、敗者達は何を語ったのか！？

23日の逃走中のオープニングゲーム、新しくした事が吉と出るのか凶と出るのか・・・

何はともあれ、18人の逃走者達の活躍に期待大です

自分は、前回と前々回同様に全滅となって終わると予想・・・

未公開シーン？ 牢獄中（前書き）

戦いに敗れた逃走者達・・・その思いは・・・？

未公開シーン？ 牢獄中

最初に捕まり、牢獄前に現れたのはつぼみ。

つぼみ「これが牢獄・・・門番みたいな人がいないって事は、自分で入って事・・・？酷過ぎる・・・」

愚痴を零しながら、つぼみは入獄する。

つぼみ「自分で扉開けて、自分で中に入って、自分で閉めて・・・もうヤダ・・・悲し過ぎる・・・」

暫くして、メールが届いた。

つぼみ「メール・・・『花咲つぼみ確保、残り17人』・・・何で本人にも送ってくる訳！？そんな事言われなくなっただけ分かってるってば！何この、ぞんざいな扱い・・・！もう・・・帰ったら絶対皆に笑われる・・・」

その約10分後、咲が牢獄前に現れた。

つぼみ「あれ？咲さん？捕まっただんですか？」

咲「この表情でここに来てんだもん・・・捕まっただけに決まってるじゃない・・・て言つかさ、メールで見たでしょ？」

つぼみ「だって、まさかソフトボール部のエースの咲さんがこんな早くに捕まる訳無いと思って・・・」

咲「まあ、私だって10分も経たずに終わるなんて思ってたぐらいだから・・・ホントにさ、ハンター速過ぎだよ・・・全然振り切れなかったもん、50m8秒を切って走れる私が・・・」

そう言いながら、咲は入獄する。

つぼみ「咲さんも相当速いですね・・・」

咲「でもりんは50m6秒切ってるって言ってたからさ・・・」

つぼみ「いつきも、確か50mは7.5秒くらいで走れるって言うてました・・・」

咲「でもハンターは、絶対それよりも速いよね・・・じゃなかったら、私なんかこんな早くに捕まる訳無いもん・・・多分、りんもいつきもすぐ捕まると思う・・・」

つぼみ「確かにこの逃走中は、足が速いだけじゃ逃げ切りは出来ないうって言うくらいですからね・・・」

更に、かれん・せつな・いつき・美希・うらが入獄。その後、2つ目のミッションが届いた。

かれん「ミッション2・・・!」

うらが「もう2つ目来たんですか?」

咲「ミッション来るペース早くない?」

かれん「『ビーチにスタッフが回収しなかった5本の空タンクがあ

る『・・・』

美希「空タンク・・・？あつ！さっきビーチの隅の方で見たあれの事ね・・・！」

かれん「『残り60分までに、全ての空タンクを充填所じゅうてんに運ばなければ、コンプレッサーが停止してしまい、ゲーム時間が30分間延長されてしまう』・・・」

いつき「30分！？延長され過ぎだよ・・・！」

つぼみ「失敗したら、残り90分になるって事ですか！？」

いつき「おまけに、賞金も減らされちゃうみたいだし・・・！」

せつな「でもダイビング用のタンクって、すごく重いつて聞いた事がある・・・多分ラブはやらないわね・・・」

美希「ラブ、重労働嫌いだからね・・・」

うらら「くるみさん、怖い時間延ばしたくないってやるんじゃないでしょうか？」

かれん「絶対やらないわよ・・・！そんな事をする偽善者になりたくないし、そんな人と関わりたくないって何度も言ってたから・・・」

咲「くるみ酷いな・・・ミッションやる人を偽善者だつて・・・」

せつな「このゲームを利用して、好感度良く映りたがってる様に見

えてるのかもね・・・」

うらら「でも、そういうのって何か悲しいですよ・・・人をそんな風にしか見れないなんて・・・」

いつき「そうなるとき、さっきのミッションクリアした人が捕まるって捉えられるよね・・・」

つぼみ「恩を仇で返されるみたいなの・・・」

美希「でも実際、こうやってミッションをやりに行こうとした人ばかりが捕まってるのよね・・・かと言って、くるみの偽善者発言は流石に賛成出来ないわ・・・」

咲「ホントだね、最低だよね・・・ミッションクリアした事で恩恵受けてるのに・・・そんな事言ってたってなれば捕まってほしいよ、くるみには・・・」

せつな「でもそういうあくどい人ほど、結構長い時間残る事が多いからね・・・多分そう簡単には捕まらないと思うわ・・・」

その数分後、牢獄の者達はタンクを運んでいるなぎさを見つけた。

つぼみ「あれ？あれってなぎささんじゃないですか？」

美希「ホントだ・・・」

かれん「タンク運んでるわ・・・！」

うらら「見た感じ、結構重そうですね・・・ひかりとか絶対1人じ

や持てないでしょ？」

せつな「ブッキーも、若^もしかしたら持てないかも・・・」

いつき「あれでハンターに見つかったら最悪でしょ？タンク手放して逃げないと・・・」

咲「見つかりやすいもんね・・・動きがゆっくりになってるし、見通し良過ぎるし・・・」

更に、ほのかが入獄した後、タンクを運ぶのぞみの姿を捉えた。

うらら「あっ！のぞみさん！」

咲「嘘！？のぞみがタンク運んでるよ・・・！」

せつな「すごいわね、のぞみも・・・！」

かれん「危険を顧^{かえり}みずにミッションに挑む勇姿・・・のぞみにぴったりの言葉ね・・・！」

ほのか「まさかとは思っけど・・・あれって、私が運んでた物じゃない？」

美希「そうなんですか？」

ほのか「断定は出来ないけどね・・・可能性があるってだけで・・・」

つぼみ「じゃあ、ほのかさんはタンクを運んでいてハンターに見つ

かつて捕まっただって事ですか？」

ほのか「恥ずかしいけど、そういう事になるわ・・・何しろ2体で追い掛けられたから・・・」

いつき「2体はきついですよ・・・ボクも2体で追い掛けられて捕まりましたから・・・」

咲「捕まっちゃうかな、のぞみ・・・？のぞみにとっては、かなりの身体的ストレスが掛かると思うんだけど・・・」

美希「水分補給の為の水があるから大丈夫だと思うけど・・・」

ほのか「絶対500mlじゃ間に合わないと思うわ・・・私のだって、見た感じ200mlも残ってないもの・・・」

せつな「大丈夫かしら・・・？」

かれん「大丈夫な事を祈るしかないわよ・・・私達にはそれしか出来ないんだから・・・」

その後、なぎさ・こまち・ひかりが入獄。そして、牢獄の11人に昼食の弁当が支給された。

ひかり「いいんですか？私達が食べても？」

こまち「実際の逃走中でも、こんな事無かったわよ？」

なぎさ「でも、そろそろお腹も空く頃だし・・・いいんじゃない？そんな事よりさ、早く食べようよ！」

ほのか「そうね」

11人は弁当のふたを開ける。しかし・・・

美希「な・・・何これ・・・!？」

ほのか「これは・・・弁当というより・・・」

つぼみ「生ゴミの詰め合わせ・・・!？」

支給された弁当には仕切りが無く、中が生ゴミの様にぐちゃぐちゃになっていた。

せつな「しかも・・・大きさの割には・・・」

こまち「量が少な過ぎる・・・!」

いつき「半人前というより・・・」

ひかり「4分の1人分にも満たない・・・!」

かれん「屈辱ね・・・」

嫌々ながらも彼女達は弁当を口にする。しかし、その味は想像を絶するほどの不味さ・・・

咲「っ・・・!な・・・何だよこれ・・・見た目以上に不味いんだけど・・・こんなの食べられないよ・・・」

うすら「しかも、こんな少ないんじゃないやお腹いっぱいになりませんよ
く・・・折角せつかく楽しみにしてたのにく・・・」

なぎさ「いくら敗者だからって、この扱いは無いよ・・・ぞんざい過ぎる・・・ありえない・・・!」

それから暫く時間ひまが経ち、日も傾き始めた時、牢獄の者達は一斉に帰っていく観光客達を見ていた。

咲「観光客が皆帰ってくよ」

いつき「帰ってくと言う割には不自然な動きだよね?」

美希「何かから逃げてる感じ・・・」

こまち「一体どうしたのかしら?」

なぎさ「あたし・・・嫌な予感しかしないんだけど・・・」

うすら「えっ?何ですか、なぎささん?」

なぎさ「だってさ、お客さんが帰るんだったらさ、ダイビング関係のお店のスタッフの人達とかが後片付けする為にビーチの方に行く筈はずなのに、スタッフの人も同じ方向に走ってるんだもん・・・」

ほのか「確かに、皆ビーチから離れる様に走ってるわ・・・」

ひかり「ビーチの方で何があったんでしょうか?」

せつな「確認したいのに出来ない・・・!ホントにもどかしい・・・」

「！」

つぼみ「生き残ってる皆さんは、どうするのでしょうか？」

かれん「いくら大事件とは言えど、このゲームは中断出来ないし・
・メールが来れば、何か分かるかも・・・」

その後、逃走劇の舞台をとある島アイランドに移した。そして、えりかが入獄した後、敗者復活をワンツーフイニッシュした2人が再び牢獄へやって来た。

美希「あっ・・・来た」

えりか「つぼみとなぎささん？」

ラブ「2人とも！全っ然意味無いじゃん！」

いつき「しかも復活ゲーム1位2位の2人がだよ!？」

うつら「いくら何でも酷過ぎます!」

ほか「自分達の立場分かってるの!？」

言われたい放題の2人は、そのまま入獄する。

つぼみ「皆さん！一言だけ言わせて下さい!・・・ゴメンなさい・
・」

なぎさ「不甲斐無さ過ぎました・・・」

えりか「・・・」

ひかり「不甲斐無い以前の問題ですよ！」

咲「2人とも、言わば秒殺じゃん！」

せつな「1位2位で復活した人としてあるまじき事よ!？」

つぼみ「すみませんでした！」

なぎさ「申し訳ありません！」

そして、120分間の正規ステージと20分間のボーナスステージが終了。りん以外の17人が入獄した後、完全逃走成功を果たしたりんが牢獄前に姿を現した。

りん「逃げ切った〜！」

のぞみ「りんちゃんおめでと〜！」

祈里「りんちゃんなら逃げれるって・・・私、信じてた！」

りん「自分でも、まさか逃げ切れるとは思わなかった・・・!でも、最後の1分は緊張しっ放しだったよ・・・!」

いつき「そりゃあ、こっちだってお金欲しいもん」

くるみ「目の色変えて捕まえに行くに決まってるでしょ?」

こまち「それにしても、りんさんは140分も逃げた事になるんで

しょ？」

なぎさ「すごい事だよ？中学生が140分って・・・」

えりか「前人未到の大記録を樹立したって事だね」

りん「大袈裟おおげさだよ、えりか」

咲「にしてもさ、オープニングゲームでハンター出した人が完全逃走成功するなんて、本当にすごいと思うよ」

ひかり「運もりんさんに味方したんでしょっね」

舞「こんな事、絶対りんさんにしか成し得ない事よ？」

りん「舞まで・・・あたし、若もしかしたらゲーム時間の半分も経たない内に確保されるんじゃないかっていうネガティブ思考が、心の何処かにあったんだよ、ホントの事言っと・・・でも、このゲームやって分かった・・・！ネガティブになってたら、何も出来ない・・・！積極的にならないと、後で痛い目に遭う・・・！そんなもんだね・・・」

せつな「ハンター怖くなかった？」

りん「あのね・・・あたしがホラー嫌いなもの知ってるでしょ？怖くない訳無いじゃない・・・」

つぼみ「どのくらい追い掛けられました？」

りん「覚えてない・・・でも、結構な回数と距離を追い掛けられた

ね・・・」

ほか「旅の話はこのくらいにして・・・それじゃあ、りんさん・・・その箱の中の１００万円を・・・」

りん「あつ、そうでしたね・・・箱の上にあるこの鍵で、南京錠を解くんだ・・・」

逃走成功したりんは牢獄前の箱の南京錠を解き、中の７２万円の札束と２８万円の札束 合計１００万円 を手に取った。

りん「賞金１００万円獲ったぞー！」

牢獄の者達「おめでとうー！」

美希「ところでりん、その１００万円の使い道はどうするの？」

りん「使い道？そうだね・・・やっぱり、家族サービスかな？ゆうとあいにも何か買ってあげたいし・・・」

かれん「家族サービスっていうのは？」

りん「家族で温泉旅行に行くとか・・・親にマッサージチェアを買ってあげるとか・・・」

うらら「アクセサリーの製作費には使わないんですか？」

りん「一寸^{ちよつと}だけそれに注ぎ込もうかなとは思ってる・・・」

なぎさ「兎にも角にも、改めて・・・りん、おめでとうー！」

なぎさ以外の牢獄者「おめでとう！」

りん「有難う御座いましたー！」

未公開シーン？ 牢獄中（後書き）

逃走中第2弾、いかがでしたでしょうか？

未公開シーンも楽しんでもらえたでしょうか？

前回より長く書けて、少しは上達したと思います！

感想をどんどんお待ちしてます！

次回予告

???「ハンターいる・・・！」

???「怖い・・・！」

???「よしっ・・・！もう少しだ・・・！」

某人気ゲームと某人気アニメ・・・決して交わる事の無い者達が、
とある遊園地で恐怖の逃走劇に巻き込まれる！

更に、スマブラからあのメンバー達が再参戦！？

???「今回こそは逃げ切ってやる・・・！」

???「誰なんだよ・・・！？！」

そして、逃走者達に紛れる裏切り者・・・

???「メリーゴランド付近にいます・・・」

???「うわあゝ！」

???「こいつ、もう合計で100万円以上稼いでるの・・・!?!」

???「ハンターからも裏切り者からも逃げ切つてやる・・・!」

その全貌はいかに!?

逃走中in深夜の遊園地

2011年1月頃更新開始!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4811n/>

プリキュアオールスターズ×逃走中～水面に眠る海神～

2011年3月13日13時15分発行